

(二) 入國許可證ハ第一條第三項ニ掲クル者ノ外尙左ニ掲クル者ニハ之レヲ下付セス
賣淫ヲ目的トスル者

外國ニ於テ犯罪人引渡條約ニ基キ引渡サルヘキ犯罪ノ宣告ヲ受ケタル者

蘭領東印度ニ於テ住居スルヲ拒絶セラレタル者

自己及家族ノ生計ヲ相當ニ支持スルコト疑ハシキ者

公安及秩序ニ危険リト認定シタル者

(三) 土人ノ經濟的利益ニ害アリト認めラルル者ノ入國ハ總督ノ規定スル特別ノ條件ノ下ニ之
レヲ許可シ又ハ理由ヲ付セスシテ之レヲ拒絶スルコトヲ得

(四) 本條第一項ノ引換ニ際シ本人ノ妻及未成年ノ子モ亦各許可證ヲ受ク

第五條 (一) 總督ノ指定セル船主又ハ汽船會社ニ屬スル船舶ノ一、二等船客ニ下付セラレタル
上陸許可證ハ同時ニ入國許可證ノ效力ヲ有ス但シ右許可證ニ其旨ヲ記入スヘシ

(二) 上陸官若シ第四條第二、三項ノ規定ニ據リ該船客ノ入國ヲ拒絶スヘシト認定シタルトキ
ハ前項ノ規定ハ其效力ヲ失フ

第六條 (一) 入國許可證ノ正當所有者ハ交通及居住規則ニ遵據シ二年間蘭領東印度ニ在留スル

コトヲ得但シ第十二條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

(二) 前項ノ期間ハ本人ノ願ニヨリ其居住地所轄州長官ニ於テ各々一年ヲ超エサル期間二回之
レヲ延長スルコトヲ得

(三) 延期ノ場合許可證ニ其旨ヲ裏書スルコトヲ要ス

第七條 (一) 移民委員ノ決定ニ對シテハ其地ノ州長官ニ對シ八日以内ニ不服ノ申立ヲ爲スコト
ヲ得

(二) 不服ノ申立ハ右委員ヲ經由スヘク當該委員ハ本人ノ拘置セラレサル場合ニハ州長官ノ決
定ニ據リ假入國許可證ヲ發給スヘシ

第八條 不服ノ申立ニシテ理由アリト認めルトキハ假入國許可證ト引換ニ本入國許可證ヲ交付シ
又ハ單純ニ之レヲ下付ス不服ノ申立ヲ理由ナシト認め又ハ所定ノ期間内ニ不服申立ヲ爲ササル
トキハ州長官ハ書面ヲ以テ蘭領東印度ヨリ退去ヲ命ス

第九條 (一) 第一條第一項ニ掲ケタルモノニシテ有效ナル入國許可證若クハ假入國許可證ヲ所
有セスシテ蘭領東印度内ニ滞在スル者ハ本人居住地ノ州長官ヨリ出頭ヲ命シ第四條ニ依リ許可
證ヲ發給ス

(一) 前項入國許可證發給ニ對シテハ有效ナル上陸許可證ヲ有スル者ハ蘭貨五十盾然ラサル者ハ同百盾ヲ納付セシム但シ右ハ家長ニ發給スル許可證ニ對シテノミ徵收ス

(二) 適法ニ入國ヲ許可セラレタル者ニシテ許可證ヲ失ヒタル旨ヲ説明シ所轄長官ニ於テ正當ト認メタル者ニ對シテハ手数料ヲ徵スルコトナク許可證ノ副本ヲ交付ス

(三) 地方長官ノ決定ニ不服アルトキハ八日以内ニ本人居住地ノ州長官ニ申立ツヘク該長官ハ其事由ヲ審理決定ス

(四) 右不服ノ申立ニシテ理由アリト認ムルトキハ入國許可證ヲ發給ス

(五) 不服ノ申立却下セラルルカ又ハ所定ノ期間内ニ不服ノ申立ヲ爲ササルトキハ本人居住地ノ州長官ハ書面ヲ以テ蘭領東印度ヨリ退去ヲ命ス

右州長官ハ本人ノ請求ニヨリ退去準備ノタメ猶豫期間ヲ與フ

第十條 (一) 第四條、第五條、第八條及第九條ニ據リ入國ヲ許可セラレタル者ニシテ公安及秩序ニ害アリト認メラルル者ニ對シテハ總督ハ入國許可證ヲ取上ケ蘭領東印度ヨリ退去ヲ命ス

(二) 退去準備ノタメ本人ヨリ猶豫期間ヲ請求スルコトヲ得

第十一條 (一) 瓜哇及「マヅラ」ニ居住スル者ニシテ蘭領東印度永住ノ許可ヲ得ントスル者ハ

入國許可證ヲ添附シ本人ノ居住地州長官ヲ經テ總督宛自署セル願書ヲ差出スヘシ

瓜哇、「マヅラ」以外ニ住スル者ハ其居住地所轄地方長官ヲ經テ州長官ニ同様願書ヲ差出スヘシ

(一) 願書ヲ進達スル當該長官ハ入國許可證ニ其實事ヲ記入シ之レヲ出願人ニ返付ス出願人ハ永住證ヲ受クルトキハ入國許可證ヲ該長官ニ返納スヘシ

(二) 願書ニ對スル許可決定アルマテ出願人ハ第六條第一項ノ權利ヲ保有ス

第十二條 (一) 公安及秩序ノタメ出願人カ自己及家族ノ生計ヲ相當ニ維持スル能力ナシト認メラルトキ又ハ入國許可證後刑ノ宣告ヲ受ケタルトキハ永住許可證ヲ下付セサルコトアルヘシ

(二) 永住許可證ノ下付ヲ拒絕シタルトキハ其理由ヲ記載シ同時ニ出願人ニ對シ蘭領東印度ヨリ退去ヲ命スヘシ

(三) 第十條第二項ハ此場合ニ準用ス

第十三條 入國許可證又ハ永住許可證ノ下付ヲ拒絕セラレタル者又ハ之レヲ取上ケラレタル者ハ其居住地ノ地方長官之レニ監視ヲ附シ又ハ留置スルコトヲ得

第十四條 (一) 第二條ノ規定ニ違反スルトキハ一人ニ付蘭貨百盾ノ罰金ヲ課ス

(二) 前項ノ罰金ハ前項ノ旅客ヲ輸送セル船舶ヨリ之レヲ徵收スルコトヲ得

第十五條 (一) 本條例ニ基キ蘭領東印度ヨリ退去ヲ命セラレタル者ニシテ入國許可證又ハ有效ナル假入國許可證ヲ正當ニ所有セスシテ滞在スルトキハ蘭貨百盾以下ノ罰金又ハ三ヶ月以下ノ禁錮(歐洲人ノ場合)又ハ徵役(土人ノ場合)ニ處ス

(二) 前項ハ千九百十一年法令第三百三十八號又ハ千九百十三年法令第四百五十四號ニ基キ蘭領東印度ヨリ退去ヲ命セラレタル者ニシテ有效ナル入國許可證ヲ正當ニ所有セスシテ滞在スル場合ニ適用ス

(三) 前項ノ場合ニハ刑ノ執行後蘭領東印度ヨリ退去ヲ命ス

第十六條 前條ハ他人ノ入國許可證又ハ永住許可證ヲ使用シタルモノニ之レヲ準用ス

第十七條 本令ノ規定ハ之レヲ左記ノ者ニ適用セス

- イ 政府ヨリ派遣セラレタル者及其家族
- ロ 領事館員及其家族
- ハ 各國軍艦ノ士官及水兵
- ニ 商船船長、高級船員及乗組船員但シ著港後又ハ停泊中解備セラルル者ハ此限ニアラス
- ホ 單ニ蘭領東印度ヲ經由シ其航海ヲ繼續スル者但第十八條ノ適用ヲ受ク

第十八條 (一) 第十七條(ホ)項ニ掲クル者ニシテ公安及秩序ニ害アリト認メラルルトキハ總督ハ書面ヲ以テ蘭領東印度ヨリ退去ヲ命ス

(二) 右本人ノ乗船マテ其居所所轄地方長官ハ之レニ監視ヲ附シ又ハ之レヲ拘留スルコトヲ得

第十九條 總督ハ本令規定ノ適用ヲ免除スルコトヲ得

第二十條 (一) 總督ハ本令ノ施行ニ必要ナル細則ヲ規定ス

(二) 總督ハ土人ト同格ナル勞働者ニ關シテハ本令以外ニ別則ヲ設クルコトヲ得

第二項 暫行章程

第一條 (一) 本令ノ施行前和蘭人及外國人入國ニ關スル規程ニ基キ有效ナル入國許可證ヲ有スル者ニハ第一條第一項及第二項ヲ適用セス

(二) 右入國許可證ハ當該規程ニ定メタル期間本令ニ基ク入國許可證ト同一ナル效力ヲ有シ且ツ同様ノ理由及方法ヲ以テ之ニ取上ケタルコトヲ得總督ハ入國許可證ヲ取上ケタル者ニ對シテハ書面ヲ以テ蘭領東印度ヨリ退去ヲ命ス

(三) 第六條第二項及第三項ハ前項期間ニ之レヲ適用ス

第二條 第三條ノ規程ヲ除キ第九條ノ規程ハ左ニ掲クル者ニ之レヲ適用ス

第一條第一項ニ掲ケタル者ニシテ本令施行前ヨリ蘭領東印度ニ在留シ且ツ其後有效ナル入國許可證ヲ所有セサル者

此場合ニハ第九條第一項ニ基キ發給スル入國許可證ニ對シテ蘭貨二十五盾ヲ納付スヘシ
第三條 (一) 條九條ハ左記ノ者ニ適用セス

イ 本令施行際「リオ」州「ブラウ、トウヂユ」區ニ居住シ尙引續キ居住スル者

ロ 第二十條第二項ニ該當セサルモノニシテ本令施行前千八百九十二年法令第三百二十八號ニ據リ入國許可證ヲ要セサル者カ「スマラン」東岸州ニ引續キ住所ヲ有スルトキ

(二) 本人ノ希望ニヨリ第四條ニ據リ入國許可證ノ下付ヲ受クルコトヲ得

(三) 若シ入國許可證ノ下付ヲ受ケサルトキハ第十八條ニ基ク蘭領東印度ヨリ退去ヲ命セラルコトアルヘシ

(四) 第十條第二項及第十八條第二項ハ前項ノ場合ニ之レヲ適用ス

附 則

(一) 本令ハ之レヲ入國令ト稱ス (Toelatingsbesluit)
施行期日ハ總督之レヲ定ム

(二) 本令ハ「タンジョンビナン」及「リンガ」ノ兩區及「スマトラ」沿岸外ニ位スル「リオ」州「カリモン」區ニ於ケル外國亞細亞人ニハ適用セス

(三) 前項ニ掲ケタル地方ニ於ケル外國亞細亞人ノ入國及永住規則ハ必要ニ應シテ總督之レヲ定ム

總督ハ又本令ノ施行前上記以外ノ蘭領東印度ニ住スル外國亞細亞人ノ入國ニ關シ本令以外ニ別則ヲ設クルコトヲ得

第三項 蘭領東印度入國令施行細則(千九百十七年十二月四日附)

蘭領東印度法令第六九三號)

第一條 入國令第一條第一項ニ依ル上陸地ヲ左ノ各港ト定ム

- (Tandjoeprioek) (Semarang) (Serabaya) (Fmahaven) (Palembang) (Djambi) (Pangkajene-Andamane)
- (Tandjoepera) (Belawan Deli) (Tandjoepera) (Bengkalis) (Sabang) (Langsa) (Tandjoeppinang)
- (Poeloe Sumboe) (Muntok) (Tandjoeppandan) (Pontanak) (Singkawang) (Pangkalpinang)
- (Bandjermasin) (Selat-pandjang) (Balikpapan) (Menado) (Makassar) (Soengei Goetong)

第二條 蘭領東印度ニ居住スル者ハ該居住地ノ地方廳長官ニ又蘭領東印度以外ニ在留スル者ハ其

最後居住地ノ地方廳長官ニ出願シテ蘭領東印度永住許可證ノ下付ヲ受クルコトヲ得

第三條 (一) 入國令ニ規定セル上陸官ハ港務長又ハ港務次長若クハ其代理者中ヨリ之ヲ任命ス

(二) 港務長、港務次長若シクハ其代理者ハ部下ノ官吏ヲシテ上陸ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

第四條 上陸許可ヲ受クル爲メ納付セル金額ハ納付者カ入國ヲ拒絕セラレタル場合ニハ本則第六條規定ノ移民官書記官ヨリ當事者ニ返戻セラルヘシ

第五條 蘭領東印度ニ到着後六箇月以内ニ蘭領東印度ヲ退去スル者ハ第一條記載港所在上陸官ニ其他ノ地方ニ於テハ當該地方廳長官ニ入國許可證ヲ提出シ入國令第三條第一項ニ依リ上陸許可證ヲ受クルタメ納付シタル金額ノ拂戻ヲ申請スルコトヲ得

第六條 (一) 入國令第一項ニ規定セル上陸許可證ト入國許可證トノ引換ハ瓜哇「マヅラ」ニ於テハ「バタビヤ」「スマラン」及「スラバヤ」ニ外領地ニ於テハ地方廳ニ「ムントク」「バンカ」島「ベンカリス」「スマトラ」東海岸州「シンカワン」(西部「ボルネオ」)及「ドボ」(「ア」ンボイナ)ニ設置セル移民官之ヲ取扱フ

(二) 移民官ハ左ノ吏員ヲ以テ組織ス

地方廳長官

委員兼委員長

之レカタメ總督ヨリ任命セラレタル官吏一名委員兼書記官衛生上必要ト認メタルトキハ衛生局長ニ依リ指名セラレタル衛生官一名乃至若干名

當該地方在住警察官又ハ官吏ニシテ地方長官ニ依リ指名セラレタル者一名

當該地方在住支那人、亞刺比亞人「ムーア」人及「ベルガル」人ノ頭目ニシテ自國人ヲ代表スルニ足ル最高階級ニ在ル者各一名

(二) 各州長官ハ委員書記官ノ不在、支障ノ場合其事務ヲ代理セシムヘキ官吏ヲ指定シ且ツ本則第七條及第八條規定事項ヲ履行セシムルコトヲ得

第七條 入國許可證ハ移民官ノ名ヲ以テ同委員、書記官又ハ其代理者之ヲ發給ス上陸許可證ヲ所有スルモ赤貧ニシテ救助ヲ要スルモノト認メタル者ニ對シテハ入國許可證トノ引換ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第八條 入國令第三條第一項ニ規定セル金額ノ納付ニ對シ上陸許可證ヲ交付シタル場合ニ於テ其納付者カ上陸許可證ヲ要セサルモノナルコト或ハ上陸許可證交付ニ對シ手数料ヲ收ムルノ義務ナキモノナルコト移民官ニ於テ判明シタルトキハ同委員、書記官又ハ其代理者ハ該金額ヲ當事

者ニ拂戻スヘシ

第九條 入國令第五條第一項ノ規定ハ左記各汽船會社汽船ニ之レヲ適用ス

Koninklijke Paketvaart Maatschappij.
 Stoomvaart-Maatschappij Nederland.
 De Rotterdamse Lloyd.
 Asiatic Steam Navigation Company Limited.
 British India Steam Navigation Company Ltd.
 West Australian Steam Navigation Company.
 Ocean Steamship Company Limited.
 De Nederlandsche Stoom-Vaart Maatschappij Ocean.
 Peninsular and Oriental Steam Navigation Company.
 Burns, Philp and Company Limited (Burns philp Line).
 Norddeutscher Lloyd.
 Nanyo Yusen Kaisha.
 Osaka Shosen Kaisha.
 Java China-Japanese Line.
 Deutsche Australische Dampfschiffs gesellschaft.

Eastern shipping Company Ltd.
 Societa di Navigazione a vapore Lloyd triestine Company Ltd.
 China mail shipping Company Ltd.
 Pacific mail steamship Company Ltd.
 The Commonwealth Government Line of Steamers.
 Transatlantic steamship Company Ltd.
 East Asiatic Company Ltd.
 Norwegian Africa and Australia Line.
 State Shipping Service.

第十條 本細則ハ之レヲ入國許可布告 (Toelatingserdomantie) ト稱シ千九百十八年四月一日ヨリ
 實施ス

第二節 蘭國國籍及住民權ニ關スル法律類

第一項 蘭國國籍及住民權ニ關スル法律

(蘭國法令第二六八號) 一八九二年十二月附法律
 (蘭國法令第一七七號第五六號及第二一六號) 一九〇七年七月八日附一九一〇年
 二月十日附及七月十五日附法律令

第一條 左記各人ハ出生ニ依リ蘭國々籍ニ屬ス

- 一 出生ノ時其ノ父カ蘭國人ナルトキハ其嫡出子若ハ其父ニ依リ認知セラレタル子
- 二 出生前三百日以内ニ死亡シタル蘭國人ノ嫡出子
- 三 出生ノ時其母カ蘭國人ナルトキ其母ニ依リ認知セラレタル子
- 四 父母ノ孰レニモ認知セラレサルモ蘭國內ニ生レタル子

第二條 左記ノ者亦蘭國々籍ニ屬ス

- 一 父又ハ母カ蘭國住民タルモノノ子ニシテ蘭國內ニ居住スル母ヨリ生レ外國ノ國籍ニ屬スルコトヲ届ケ出テサルモノ

- 二 生地ノ如何ヲ問ハス蘭國內ニ遺棄セラレタル子ニシテ嫡出子ノ届出又ハ認知ニ依リ其ノ父母ノ判明スル迄

第三條 歸化ニ因ル蘭國國籍ノ取得ハ之ヲ許可スル法律ノ效力發生ノ時トス

歸化ノ出願者ハ一件ニ付百盾ヲ國庫ニ納付スヘシ

歸化ノ出願ニハ左記條件ヲ立證スルコトヲ要ス

- 一 蘭國法律ニ照ラシ成年ニ達シタルコト
- 二 蘭國國籍ヲ喪失シタルコト若クハ引續キ五年間蘭國、殖民地、若クハ領土内ニ居所又ハ主

タル住所ヲ有スルコト

三 登記收入官ノ發給シタル百盾領收證

出願者カ外國人ナル場合ニハ蘭國國籍ノ取得ニ其ノ本國法上差支ナキコトヲ立證セシムルヲ得

歸化ヲ許可セサル場合ニハ曩ニ納付シタル額ヲ出願者ニ返付ス

第三條 三三(蘭國法令第一七七號一九〇七年七月八日附法律ニ依リ追加)

第七條五ニ因リ蘭國國籍ヲ喪失シタル者ハ前條ニ掲クル額ヲ納付スル義務ナシ此場合ニハ出願者ハ曩ニ國籍ヲ有シタルコトヲ立證スルヲ以テ足ル

第一項ノ規定ハ之ニ因リ既ニ一度無料ニテ歸化シタル者若クハ蘭國國籍ヲ喪失シタル後蘭國人タリトモ其ノ國籍ヲ喪失スルカ如キ行爲ヲナシタルモノニハ適用セス

第四條 歸化ハ又國家ノ利益ニ基キ許可スルコトヲ得

此場合ニハ第三條ヲ適用セス

歸化ニ附帶スル條件ハ各件毎ニ許可ヲ與フル法令ヲ以テ定ム

第五條 妻ハ婚姻ニ因リ其夫ノ國籍ヲ取得ス

歸化ノ出願ハ妻ニ依リテナスコトヲ得ス

夫ニ許可シタル歸化ハ法律上當然其ノ妻ニ及フ

離婚ノ後ニハ第八條若クハ第九條ヲ適用ス

第六條 子ノ出生後ニ蘭國ニ歸化シタル父ノ嫡出子及子ノ出生後ニ歸化シタル父ニ依リ認知セラレタル子ハ共ニ歸化シタルモノト見做サル又其子ハ蘭國法律ニ照シ成年ニ達シ其翌年内ニ蘭國、殖民地若クハ領土内ニ於ケル其最後ノ居所ノ市長又ハ地方長官又ハ其居住スル國ニ駐在スル蘭國公使若ハ領事ニ以後歸化ヲ離脱スル意見表示ヲナス場合ニハ其時迄蘭國國籍ヲ保有ス母カ寡婦トナリ歸化セル場合ノ嫡出子及母ニ依リ認知セラレ又其母ノ歸化前ニ出生セル子ニ關シテハ右規定ヲ準用ス

第七條 「蘭國法令第五六號及第二一六號」一九一〇年二月十日附及七月十五日附法律ニ依リ改正ス

左ノ場合ニ蘭國國籍ヲ喪失ス

一 他國ニ歸化スル場合若クハ未成年者ノ外國ニ於ケル父又ハ母カ歸化ニ依リ外國ノ國籍ヲ取得シタル場合

二 蘭國國籍ヲ有セサル者ノ妻トナリタル場合

三 志望ニ依リテ外國國籍ヲ取得シタル場合

四 皇帝ノ裁可ヲ仰カスシテ外國ノ兵役若クハ國務ニ服シタル場合

五 蘭國殖民地若クハ領土以外ノ地ニ生レタル蘭國人ニシテ國務ノ爲メニアラスシテ蘭國殖民地若クハ領土以外ノ地ニ引續キ十年居所ヲ有スル場合其在在外者カ此期間ノ滿了前蘭國殖民地若クハ領土ニ於ケル其最後ノ居所ノ市長若クハ地方長官又ハ其居住スル國ニ駐在スル蘭國公使若クハ領事ニ引續キ蘭國人タルコトヲ希望スル意思表示ヲナササル場合
更ラニ十ヶ年ノ期間ヲ算スルニハ右意思表示ヲ受ケタル日ヨリ起算ス

未成年者ノ場合ニ於テ十ヶ年ノ期間ヲ算スルニハ蘭國法律ニ照シ其成年ニ達シタル日ヨリ起算ス

第八條 婚姻ニ因リ蘭國國籍ヲ喪失シタル女子ハ其婚姻解除ニ因テ國籍ヲ回復ス但シ其婚姻解決ノ翌年内ニ國籍回復ノ意思表示ヲ蘭國殖民地若クハ領土ニ於ケル居所ノ市長若クハ地方長官又ハ其居住スル國ニ駐在スル蘭國公使若クハ領事ニナス場合ニ限ル

第九條 婚姻ニ因リ蘭國國籍ヲ取得シタル女子ハ婚姻ヲ解除シタル場合其翌年内ニ以後蘭國國籍

ヲ保有セサル旨ノ意思表示ヲ蘭國殖民地若クハ領土ニ於ケル其最後ノ居所ノ市長若クハ地方長官又ハ其居住スル國ニ駐在スル蘭國公使若クハ領事ニナスニアラサレハ婚姻解除ノ後ト雖蘭國國籍ヲ保有ス

第十條 外國ニ歸化スル以前ニ生レタル蘭國人ノ嫡出子若クハ認知セラレタル子ハ（歸化ノ結果子ハ當然蘭國國籍ヲ喪フ）蘭國法律ニ照ラシ成年ニ達シタル時其翌年内ニ蘭國國籍回復ノ意思表示ヲ蘭國殖民地若クハ領土ニ於ケル其居所ノ市長若クハ地方長官又ハ其居住スル國ニ駐在スル蘭國公使若クハ領事ニナス場合ニハ蘭國國籍ヲ回復ス

母カ寡婦トナリ外國ニ歸化セル場合ノ嫡出子及外國ニ歸化セル其母ニ依リテ認知セラレタル子ニ關シテハ右規定ヲ準用ス

第十一條 本法ニ從ヒ外國ニ於テセル通告ハ司法大臣毎年一回之ヲ官報ニ告示ス

第十二條 「蘭國法令第五六號」一九一〇年二月十日付法律ニ依リ改正）

蘭國國籍ヲ有セス若クハ他ノ理由ニ依リ蘭國臣民ニアラサル者ハ外國人トス

第十三條 蘭國住民トハ其居所ヲ蘭國內ニ有シ且ツ蘭國、殖民地若クハ領土内ニ既ニ二十八ヶ月居住セシ者ヲ云フ

第十四條 蘭國住民權ハ蘭國外ニ居所ヲ定ムルトキニ消滅ス

第十五條 父若クハ後見者カ蘭國住民ニシテ蘭國法律ニ照ラシ未成年者ハ蘭國住民ト見做サル成年ニ達シタル時其居所ヲ蘭國內ニ有スル場合ニハ蘭國住民權ヲ保有ス

第十六條 特別法ニ掲ケラルル住民權ニ關スル規定ハ其法律ニ示ス問題ニ限り適用ス

○ 附 則

（法令第一二九號）一八五四年九月二日付法律ニ依リ蘭領東印度ニ於テ東印度籍民及之ト同格者ト見做サルル者ヲ除キ本法施行ノ日ニ蘭國國籍ヲ有スル者ハ本法ニ依リ國籍ヲ喪失スル迄本法ニ云フ蘭國人ナリ右ノ時ニ於テ其居所ヲ蘭國、殖民地若クハ領土以外ノ地ニ有スル者ニ對シテハ第七條五ニ掲クル十ヶ年ノ期間ヲ算スルハ則チ其日ヨリ始ム

本法施行ノ日ニ蘭國ニ於テ同國ニ居住セサリシ父母ヨリ生レ且ツ滿二十四歳ニ達セサル者ハ蘭國內ニ引續キ居住スル意思ヲ本法施行ノ日ノ翌年内ニ亦蘭國法律ニ照ラシ未成年者ナレハ其成年ニ達シタル時ノ翌年内ニ其居所ノ市長ニ表示セハ蘭國國籍ヲ取得ス本法施行ノ日ニ民法第八條ノ規定ニ遵ヒタル外國人ニ關シテハ民法並ニ（法令第三九號）一八四九年八月十三日付法律第一九條（「法令第六六號」一八七七年四月六日付法律ニ依リ改正）ノ適用ニ關スル限り蘭國內ニ居所ヲ有ス

ル間ハ蘭國人ト同格ノ待遇ヲ保有ス
末段規定

右附則ノ規定ヲ除キ民法第一卷第二章第五條以下第十二條迄及（法令第四四號）一八五〇年七月二十八日付並ニ（法令第四六號）一八五一年五月三日付及（法令第七五號）一八五〇年十二月二十一日付各法律ハ本法ノ效力發生ト同時ニ消滅ス民法（「法令第四四號」一八五〇年十月二十八日付及「法令第四六號」一八五一年五月三日付法律）若クハ憲法第七條ニ關スル施行細則ニ基キテ蘭國人ナル文字ヲ使用セル法律ニ於テハ此文字ハ「蘭國國籍及住民權ニ關スル法律ニ基ク蘭國人」ト讀ムヘシ但シ（法令第六六號）一八七七年四月六日付法律第二二條中「民法ニ基ク」ナル文字ハ「蘭國國籍及住民權並ニ蘭領殖民地若クハ領土ニ居住スル父母ヨリ（蘭領東印度ニ於テ）生レタル者ニ關スル法律ニ基キ」ト修正ス
本法ハ一八九三年七月一日ヨリ施行ス

第二項 蘭領東印度籍民ノ蘭國臣民權ニ關スル規定ヲ掲クル

一九一〇年二月十日附法律（東印度法令第二九六號）

第一條 蘭國國籍及住民權ニ關スル法律ニ基ク蘭國人ニアラサル者ト雖モ左記ノ各人ハ蘭國臣民

ナリ

- 一 蘭領東印度ニ居住スル父母ヨリ（蘭領東印度ニ於テ）生レタル者若クハ父カ知レサル場合同地ニ居住スル母ヨリ生レタル者
- 二 蘭領東印度ニ生レ其父母ノ知レサル者
- 三 右一若クハ二ニ掲クル如キ臣民ノ妻若クハ再婚セサル寡婦
- 四 本條ニ掲クル如キ臣民ノ東印度ニ生レタル未婚ノ子ニシテ滿十八歳ニ達セサル者
- 五 本條ニ基キ臣民タル父母ヨリ東印度ニ生レタル子ニシテ其婚姻後若クハ滿十八歳ニ達シタル後和蘭王國內ニ既ニ居住セル者若クハ居住スル者其妻及滿十八歳ニ達セサル未婚ノ子カ共ニ和蘭王國內ニ居住スル場合亦同シ

第二條 左ノ場合ニハ第一條ニ掲クル臣民權ヲ喪失ス

- 一 外國ニ歸化シタル場合、此場合ノ喪失ハ其歸化シタル者ノ妻及滿十八歳ニ達セサル子ニ及ブ
- 二 第一條一、二若クハ五ニ適合セサル者トノ婚姻者
- 三 蘭領東印度總督ノ認可ナクシテ外國ノ兵役若クハ國務ニ服シタル者

四 外國ニ居住スル場合、到着後三ヶ月内ニ其國ニ駐在スル蘭國領事ニ届出ヲナスヲ怠リ又居住ヲ繼續スル場合ニ陽曆ニ依ル各年ノ頭初三ヶ月内ニ右届出ノ反覆ヲ怠リタル者
夫若クハ父ヨリ其妻若クハ子及寡婦ヨリ其子ニ對スル届出ハ本人ノ届出ト同一ノ效力ヲ有ス

四ノ規定ニ基キ蘭國臣民權ヲ喪失シ其後一、二若クハ三ニ掲ケル如キ境遇ニ陥ラサル者ハ蘭領東印度ニ居住スルコトニ依リ之ヲ回復ス

第三條 本法ハ殖民地及領土ニ對シテモ拘束力ヲ有ス

第三節 蘭領東印度ニ於ケル商會社設立ニ關スル規定(商法)

第十四條 本法ニ於テ認ムル商會社ハ左ノ三種トス

(一) 合名會社 (vennootschap onde cene firma.)

(二) 合資會社 (vennootschap bij wijze van geldscheiding, anders compagnieschap en commandite genamed.)

(三) 株式會社 (naamlooze vennootschap.)

第十五條 商會社ノ規約ハ當事者間ノ契約、商法ノ特別規定及民法ノ定ムル所ニ從フ

第十六條 合名會社ハ二人若クハ二人以上ノ社員ヲ以ツテ社團ヲ組織シ共同ノ名義ニ依リテ商業ヲ營ムモノヲ謂フ

第十七條 責任社員會社ノ名義ヲ以テ業務ヲ執行シ金錢ノ支拂及受入ヲ爲シ且第三者ヲ拘束シ若クハ會社ノ爲メ第三者ヲ拘束スルノ權限ヲ有ス

商行爲ノ種類ニヨリ當該會社ニ關係ナキ行爲又ハ契約ニ依リ社員カ之レヲ爲スノ權限ヲ有セサル行爲ハ本規定ニ依リテ之レヲ認メス

第十八條 合名會社各社員ハ會社ノ規約ニ依リ全部ニ對シテ無限責任ヲ負フ

第十九條 合資會社ハ全部ニ對シテ無限無任ヲ負フ社員一名若クハ一名以上トヲ以ツテ之レヲ組織ス會社ハ合名社員ノ關係ニ於テハ合名會社タルト同時ニ金錢出資社員ノ關係ニ於テハ合資會社タルモノトス

第二十條 出資社員ノ氏名ハ第三十條第二項ニ掲ケタル場合ノ外ハ之レヲ會社ノ名稱ニ用フルコトヲ得ス

出資社員ハ會社ノ支配人又ハ使用人トナルコトヲ得ス委任代理ニ依ル場合ト雖モ亦同シ

出資社員ハ損失ノ場合ト雖モ會社ニ出資シ若ハ出資スヘキ金額以上ノ分擔ヲ爲スコトヲ要セス

又既得ノ利益ハ之ヲ返還スル義務ナシ

第二十一條 出資社員ニシテ前條第一項及二項ノ規定ニ反シタルトキハ會社一切ノ債務及會社義務ノ全部ニ付無限責任ヲ負フ

第二十二條 合名會社ハ定款ニ依リテ設立スルコトヲ要ス定款ニ依ルニ非レハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十三條 合資會社ノ社員ハ會社設立地ノ裁判所ニ備ヘタル登記簿ニ定款ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 合資會社ノ社員ハ公平ノ手續ニ依リテ定款ノ摘要ノミヲ登記スルコトヲ得

第二十五條 何人ト雖モ登記シタル定款又ハ其ノ摘要ニ付登記簿ヲ閱覽シ且自己ノ負擔ヲ以テ其ノ謄本ノ請求ヲスルコトヲ得

第二十六條 第二十四條ニ掲ケタル摘要ニハ左ノ各號ヲ含ムコトヲ要ス

- (一) 社員ノ氏名職業及住所
- (二) 會社ノ義務ハ一般的ノモノナルカ又ハ特殊ノ商業ニ限レルカ又如何ナル種類カ其ノ内容
- (三) 會社ノ爲署名スルコトヲ除外セラレタル社員ノ氏名

(四) 會社ノ設立及解散ノ年月日

(五) 其他一般ニ第三者ノ社員ニ對スル權利ヲ定ムヘキ契約事項

第二十七條 登記ニハ登記所ニ提出セル定款又ハ其ノ摘要書類ノ提出日附ヲ記入スルコトヲ要ス

第二十八條 社員ハ更ニ第二十六條規定ニ依リテ定款ノ摘要ヲ官報ニ公告スルコトヲ要ス

第二十九條 合資會社ハ其ノ登記及公告ヲ爲スニ非サレハ一般ニ第三者ニ對シ營業期間ヲ無期限トシ且ツ無責任社員モ會社業務ノ執行署名ヲ爲スヘキモノト見做ス登記ト其ノ公告ト抵觸スルトキハ前條ノ結果官報ニ掲載セラレタル條項ノミ第三者ニ對シ對抗スルコトヲ得

第三十條 合名會社解散ノ場合ニ於テ契約ノ效力ニ依ルトキ又ハ其ノ氏名ヲ商號ニ記載セル前社員カ明カニ許諾シタルトキ若ハ其ノ死去ノ場合相續人ニ於テ異議ヲ申立テサルトキハ一名又ハ一名以上ノ社員ニ依リテ會社ヲ存續スルコトヲ得但シ該社員ハ其ノ證據トシテ第二十八條以下ノ條件及規定及第二十九條ノ制裁ニ鑑ミ定款ヲ提出シタル上登記シ且ツ之レヲ官報ニ公告スルコトヲ要ス

第二十條第一項ノ規定ハ引退社員カ金錢出資社員ト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ適用セス

第三十一條 辭職若クハ中止ニ依リ契約ニ定メタル期限以前ニ於テ合名會社ヲ解散シ又ハ期限經過後ニ於テ之レヲ延長シ其他總テ原契約ニ變更ヲ生シ第三者ノ利害ニ關係ヲ及ホス可キ事項ニ付テハ同シク定款ニ依リテ之レヲ爲シ其ノ登記ヲ受ケ且官報ニ公告スヘキモノトス
若シ之ヲ怠リタルトキハ其解散、辭職、中止及變更ハ之レヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
會社ノ期限ヲ延長スル場合ニ於テ其ノ登記又ハ公告ヲ怠リタルトキハ第二十九條ノ規定ヲ適用ス

第三十二條 會社ヲ解散スル場合ニ於テハ重役ハ其ノ會社ノ名義ニ於テ前會社ノ業務ノ清算ヲ爲スヘシ但シ契約ニ於テ別段ノ方法ヲ定メタルトキ又ハ社員（出資社員ヲ含マス）共同シテ直接ニ且過半数ノ決議ニ依リテ他ノ清算人ヲ選定シタルトキハ此ノ限ニ非ス選任ノ決議同數ナルトキハ裁判所ハ解散シタル會社ノ利益ノ爲メ最モ適當ト認ムル所ニ依リテ之レヲ定ム

第三十三條 解散シタル會社ノ資産狀態カ其ノ請求ヲ受クヘキ債務ヲ辨濟スルニ不足ナルトキハ精算當事者ハ各社員ノ會社ニ於ケル持分ニ應シ必要ノ金額ヲ社員ニ請求スルコトヲ得

第三十四條 精算中會社ノ資産ヨリ生スヘキ剩餘金アルトキハ一時之ヲ分配スヘシ

第三十五條 精算又ハ解散後ニ於テ何等ノ契約ナカリシトキハ會社ニ屬スル帳簿及書類ハ過半数

ノ決議ニ依リ若シ決議同數ナルトキハ裁判所ノ選任シタル社員ニ於テ之レヲ保管スヘシ但シ社員又ハ權利者ハ臨時之レヲ閱覽スルコトヲ得

第三十六條 株式會社ハ社員ノ名ヲ冠入スルヲ得ス其ノ着手スル事業名ヲ冠スル名稱ヲ用ヒ設立前ニ於テ其定款ハ豫メ總督ノ認可ヲ受クヘク定款ノ變更及存立期間延長ノ場合ニ於テモ亦同シ

第三十七條 風紀及公安ヲ害セサル事業ニシテ其定款カ本法ノ規定ニ違反セサルトキハ總督ハ其ノ設立ヲ許可スヘク總督ニ於テ不認可ト認ムルトキハ其ノ理由ヲ附シ其申請ヲ却下ス而レトモ總督ハ總督カ一般利益ノ爲メ解散ヲ命シタル場合何時ニテモ解散スル條件ノ下ニ認可スルコトアルヘシ、無條件ニ認可ヲ與ヘタル會社ハ高等法院ニ於テ定款ニ違反セル所爲アリト認メタルトニ非サレハ其解散ヲ命セララルコトナシ

第三十八條 會社ハ其定款ニ總督ノ認可書ヲ添ヘ其ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ其ノ登録ヲ申請シ同裁判所ハ其登録ノ要項ヲ無料ニテ官報ニ掲載公示ス

前項ノ規定ハ定款ノ變更、加除、存立期間ノ延長ノ場合ニモ適用ス又二十九條ノ規定モ亦之ニ適用スルヲ得

會社定款ノ閱覽又ハ謄本或ハ抄本ノ下附ヲ乞フ者アルトキハ手数料ヲ徴シ之レヲ許ス

第三十九條 會社ノ登録及公示ヲ結了スル迄ハ第三者ニ對シ發起人ハ個人及連帶責任ヲ負フヘシ

第四十條 株式會社ノ資金ハ之レヲ株式ニ分割シ其ノ株式ハ記名又ハ無記名ト爲スコトヲ得

株主ノ責任ハ株券ニ記載セル金額ヲ以テ限度トス

第四十一條 無記名ノ株券ハ全額ノ拂込ヲ爲スニ非サレハ之レヲ發行スルコトヲ得ス

第四十二條 定款ニハ記名株券讓渡ニ關スル事項ヲ規定シ其讓渡手續ハ讓受人ヲシテ讓渡者ノ證明書ヲ添付シ之レヲ會社重役ニ届出テシムルノ形式ニ依ルカ或ハ會社ニ保存スル株式簿へ登録濟ノ證明書ニ相手方雙方ノ署名ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第四十三條 株金ノ金額拂込未濟ノ株式ヲ讓受ケタルトキハ其讓受人ニ於テ其ノ未拂込ノ金額拂込ノ責任ヲ負擔スルモノトス尤モ會社重役ニ於テ其ノ追加拂込ヲ免除シタルトキハ此限ニアラス

第四十四條 會社ハ株主タルト株主以外ノモノナルト相當ノ報酬ヲ受ケサルト監査役ノ監督ヲ受クルト否トニ拘ラス總テ株主ノ推薦ニヨリタル取締役ニ依リ支配セラレ

會社取締役ノ就任ハ之ヲ強制スルコトヲ得ス

第四十五條 取締役ハ其ノ負擔セシメラレタル事項ノ範圍ニ於テ責任ヲ負フト雖取締役カ定款ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキハ第三者ニ對シ全責任ヲ負フヘシ

第四十六條 株式會社ノ存立ハ有期トシ其期限經過後其存續年限ヲ延長スルハ差支ナシ

第四十七條 取締役ニ於テ會社ノ損失カ資本金ノ五割ニ該當スト認メタルトキハ其地方ヲ管轄スル區裁判所ニ其事由ヲ報告シ且官報ニ公表スヘシ而シテ其損失七割五分以上ニ上ルトキハ其會社ハ法律上解散スヘキモノトシ斯ノ如キ事由ヲ認知セルニモ拘ラス之レヲ隱匿スルトキハ取締役ハ第三者ニ對シ全責任ヲ負フヘシ

第四十八條 會社ノ解散ヲ防止スル爲ニ定款ニ於テ積立金ニ關スル事項ヲ規定シ缺損額アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ補充スルヲ得

第四十九條 會社ノ定款ニハ配當率ヲ確定スルヲ得ス其ノ株主ニ對スル配當ハ收支決算ヨリ生スル差額トス但シ配當ハ定款ヲ以テ最高額ヲ豫メ規定スルコトヲ得

第五十條 株式會社發起人ノ引受株式ハ少ナクトモ總資本額ノ五分ノ一ニシテ其ノ殘部ノ株式募集期限及其方法ヲ明示スルニ非サレハ總督ハ會社ノ創立ヲ認可セス但シ其殘部株式募集期限ハ

總督ノ認可ヲ受ケ之レヲ延期スルコトヲ得

第五十一條 會社ハ資本金ノ一割ニ該當スル金額ノ拂込アルニ非サレハ其事業ヲ開始スルコトヲ得ス

第五十二條 監査役ノ權限ハ定款ニ規定シ若シ其權限ニシテ取締役ノ常務ニ參議セサルモノナルトキハ取締役ノ常務ヲ監査スルノ權限ヲ當然享有シ株主ニ代リ取締役ニ對シ營業ノ報告ヲ求メ又ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得若シ監査役ノ職權ニシテ取締役ヲ兼スルトキハ別ニ定款ニ規定セルモノヲシテ株主ニ代リ會社ノ業務及財産ノ狀況調査ヲナサシムヘシ

第五十三條 株式會社ニシテ特種ノ目的ヲ以テ設立セラレタル保險會社ナルトキハ其最大保險額同一物件ニ對スル保險金額ノ限度ヲ定款ニ記入スルカ又ハ其他ノ方法ニ依リ之レヲ取締役ト監査役又ハ取締役ノ意見ニ一任スルコトヲ明示セサルヘカラス

第五十四條 定款ニハ決議權ヲ規定シ其株式一百以上ヨリ成立スルトキハ一人ノ有スル決議權ハ六個以下トシ百株以下ノ株式ヲ有スル會社ニアリテハ其半數トス而シテ會社ノ取締役又ハ監査役ハ株主ニ代リ其ノ決議權ヲ行フコトヲ得ス

第五十五條 株式會社ハ少ナクトモ一ヶ年一回該年度及前年度ノ收支及損益計算ヲ株主ニ明示セ

サルヘカラス其公示ノ方法ハ株主總會ニ提出スルカ或ハ株主全體ニ廻付スルカ或ハ株主ニ通告シタル後之レヲ一定期間會社ニ保存スルヲ要シ其期間及方法ハ定款ヲ以ツテ之レヲ定ムヘシ

第五十六條 會社解散ノ場合ニ當リ別ニ之レヲ定款ニ規定セサルトキハ會社ノ取締役其任ニ當ル

株式會社解散又ハ分離ヲ爲シタルトキ別約ナキ場合ニハ其ノ會社ノ帳簿及書類ハ總テ株主ノ所有トシ株主總會ニ於ケル過半數ノ投票ニ依リ指定セラレタル代表者若シ投票ノ數同一ニシテ決定シ難キトキハ其地方ヲ管轄スル區裁判所ノ任命セル代表者之レヲ保管シ其書類ハ何時ニテモ株主又ハ關係者ノ閱覽ヲ許スヘシ

第四節 蘭領東印度鑛業法及關係法規

第一項 蘭領東印度鑛業法

一八九九年官報第二一四號
一九一〇年官報第五八八號
一九一九年官報第四號改正

イ 總 則

第一條

- 一 蘭領印度ニ於テハ土地ヲ所有スル者ト雖モ左記鑛物ヲ處分スルコトヲ得ス
 - イ 寶石、黒鉛、白金、「オスミウム」、「イリヂウム」、「金、銀、水銀、蒼鉛、「モリブデン」
 - 「ウオルフラム」、鉛、銅、亞鉛、「カドミウム」、「ニッケル」、「コバルド」、「クローム」、
 - 鐵、軟滿俺鑛、亞質母尼、砒石、「ストロンチウム」、(上記鑛物ハ其純粗ヲ問ハス)及同
 - 一鑛床ニアルカ爲上記鑛物ト同時ニ採掘スルノ他ノ鑛物、硫黃ヲ含有スル鑛物明礬及硫酸
 - ノ製造ニ使用シ得ヘキ鑛物硝石及肥料ノ製造ニ使用シ得ヘキ磷酸、岩鹽ト同一鑛床ニアル
 - モノ
 - ロ 無煙炭及其他各種ノ石炭
- 土油 (amfolie) 土脂 (aardpek) 土蠟 (aardwas) 其他凡テノ瀝青物體 (Bituminose zelfstandige-
 leelen) (固體及液體共) 及可燃性瓦斯 (年數ヲ經タルモノ即チ「スワンプ」瓦斯ニ限ル)、
 沃度及同化學組成物
- 二 鑛物ヲ前項特ニ「イ」「ロ」項ノ分類ニ編入スヘキカ否ヤニ付キ疑議ヲ生シタル場合、總督
 之ヲ決ス

(註) 探查 (opsporen, opsporing onderzoeking) 採掘 (ontginning) トハ本法律ニ於テノミ

ナラス本法律以外ノ鑛業法施行細則ニ於テモ嚴重ニ區別セルカ故ニ讀者ハ此點ニ注意
 セサルヘカラス

第二條

- 一 本法ニ於テ探查 (opsporing) 又ハ探鑛 (Mynbouwkundige opsporing) ト稱スルハ第一條ニ記
 載ノ鑛物ヲ探查スル爲ニ故意ニ行フ調査ヲ謂ヒ探鑛作業 (mynontginning) トハ其レカ地下作
 業、露天堀、鑽孔又ハ其他ノ方法ニ依テ行ハルルトニ論ナク鑛物ヲ故意ニ採掘シテ地上ニ搬
 出スルコトヲ謂フ

- 二 本法ニ於ケル探鑛區 (onderzoekingsveld) 鑛區 (concessieveld) 鑛業區 (mynveld) ナル語ハ空
 間 (Ruimte) ノ意ヲ含ミ探鑛區面 (onderzoekingssterrein) 鑛區面 (concessiesterrein) ナル語ハ面
 積 (oppervlakte) ノ意ヲ含ム

第三條

- イ 本法ニ於テ土地ニ對シ權利ヲ有スル者トハ該權利カ歐洲人ニ對スル法令ノ支配ヲ受クル
 ト或ハ又土人ニ對スル法令ノ支配ヲ受クルトヲ問ハス土地ニ對シ地權ヲ有スル者ヲ謂フ
- ロ 第三者トハ個人權利ヨリ生スル利益カ探鑛又ハ採鑛ニ因リ損害ヲ蒙ル者ヲ謂フ

一 左記以外ノ者ハ探鑛又ハ探鑛許可證ノ所有者タルコトヲ得ス

イ 和蘭人

二 和蘭又ハ蘭領印度ニ居住スル者

(註) 此處ニ蘭領印度ニ居住スル者トハ蘭領印度ニ於テ永住權 (Vergrinning tot vesting)

(三) ヲ有スルモノヲ謂フ、一時的居住權 (Vergrinning tot onzicheping) ヲ有スルモノ

ハ探鑛、探鑛ノ權利ヲ得ルヲ得ス

ハ 和蘭又ハ蘭領印度ニ於テ設立セル會社

株式會社ニ付テハ管理者 (bestuurder) 又ハ取締役 (commissaris) 一名、管理者又ハ取締役カ

二名アル場合ハ二名共、管理者カ二名以上アル場合ハ其多數又若シ會社ノ經營カ取締役ノ

手中ニ在リ而モ其取締役カ二名以上ナル場合ニハ取締役ノ多數一個ノ會社 (firma) ヲリ資

金ヲ仰キ社業ヲ經營セル會社ニ付キテハ業務執行社員 (Beheerendevennoot) 業務執行社員カ

二名ノ場合ハ二名共、業務執行社員カ二名以上ノ場合ハ其多數ハ和蘭人若シクハ蘭領印度

ニ住居スル者 (此處ニ蘭領印度ニ居住スル者ト稱スル人々ハ和蘭本國ニ居住スルモ差支ヘ

ナシ) ナラサルヘカラス

但シ蘭領印度ニ於テ設立セラレサル會社又ハ蘭領印度ニ居住セサル者ハ蘭領印度ニ適當ナ

ル代表者ヲ設定スルコトヲ要ス、又蘭領印度ニ居住スル者蘭領印度ニ居住セサル者ノ同地

ニ於ケル代表者及蘭領印度ニ居住スル會社ノ管理者又ハ蘭領印度又ハ和蘭ニ設立セラレタ

ル會社ノ代表者ニシテ蘭領印度ニ居住スル者ハ探鑛又ハ探鑛ヲ行フ州若シクハ諸州ニ居住

權ヲ有スルモノナラサルヘカラス

(註) (ハ)ノ條下ニ「會社ヨリ資金ヲ仰キ社業ヲ經營セル會社ニ付キテハ業務執行社員」

トアル中、會社ハ合名會社ニシテ業務執行社員トアルハ會社ノ組合員ヲ指スモノナラ

二 探鑛又ハ鑛業出願者ハ探鑛、鑛業又之等ニ附帶スル事業ノ許可期限探鑛又ハ鑛業ヲ行フ州

ノ州廳ニ於テ居住ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス、該規定ハ探鑛探鑛ノ區域ノ一部分ノミカ或州内

ニ於テ存在スルトキニ於テモ適用セララル

三 探鑛及鑛業ノ許可ヨリ生スル權利義務ハ適法ナル所有者ノ死亡ニヨリ該權利ヲ取得スル者

ニ移ル、但シ權利ヲ繼承スヘキ者ハ死亡直後又ハ一箇年以内ニ本條ノ規定ヲ履行スルヲ要

ス、探鑛權ハ第七條第七項ノ規定ニ從ヒ個人又ハ會社ニ讓渡スルコトヲ得、但シ總督ノ承認ヲ要シ且ツ權利ヲ讓受クヘキ者ハ本條規定ニ合致スルモノタルコトヲ要ス

四 本條ノ規定ニ合致スルヤ否ヤニ關シ生スル紛議ハ判事はレヲ解決スルカ別ニ定ムル該鑛業法施行細則ニ依リ解決セラル

第五條ノ一

岩鹽ノ採取ハ鹽專賣ノ施行ナキ地ニ於テノミ許可ス

第五條ノ二

一 政府ハ探鑛及採鑛ヲ爲スヲ得但シ既ニ許可シタル鑛業人ノ權ヲ侵害スルヲ得ス

二 其ノ目的ノ爲政府ハ自ら探鑛又ハ採鑛ヲ爲シ本法第四條第一項ノ規定ニ一致スル個人又ハ會社ト契約スルコトヲ得該契約ノ個人又ハ會社ハ探鑛又ハ採掘ニ從事スルモノトス

三 上記契約ハ單ハ探鑛ノミニ關スル契約ヲ除キ其都度法律（和蘭ニ於テノミ制定スル）ノ認許ヲ受ケ締結スルモノトス

四 本條ニ基キ政府ノ行フ探鑛又ハ採掘ノ爲土地ヲ留保スル決議ニハ採取スヘキ鑛物ノ種類ヲ記載ス

第六條

一 本法ハ本法ニ牴觸スル規定現出シタル場合及探鑛人採鑛人對土地所有者及第三關係者ノ關係ヲ規定セル場合及第二十五條ノ場合ノ外第一條第一項第二項ノ規定ニ從ヒ前條ノ探鑛及採掘ニ準用セラレス

二 尙本法ハ左ノ場合ニ於テハ土人又ハ法律上土人ト同等ノ身分ヲ有スル他ノ住民ノ行フ鑛業ニ適用セラレス

イ 鑛業ノ規模小ニシテ自家用トシテ且ツ自己ノ危險ヲ以テ行フコトヲ總督カ認メタルトキ

ロ 貸貸又ハ其他ノ理由ニ依リ鑛業ヲ行ハントスル土地ニ於ケル探鑛カ或特別ノ法規ニ依テ規定セラレタルトキ

ロ 探 鑛 (myinhouwkundig opsporing)

第七條

一 探鑛權ハ政府ノ許可證ニ依リ取得セラル、該權利ハ土地所有者若クハ第三關係者ニ對シ彼等ノ權利ヲ擁護スル機會カ與ヘラレタル後ナルハ勿論、探鑛ニ因ル損害補償金ノ前納ナキ内

又ハ補償額カ豫メ決定セラレ難キ場合ニハ補償金ニ對スル相當ノ保障ノ提供ナキ内ハ附與セラレサルモノトス

九六二

- 二 前項ノ許可證ハ本法施行細則ニ依ツテ定ムル官吏之ヲ附與ス、探鑛出願ハ正確ニ土地ヲ明記シタル二通ノ願書ヲ以テ該官吏ニ提出スヘシ、該官吏ハ願書ヲ受理シタル日附及時刻ヲ願書ニ記入シ一通ヲ出願者ニ交付スルモノトス
- 三 先ニ受理シタル出願ハ後ノ出願ニ對シ優先權ヲ有ス
- 四 許可證ハ連續三年ヲ超エサル一定ノ期間内ニ於テ許可證ニ可成ノ正確ニ指定セル土地(地下ノ深度ハ地面ト直角ニシテ無制限ナリ)ニ對シ與ヘラル、許可期限滿了前本條第二項ノ規定ニ依リ出願シタル者ニ對シテハ一回ヲ一年トシ二回迄延期スルコトヲ得
- 本項ニ規定セル許可ニハ條件ヲ付スルコトアルヘシ
- 五 探鑛許可出願又ハ延期出願ニ對スル其筋ノ決定ニ就キ總督ニ訴願ヲナスコトヲ得、總督ハ機宜ノ措置トシテ又ハ公安維持ノ爲メ本條第三項ノ規定ニ反スル所置ヲ取ルコトアルヘシ
- 六 探鑛ハ許可ヲ得タル後一箇年以同ニ開始スヘシ
- 七 探鑛許可ハ政府ノ許可ナクシテ他ニ讓渡スルコトヲ得ス

八 本條ノ施行ニ關スル他ノ細則及探鑛ノ目的ヲ以テ出願スル土地ノ最大面積限度ニ關シテハ本法施行細則ヲ以テ定ム

第八條

- 一 左ノ土地ニ於テハ探鑛ヲ許可セス(留保探掘許可又ハ契約ニ係ル鑛物)
 - イ 第五條ノ二ニ記載ノ探鑛及探掘ノ爲留保シタル土地又ハ第三十一條及第三十二條ノ規定ニ基キ競賣ニ依リ鑛業權ヲ許可スル爲留保シタル土地、既ニ他人ニ鑛業權ヲ許可シタル土地及第五條ノ二ニヨリ契約ヲナシタル土地
 - ロ 既ニ探鑛權ヲ許可シ其結果他人カ鑛業權ヲ請求シ得ヘキ土地
 - ハ 公益ノ爲總督カ閉鎖シタル土地
- 二 探鑛又ハ探鑛區域内ニ存在スル要塞、政府又ハ公共ノ造營物、公共埋葬地、其他ノ墓地、道路、水路及鐵道ニ及ホスヲ得ス、且ツ土人ノ習慣ニヨリ聖地ト見做サレタル土地、總督カ公益ノ爲メ探鑛ヲ禁止シタル土地及前記ノ箇所ヨリ一定ノ距離ニアル土地(距離ハ本令施行細則ヲ以テ定ム)ニ及ホスコトヲ得ス
- 三 探鑛ハ住宅又ハ工場ノ建設シアル土地及細則ニ定ムル距離内ニアル其ノ周圍ノ土地ニ及フ

九六三

第九條

ヘカラス、但シ土地所有者及第三關係者ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニアラス

左ノ場合ニ於テハ土地所有者及第三關係者ハ自己ノ土地内ニ於ケル探鑛ヲ拒絶スルコトヲ得ス

- イ 探鑛許可證所有者カ許可證又ハ法律上有效ナル其寫本ヲ提示シ場所ヲ指定シ土地所有者又ハ第三關係者ニ豫メ探鑛ノ意志表示ヲ爲シタルトキ
- ロ 本法施行細則ニ依テ定ムル損害ニ先チテ受ケ或ハ損害補償ノ保障ヲ損害ニ先チテ受納シタルトキ

第十條

- 一 探鑛許可證ヲ得タルモノハ本法ノ規定及許可證ニ記載セル條件ニ從ヒ第一條ニ記載ノ鑛物ヲ探查スル爲メ又鑛床並ニ鑛床内ノ鑛物ノ性質ヲ決定スル爲ニ必要ナル工事ヲナスコトヲ得但シ該鑛物ニ對スル土地ノ留保鑛業權ノ許可又ハ契約等存在スル場合ハ此ノ限ニ非ラス
- 二 第一條第一項ノ「イ」ニ記載ノ鑛物ニシテ探鑛者ノ許可ニ基キ取得シタル鑛物ハ探鑛者ニ於テ自由ニ處分スルコトヲ得、但シ他人ノ權利ヲ侵害シ又ハ第三十五條及第三十六條ノ規定

ニ反スルヲ得ス

三 鑛業人（探鑛者）及探掘ニ關スル第二十四條、第二十五條及第二十六條ノ規定ハ探鑛許可證所有者カ既ニ行ヒタル探鑛ニ適用ス

第十一條

探鑛許可ハ左ノ場合法律ニヨリ消滅ス

- イ 許可期限滿了ノトキ
- ロ 許可所有者カ第四條ノ規定ヲ履行セサルトキ
- ハ 許可所有者死亡ノ場合權利繼承者カ第四條ニ規定セル期限内ニ該條中ニ規定セル條件ヲ履行セサルトキ

第十二條

一 左ノ場合ニ探鑛ノ許可ヲ取消ス

- イ 第七條ニ規定セル期間内ニ探鑛ヲ開始セサルトキ
- ロ 探鑛許可證所持者カ本法第九條ノ規定ヲ履行スルコトナク探鑛ヲナシタル場合ニシテ土地所有者又ハ第三關係者ヨリ許可取消請求アリタルトキ

- 二 左ノ場合ニ於テハ探鑛ノ許可ヲ取消スコトヲ得
 - イ 許可證所持者カ許可證ニ明示セル條件ノ一項ヲ履行セサルトキ
 - ロ 探鑛地ノ一部又ハ全部ニ對シ許可證所有者ヨリ願出ツルトキ、該願書ハ同文二通ヲ作製シ第七條第二項ニ指定セル官吏ニ提出スルモノトス、該官吏ハ願書ニ受理ノ日附及時刻ヲ記入シ一通ヲ出願者ニ交付シ出願後三箇月以内ニ是レニ對シ決定ヲナス
 - 三 取消ハ許可ヲ與ヘタル官吏之レヲナス、取消ノ決定ニ關シテハ本令施行細則ニ定ムル方法ニ基キ總督ニ對シ訴願ヲナスコトヲ得

ハ 鑛業權 (concessio)

第十三條

- 一 鑛業權(探鑛權)ハ七十五箇年ヲ超エサル期間ヲ以テ鑛業許可證ニ正確ニ指定セル許可區域ノ地下ニ於テ地面ニ直角ニ且ツ無制限ノ深度ニ互リ總督之ヲ附與ス
- 二 第一條第一項ノ「イ」ニ記載ノ鑛物ノ探掘採取ニ關シテ該鑛物カ鑛業地内ニ自然ノ狀態ニテ存在シ且ツ之レヲ探掘シテ地上ニ搬出スルノ技術上可能ナルコトヲ總督カ認メタル場合ニノミ許可ス

第十四條

鑛業權ハ各關係者ヲシテ自己ノ權利ニ對シ主張スルノ猶豫ヲ與ヘ且ツ最後ノ三年ノ鑛業期間ニ於テハ鑛業人カ鑛業權移轉ニ關シ總督ノ定メタル規定ヲ履行シ該權利移轉ニ付キ協力スルノ義務アリトノ條件ノ下ニ之ヲ附與ス

第十五條

總督カ公益ノ爲附與スヘカラスト認定スル土地ニ對シテハ鑛業權ヲ附與セス

第十六條

- 一 鑛業權所有者ハ本法ノ規定及許可證ニ記載ノ條件ニ從ヒ鑛業區内ニ於テ許可證記載ノ鑛物ヲ探掘シ且地下及地表ニ於テ探掘ノ爲必要ナル工事ヲナス絶對的ノ權利ヲ有ス
該權利ハ該權利附與以前ニ行ハレタル探鑛及探掘ノ際發見セラレタル鑛物ニモ及フモノナリ
- 二 鑛業人ハ自己ノ探掘ニ係ル第一條ニ記載ナキ鑛物ヲ本令施行細則ニ定ムル規定ニ基キ作業ノ進行上自由ニ處分スルコトヲ得且ツ鑛業區以外ノ地ニ於テ補助工事ヲナスコトヲ得
- 三 第一條第一條ノ「イ」ニ記載セラレサルモ鑛業許可證ニ記載ナキ鑛物ハ探掘スルコトヲ得

ス、但シ別ニ鑛業權ヲ得タル場合及ヒ該鑛物カ許可證記載ノ鑛物ト密接ノ關係ヲ有スルタメ同時ニ採掘ノ止ムヲ得サルコトヲ總督カ認メタル場合ハ此ノ限ニアラス同一鑛區ニ於テ他人カ該鑛物ノ採掘權ヲ有スル場合ハ本項ニ基キ取得シタル數量ハ該他人ノ請求ニヨリ引渡シ該他人ハ採掘費用ヲ支拂フヘシ

第十七條

土地所有者又ハ第三關係者ニシテ採鑛又ハ採掘許可證ヲ有セサル者カ當然ノ權利トシテ行ヒ得ヘキ工事中偶然發見シタル液狀瀝質物體又是レト共在スル瓦斯狀物體ノ處分ニ關スル規定ハ本令施行細則ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條

一 鑛業權ハ不動産ニ屬シ且ツ擔保ニ供シ又ハ讓渡ヲナスコトヲ得、但シ第四條及第三十八條第十項ノ規定ニ反スルヲ得ス

二 名義變更ハ施行細則ノ定ムル方法ニヨリ公表セラル、キモノナリ權利ノ存在ハ公告ニ依テ始メテ認メラル

第十九條

一 鑛區ヲ分割シ其ノ一部ト隣接地域トノ交換又ハ二箇若シクハ二箇以上ノ鑛區ノ合併ハ總督ノ附與スル新規ノ許可證ヲ得ルコトニ依テノミ行フコトヲ得、重大ナル理由又ハ公益擁護上止ムヲ得サル場合ノ外總督ハ該許可ヲ拒絕スルコトヲ得ス

二 抵當權者及債權者ノ利益ヲ保障スルニ必要ナル規定ハ本法施行細則ヲ以テ定ム
ニ 鑛業人對土地所有者、第三關係者及隣接鑛業人ノ關係

第二十條

探鑛ニ關スル第八條第二項及第三項ノ規定ハ採鑛ノ目的ヲ以テナサル地表ノ處分ニ適用セラ

第二十一條

一 採掘ノ爲地表ノ處分三箇年以上必要ナキ場合ハ採鑛ニ關スル第九條ノ規定ヲ適用ス、此ノ場合ニ於テハ許可證所有者ニ關スル規定ハ鑛業人ニ適用シ鑛業人ハ鑛業ノ許可ヲ明示セル書類ニシテ法律上有效ナルモノノ寫本ヲ提示スルヲ要ス

二 三箇年以上土地ノ處分ヲ必要トスル場合又ハ最初充分ナリト思惟セラレタル三箇年ノ期限經過後更ニ處分ノ必要アルカ又ハ當事者カ土地ノ割據ニ關シ意見ノ一致ヲ見サル場合ハ利害

關係最モ深キ當事者ノ請求ニ依リ公益ヲ目的トスル土地收用ニ關スル規定ヲ適用ス、採掘ノ爲必要ナル財産ノ全部ニ對シ收用方ヲ一時請求スルコトヲ要セス

第二十二條

一 總督ハ必要ト認ムル條件ノ下ニ且ツ第三關係者ノ權利ヲ顧慮シ鑛業人ニ對シ採鑛ニ必要ナル道路、水路ヲ設クルコト工場建物其他ノ造營物ヲ可能ナラシムルタノニ土地ヲ貸與スルコトヲ官有地ニ於テ許可ス

二 道路又ハ水路ノ建設及第十六條第二項ニ記載セル補助工事ノ爲鑛區外ニシテ官有地ニ非サル土地ヲ使用スルコトヲ必要トスル場合當事者カ土地ノ割讓ニ關シ意見ノ一致ヲ見サル時ハ土地處分ニ付キテハ前條第二項ノ規定ヲ適用ス

第二十三條

第二十一條及第二十二條第一項ニ示セル採掘ノ爲必要ナル土地ニ關シテハ本法施行細則ヲ以テ定ムル規定ニ依リ總督ノ宣言是レヲ決定ス

第二十四條

一 鑛業人ハ採掘工事ニヨリ他人ノ地表及之ニ附屬スルモノニ損害ヲ加ヘタル場合ハ地下採掘

工事ニ因ルト自己ノ有意的ノ行爲ニ因ルト將タ又損害ヲ豫知シ得ラレザリシ時トヲ論セス賠償ノ責任ヲ有ス

二 二個所以上ノ採掘工事ニヨリ損害ヲ與ヘタル場合ハ鑛業人ハ共同シテ等分ニ賠償スヘシ、但シ鑛業人ノ一方ハ自己ノ損害負擔額ヲ超過シタル部分ニ對シ他ノ鑛業人ニ請求スルヲ妨ケス、地上權者又ハ關係者カ鑛業人ノ損害負擔カ平等ナラサルコトヲ立證シタル場合ハ各別ニ賠償ノ請求ヲナスコトヲ得

三 土地所有者又ハ關係者カ普通ノ注意ヲ拂フ時ハ其危險ヲ發見シ得ル時期ニ於テ建設シタル建物又ハ設備ニ對スル損害ハ之ヲ賠償スルノ義務ナシ、採掘工事ニ因ル危險ノ爲家屋ノ建設不可ナルコトヲ認メタル場合ニ於テ土地所有者又ハ關係者カ單ニ賠償金ヲ得ル目的ヲ以テ家屋又ハ設備ヲ建設スルノ意志ヲ表示シタルコト明カナルトキハ地價下落ノ理由ノ下ニ賠償ヲ請求スルヲ得ス

第二十五條

一 隣接鑛業地ニ於ケル工事カ相互ノ協力ヲ必要トスル場合ニ於テ双方了解ニ到達セサル時ハ總督ノ定ムル規定ニ從フノ義務ヲ有ス

二 鑛業人カ隣接鑛業人ニ損害ヲ與ヘタル場合ハ賠償ノ責任ヲ有ス

第二十六條

第二十四條及第二十五條ニ記載セル損害賠償請求權ハ別ニ契約ナケレハ關係當事者カ損害ヲ知リタル日ヨリ起算シ三箇年ノ後消滅ス

第二十七條

一 損害賠償請求竝ニ第二十一條及第二十二條第二項ニヨル土地使用ニ對スル賠償請求ハ鑛業權探掘物及財産目錄ニ記載ノ財産ニ對シ優先權ヲ有ス
二 本條ニ規定ノ優先權ハ質權及抵當權ニ優先ス

ホ 鑛業權取得 (het Verkrigen van concessie)

第二十八條

一 探鑛權所有者又ハ鑛業人カ第一條第一項ノ「イ」ニ記載ノ鑛物ヲ發見シタル場合ハ發見ヲ立證次第發見鑛物ノ探掘ヲ取得ス但シ發見シタル鑛物ノ存在區域カ探鑛又ハ探掘ノ爲保留シアラス且ツ第三關係人ノ權利及本條第二項第七項及第十五條規定ニ反セサルヲ要ス
二 探鑛許可證所有者タル發見人ハ探鑛許可期間内ニ探掘權ヲ請求スヘシ

二ノ一、第一條第一項ノ「ロ」ニ記載ノ鑛物ヲ發見スルモ發見者ハ鑛業權(鑛物探掘權)ヲ獲得セス該鑛物ノ探掘ハ政府自ラ之レヲ爲スカ又ハ第五條ノ「二」ニ基キ契約ニ依リテ行フ發見ニ對スル報酬ニ付豫メ協定ナキ場合ハ總督之レヲ定ム

三 第一項ニ記載ノ請求ハ鑛業權申請ノ書式ヲ以テ之ヲナシ該申請書ハ同文ニ通テ作り總督宛トシ本令施行細則ノ定ムル官吏ニ提出スヘシ

四 當該官吏ハ申請書ニ受理ノ月日及時刻ヲ記入シ一通ヲ申請書ニ交付ス

五 申請書ニハ在ノ事項ヲ記載スヘシ

イ 申請者ノ妙名及住所

ロ 探掘スヘキ鑛物ノ名稱

ハ 發見シタル場所新タニ出願スル鑛區又ハ既ニ許可ヲ得タル鑛區ノ境界線

ニ 鑛業權ノ名義

ホ 在籍地

六 願書カ本條ノ規定ヲ具備セサル場合ハ出願者ハ其旨通知ヲ受ケタル後一箇月以内ニ必要ノ訂正ヲナスヘシ

- 七 先ノ出願ハ後ノ出願ニ優先ス
- 八 鑛業權ハ第四條ノ規定ヲ履行スル者ニ全部讓渡シ得、但シ總督ノ承認ヲ得ルヲ要ス
- 九 本條施行細則竝ニ鑛區最大面積ニ關スル規定ハ總督令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條

第二十八條ニ規定ノ鑛業權申請ヲナシタル後鑛業權ノ下附ニ就キ何分ノ通知ヲ受クル迄ハ發見者ハ探鑛作業ヲ繼續スルコトヲ得

第三十條

- 一 適當ノ境界線ヲ作り又ハ適當ノ探掘ヲナス爲總督カ必要ト認ムル場合ハ第二十八條ニ依リ出願シタル區域ヨリ大ナル鑛區ヲ許可シ且ツ探掘地外ニ位置スル隣接地ヲ鑛區ニ編入スルコトヲ得、但シ他人ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得ス
- 二 鑛業許可決定書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - イ 鑛業人ノ姓名、職業及住所
 - ロ 鑛業區域ノ名稱
 - ハ 鑛區面積及鑛業許可證ニ附帶セル地圖ノ上ニ示セル境界線

ニ 鑛業許可ノ期間

ホ 鑛區所在ノ州郡ノ名及在籍地名

ヘ 探掘許可ヲ與ヘタル鑛物ノ名稱

ト 必要ナル特別ノ條件

チ 日附

三 探掘許可書ノ法律上有效ナル寫本ハ鑛業人ニ交付セラレ

第三十一條

- 一 政府ノ調査ノ結果總督カ探掘ノ價值アリト認ムル鑛層ヲ發見シタル場合ハ總督ハ區域ヲ指定シ該區域内ニ於テハ競賣ノ外發見鑛物ノ探掘權ヲ許可セス但シ區域ヲ指定スルニ當リ第三關係者ノ權利ヲ侵害スルヲ得ス且ツ政府ハ自ら探掘ヲ爲シ又ハ第五條ノ二ニ基キ個人及ハ會社ト契約ヲ爲スノ權限ヲ留保ス契約ノ場合ハ個人又ハ會社ハ探掘ヲナス義務ヲ有ス
- 二 特別ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ附與セラレタル權能ニヨリ上記ノ競賣ノ規定ヲ離ルルコトヲ得

第三十二條

總督カ採掘ノ價值アリト認ムル鑛層ニシテ本法ニ抵觸セサル限り第三十一條第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ對シテモ前條ヲ適用ス

第三十三條

- 一 競賣ノ場合ニ於テハ鑛業權ハ總督カ許可スルモ差支ナシト認メタル最高入札者ニ許可ス
- 二 第三十一條及第三十二條ニ依リ留保シタル土地ニシテ競賣ニ附スルモ落札者ナキ場合又ハ隨意契約ニ依ル鑛業權ノ取得者モナキ場合ハ再ヒ之ヲ探掘ノ爲開放ス

第三十四條

- 一 鑛業權ノ期限滿了三ヶ年前ニ於テ政府ニ於テ鑛業權ヲ留保スルノ意ナク又ハ前條ニ規定ノ第五條ノ一ニ基キ契約ヲ爲ス意ナク且ツ相當ノ理由アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ必要ナル條件ヲ定メ該條件ノ下ニ鑛業人ハ鑛業ヲ繼續スル爲新ニ鑛業權ヲ取得スルコトヲ得
- 二 鑛業人ハ前記條件ニ關シ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ該條件ヲ以テ鑛業權ヲ引受クルヤ否ヤヲ表示スルヲ要ス、若シ鑛業人カ規定ノ期間内ニ引受ヲナス又ハ其旨表明セサル場合ハ新鑛業權ハ競賣ニ依ラサレハ許可セス

鑛區稅及鑛產稅 (Hefning van vast rocht on gynn)

第三十五條

- 一 政府ハ探掘許可及第二十九條ニ依リ探掘ヲ繼續スル鑛物發見者ニ左ノ課稅ヲナス
 - イ 探掘面積一「ヘクタール」ニ付鑛區稅年額二仙半（每年前納）
 - ロ 法令ニ定ムル免稅量ヲ超過シタル部分ノ鑛物ノ總賣上高ノ年額四歩ノ鑛產稅
 - 二 政府ハ鑛業權（探掘權）ニ對シ左ノ通り課稅ス
 - イ 鑛業地面積一「ヘクタール」ニ付鑛區稅年額二十五仙（每年前納）
 - ロ 總賣上高ノ年額四歩ノ鑛產稅
 - 三 鑛業人カ前年ノ探掘ニヨリ損失ヲ蒙リ又ハ本條第二項ニヨル稅金ヲ負擔スルニ於テハ損失ヲ來スニ至ルコトヲ總督カ認メタル場合ハ其年ニ對スル鑛產稅ハ總督ノ定ムル額迄減スルコトヲ得但シ總收入ノ百分ノ一以下迄減額スルコトヲ得ス
 - 四 本條第三項ノ規定ニ基ク減額ニ付キ殖民大臣ハ毎年和蘭會議ニ報告ス
 - 五 既ニ納入シタル鑛區稅金ハ返還セス

第三十六條

- 一 製造シタルト否トヲ問ハス採掘シテ取得シ且ツ販賣シ得ヘキ鑛物ノ鑛業地ニ於ケル過去半

箇年間ノ平均市價ヲ以テ總收入トス

九七八

二 第三十五條ニ依ル課稅額ヲ決定スルニ當リ生産品ノ市價カ鑛業地又ハ隣接地ニ於ケル鑛業人ノ製造又ハ加工ノ結果増加シタル場合ハ製造又ハ加工費ヲ控除シタル額ヲ以テ原市價トス他地ニ運搬費ヲモ控除ス

三 原市價計算ノ基礎トシテ蘭領印度内又ハ其他ニ於ケル最モ近キ市場ノ價格ヲ採リタル場合ハ包裝費及該市場迄ノ運搬費ヲモ前項ノ價格ヨリ控除ス

四 第二項及第三項ニ規定ノ市價及諸掛ノ決定ハ本法令施行細則ノ指定スル官吏鑛業人ト協議ノ上之ヲナス、此ノ決定ニ關シ總督ニ訴願スルコトヲ得

五 特別ノ場合ニ於テハ物品ヲ以テ又ハ本令施行細則ノ定ムル拂込方法ヲ以テ納稅スルコトヲ總督ハ許可スルコトヲ得

ト 權利消滅及鑛業權取消ノ宣告 (Vervalten verklaring van rechten en te

niet graan van concessie)

第三十七條

一 左ノ場合ニ於テハ總督ハ鑛業人ニ附與セル權利ノ消滅ヲ宣告スルコトヲ得

イ 總督カ認ムル公益ノ爲ニ作業ヲ開始スヘキ命令ヲ受ケタル後又ハ或ル期間中止後再ヒ作業ヲナスヘキ命令ヲ受ケタル後規定ノ期限内ニ其ノ命令ヲ履行セサルトキ

ロ 鑛業ニ關シ法律又ハ許可證ニ指示セル義務ノ遂行ヲ遅延シ又ハ怠リタル場合及公益又ハ人命財産ノ安全ノ爲作業ニ關シ當局ノ發シタル命令ヲ拒ミ又ハ之レニ從ハサルトキ

二 權利消滅ヲ宣告スルノ意アル旨ヲ總督又ハ其ノ代理人カ正式ノ認定證書ヲ以テ其旨鑛業人又ハ其ノ代理人ニ通知シ以テ鑛業人ヲシテ權利ヲ主張シ得ルノ機會ヲ與フルニモ拘ハラス鑛業人又ハ其代理人カ該通知受領ノ日ヨリ少ナクモ一箇年間右機會ヲ不利用ノ儘經過シタル後ニ非サレハ權利ノ消滅ヲ宣告セス、上記一箇年ハ其ノ間ニ於テ鑛業人ヲシテ義務ヲ果タシ且ツ諸規定ヲ履行スルコトヲ得セシメンカ爲與フルモノトス、金錢支拂ノ義務ニ關シテハ猶豫規間ハ三箇月トス

第三十八條

一 總督ノ處置ニ依リ鑛業消滅ノ宣告ヲ受ケタル者ハ國王ニ訴願スルコトヲ得、權利消滅ニ關シテハ總督ハ直チニ殖民大臣ニ通知スヘシ

二 前記訴願ハ鑛業人又ハ蘭領印度ニ於ケル代理人カ消滅決定ヲ知リタル日ヨリ六箇月以内ニ

九七九

- 提出スヘシ、該訴願ハ總督ニ差出シ總督ハ之ヲ直チニ殖民大臣ニ送付スヘシ
- 三 規定ノ期間内ニ提出シタル訴願ハ樞密院ニ諮リ國王之ヲ處決ス
- 四 訴願期限内及國王カ訴願ニ對シ何等決定ヲナササル間ハ總督ノ決定ハ之ヲ施行セス
- 五 期限經過後ノ提出ニ係ル訴願ハ調査ヲナサスシテ國王之ヲ却下ス
- 六 期限内ニ訴願ヲ提出セサルカ又ハ訴願カ却下サレタル場合ハ權利消滅ノ宣告ヲ受ケタル礦業人ノ費用負擔ヲ以テ總督ノ處置又ハ王ノ勅裁ニ關スル通知ヲ關係抵當權者ニ發ス該通知ハ官報及總督ノ指定スル民營新聞ノ一種ニ發表ス
- 七 債權者ハ總督ノ處置及勅裁ニ關シ通知ヲ受ケ又ハ其ノ發表アリタル後本法令施行細則ニ於テ指定スル期間内ニ礦業人カ礦業ノ爲有スル在籍地管轄ノ裁判所ニ債權請求額（利息及諸掛共）回收ノ爲礦業裝置其他附屬ノ凡テ（補強工事等）ヲ含ム礦業權ヲ原礦業人ノ費用負擔ヲ以テ競買ニ附スルコトヲ願出ツルコトヲ得、但シ此場合ニハ各關係當事者カ全部各自ノ利益ヲ主張スル機會ヲ得タル後ニシテ判事ノ指定事項及民事訴訟法ノ規定ニ從フヲ要ス
- 八 債權者カ債權ノ主張ヲ爲ササル場合ハ權利消滅ノ宣告ヲ受ケタル礦業人ハ自己ノ負擔ヲ以テ礦業權ノ競買ヲ規定ノ期間内ニ願出ルコトヲ得

- 九 第七項ニ記載ノ裁判所書記ハ礦業權賣却ノ出願アリタルコトヲ直ニ政府ニ通知スヘシ
- 十 礦業人ハ競賣ニ參加スルコトヲ得ス、且ツ礦業權ヲ買受クルコトヲ得ス
- 十一 礦業權競賣ノ出願ナク又ハ競賣ニ附スルモ買手ナキ場合ハ礦業權ハ政府ニ回收セラル
- 十二 權利消滅ノ宣告ヲ受ケタル後ト雖モ礦業人ハ新礦業人ニ引渡ヲナスマテ又ハ礦業權カ政府ニ回收セララルマテハ礦業人トシテノ義務ヲ負ヒ礦業ニ關スル總テノ工事ハ其ノ當日マテ修繕ヲ施シ良好ナル状態ニ保存スルヲ要ス

第三十九條

左ノ場合ニ於テハ鑛區ニ對スル權利及鑛業權ハ法律ニヨリ無効ニ歸ス

- イ 鑛區ニ對シ權利ヲ有スル者又ハ鑛業人カ第四條ノ規定ヲ履行セサルトキ
- ロ 前記權利所有者又ハ鑛業人カ死亡シタル場合權利ヲ繼承シタル者カ第四條ノ規定ヲ履行セサルトキ

第四十條

- 一 第三十八條第六項ニ記載セル處分處置ニ關スル規定ハ鑛業權所有者カ其ノ權利取消ヲ出願セル場合ニモ適用セラル

- 二 判決其他ノ發表ハ鑛業人ノ責任ニ屬ス
- 三 此ノ場合ニ於テハ第三十八條第七項及第十一項ノ規定ヲ適用ス
- 四 裁判所ニ對シ競賣ノ出願ナキ時ハ該裁判所書記ハ其ノ旨ヲ鑛業人ニ通知スヘシ、同通知ハ競賣ニ關シ抵當權者ニ出願ノ有無ヲ明示セル説明書ト共ニ政府ニ送付スヘシ
- 五 鑛業權ノ一部取消ニ關スル出願ニ付キテハ鑛業權分割ニ關スル第十九條ノ規定ヲ適用ス

第四十一條

- 一 鑛業權取消ノ場合ハ鑛業權ニ伴フ凡テノ義務ハ消滅シ政府ハ鑛業人ノ財産ニ屬スル地表及地上ノ建設物ヲ除キ鑛區及之ニ關屬スル凡テノ補強工事ヲ自由ニ處分スルコトヲ得、且ツ政府ハ是等ノ處分ニ付テ鑛業人ヨリ補償ヲ要求セラルルコトナシ
- 二 總督ノ定ムル一定ノ期間ニ於テ鑛業人ハ補強工作物以外ノ諸設備、政府ノ土地ニ建設セル自己ノ建造物、鑛業ニ關スル其他ノ財産及採掘セル工物ヲ取除クコトヲ得其ノ期間内ニ於テ取除カレサルモノハ總督ノ承認シタル他ノ方法ニヨリ處分スルニ非サレハ政府ニ歸屬ス

第四十二條

鑛業權取消ノ宣告ヲ受ケタル場合及第三十八條及第四十條ニヨル賣却ノ場合ハ鑛業ニ關スル凡

テノ地圖圖面及見取圖ハ政府ノ用ニ供スヘシ

チ 附 則 (shot en overgangsbepalingen)

第四十三條

- 一 本法ノ效果ヲ増進シ且ツ公益保護ノ爲採鑛探鑛ヲ監督スルニ必要ナル施行細則ハ總督令ヲ以テ定ム
- 二 政府ノ監督ハ第十四條ノ義務採鑛權許可ニ際シ必要ト認メタル特殊條件及鑛業權許可決定書ニ記載セラレタル條件ノ履行以外ニ左記ニ關スル凡テノモノニ及フ
 - イ 鑛業工事ノ堅固ナルコト
 - ロ 勞働者ノ生命及健康ノ保全
 - ハ 人命及交通ヲ安全ナラシムル爲メノ地表ノ保護
 - ニ 鑛業ノ爲一般ニ及ホス害毒ノ豫防
- 三 鑛業ニヨリ前項ニ述ヘタル所ニ關聯シテ危險ヲ生ジタル場合鑛業人カ一定ノ期間内ニ規定ヲ履行セサルトキハ監督官吏ハ鑛業人ト協議ノ上自ラ規定ヲ履行シ直チニ其ノ執行シタル事項ヲ政府ニ報告ス

- 四 緊急ノ場合ハ前項ノ官吏ハ職權執行ニ付キ鑛業人ノ意見ヲ徵收スルヲ要セス
 - 五 鑛業人ハ第一項及第二項ニヨリ監督官吏ノ探ルヘキ處置ヲ認容シ且ツ費用ヲ支拂ヒ又ハ補償スルノ義務ヲ有ス
 - 六 監督官吏ノ採リタル處置ニ付キ訴願ヲナシ得ヘキ事項ハ總督令ヲ以テ之ヲ定ム
 - 七 第三項及第四項ノ規定執行ハ上級官廳(裁判所ニアラサルカ)ニ訴願スルモ之ヲ中止スルコトナシ
 - 八 政府ノ監督ニ關スル本條ノ規定及本條ニ基キ制定サレ又ハ制定サルヘキ規定ハ第五條ノ二ニ基キ政府ト契約ノ結果個人又ハ會社カ行フ探鑛及採掘ニ準用ス
- 本法ハ官報ヲ以テ公布シ各省大臣當局者及關係部局官吏ハ速カニ之ヲ施行スヘキコトヲ命ス
- 第四十四條
- 一 蘭領東印度政府章程(即チ蘭領東印度憲法)第二十七條第二項ハ統治者カ條約ヲ以テ探鑛權及採掘權ノ下附權ヲ蘭領印度政府ニ引渡シタル蘭領印度内自治制施行地ニ適用ス
 - 二 自治制施行ノ爲必要トスル本法ノ免除及本法ニ代ルヘキ規定ハ前記蘭領東印度地方ニ對シ總督令(註、一九〇七年ノ本鑛業法施行細則ヲイフ)ヲ以テ定ム

第四十五條

- 一 本法ハ鑛產稅ニ關スル特別ノ規定及採掘ニ關スル特別ノ契約ノ規定ハ別トシ前下附シタル探鑛許可及鑛業權ニ適用ス
- 二 本法施行前ニ許可シタル鑛業權ニ關スル鑛產稅則ハ當事者ノ請求ニヨリ本法ニ適合スル様改正スルコトヲ得
- 三 本法第一條ニ記載以外ノ鑛物ノ採取ニ對シ許可シタル鑛業權ハ繼續スルモノトス

第四十六條

- 一 本法ハ印度鑛業法 (Indische Myunet) ト稱ス
 - 二 本法ノ施行期日ハ更ニ總督令ヲ以テ之ヲ定ム
- 本法ハ官報ヲ以テ公布シ各省大臣、當局、關係部局官吏ハ速カニ之ヲ實施スヘシ
- 前條ニ規定ノ印度鑛業法ノ變更ハ一九一三年五月一日以前ニ許可シタル探鑛權所有者ノ權利及同日以前探鑛出願不許可處分ノ爲、總督訴願ノ結果裁定ニ依リ獲得シタル權利ニ及ホサス

第二項 鑛務部規則

本部ハ官業局中ノ特殊部局ヲ形成シ政府鑛業部長タル技師長ノ指揮ニ屬ス(一九〇七年官報第五

九號)

本部ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 鑛業ノ管理及指揮
- 二 鑛業及鑛物ヲ取扱フ工場ニ對スル公安保持上ノ監督
- 三 學術及產業ニ有益ナル地質、鑛物及鑛業ニ關スル詳細事項ノ發表
- 四 蘭領印度ノ完全ナル地理及地質調査ノ漸進的遂行
- 五 總督カ必要ト認ムル鑛業ニ關スル調査
- 六 鑛物學、化學及冶金學的試驗
- 七 左ノ土地測量
 - イ 試錐ニ依ル有用鑛、石、炭層、鑛泉及鑛油ノ調査
 - ロ 未錐測地ニ於ケル試掘前ノ地質調査
 - ハ 飲食並灌溉用井戸ノ掘鑿

鑛業部長ハ其ノ職務上蘭領東印度土地調査常置委員トス、蘭領印度ニ關シテハ鑛業技師ノ調査成績並ニ鑛業ニ關スル學術及行政上ノ通信ハ「バタビヤ」印刷局ニテ發行スル「鑛務部年鑑」ニ發

表ス

尙「印度鑛物及其適用ニ關スル報告及通信」ト題スル小冊子ヲ時々發行ス
 一九〇九年九月六日政府布告第四二號ニ依リ官業局長ハ印度群島ニ於ケル鑛物發見ニ關スル有益ナル報告ヲ提供シタル者ニ對シ報酬ヲ與フルコトヲ得

第三項 個人ノ鑛物探査、探掘、採取ニ關スル規則

(一九二一年總督府年鑑第四四七、四五二頁)

本規則ハ印度鑛業法(一八九九年印度官報第二一四號)ニ規定シアリテ一九一〇年九月二十六日法律(印度官報第五八八號)及一九一八年六月二十日法律(一九一九年印度官報第四號)ヲ以テ變更セラレタリ、尙該規則ハ鑛業法施行細則(Mining ordinance)ト稱スル施行規則ニモ規定シアリ、而シテ該施行細則ハ一九一二年官報第三六〇、號一九一四年官報第一八五號、第六八九號、一九一六年官報第五七〇號、第七一六號、一九一七年第八四號、第一三三號、第四九七號、第五二五號、第七二九號及一九一九年官報第一五號、第三六七號ヲ以テ變更セラレタリ
 土地所有者又ハ所持者カ管理スルコトヲ得サル鑛物ハ印度鑛業法第一條ニ規定シアリ
 上記以外ノ鑛物採取權ニ關シテハ民法第五七一條及第七二一條ノ規定ヲ適用ス

鑛物ノ探查ヲナサントスル者（土地所有者又ハ所持者ヲモ含ム）ハ豫メ探查區域管轄ノ州長官ノ許可ヲ受クルヲ要ス

出願手續ニ付キテハ印度鑛業法第四條及第七條並ニ鑛業法施行細則第五、第六、第七、第六〇—六二、第六四—六七、第七三、七四及第七五條ヲ參照スヘシ、出願區域ハ一萬「ヘクタール」ヲ超過スヘカラス、出願件數一件以上ノ場合ニ於ケル優先ニ就テハ印度鑛業法第七條及鑛業法施行細則第六九條ヲ參照スヘシ

出願地行政長官ハ願書ヲ鑛業部長ニ送付シ（電報ニテ出願ヲ許サス）鑛業部長ハ意見ヲ附シ願書ヲ返送ス、出願地行政長官（州長官）ハ鑛業部長ノ意見ニ從フヘシ、從ハサル場合ハ官業局ノ裁定ヲ乞フヘシ、許可ノ裁定ヲ得タル場合ハ行政長官ハ鑛業法施行細則第七〇條ニ規定ノ方法ニ依リ願書ヲ公告シ且ツ（*Javaasche Courant*）ニ掲載スヘシ

土地所有者第三關係者及其ノ他ノ者ニシテ出願許可ニヨリ損害ヲ受クルモノハ地方新聞ニテ發表後三箇月以内又ハ（*Javaasche Courant*）ニテ發表後二箇月以内ニ自己ノ利益ヲ主張シ又ハ出願許可ニ對シ抗議ヲ申込ムコトヲ得（鑛業法施行細則第七一條）、地方長官ハ鑛業部長ノ指示ニ從ヒ抗議ヲ處理スヘシ、若シ鑛業部長ト意見ヲ異ニスル場合ハ官業局長ノ裁定ニ基キ處理スヘシ

許可申請ニ對スル地方長官ノ決定ハ（*Javaasche Courant*）ニ發表ス、發表後二箇月以内ニ該裁決ニ關係ヲ有スルモノハ總督ニ訴願ヲ提出スルコトヲ得（鑛業法施行細則第八三—第八七條）

裁決ニヨリ探鑛許可ヲ得タルモノハ裁決ノ日附後四箇月以内ニ裁決中ノ一箇條又ハ一箇條以上ノ規定ニ關シ總督ニ訴フルコトヲ得

可成の正確ニ指定シタル土地ニ對シ三箇年ノ期限ヲ以テ許可證ヲ交付ス、該許可證ヲ所持スルモノハ許可證ノ規定及條件ニ從ヒ指定土地内ニ於テ印度鑛業法第一條ニ記載ノ鑛物探查ノ爲必要ナル調査ヲナシ又ハ鑛床及鑛床中ニアル鑛物ノ性質ヲ判定スルニ必要ナル調査ヲナス權利ヲ有ス、探鑛ハ探鑛ニ依リ他人ノ蒙ルヘキ損害ヲ補償シタル後ニ非サレハ行フコトヲ得ス、若シ豫メ補償額ヲ決定シ難キ場合ハ補償ニ對スル保證ヲ供託スルコトヲ要ス

調査ヲ許ササル土地ハ印度鑛業法第八條ニ規定セリ

既ニ鑛業權ヲ許可シタル區域内ニ於テモ探鑛ヲ許可スルコトヲ得

許可證所有者ハ自己ノ取得シタル鑛物ヲ自由ニ處分スルコトヲ得、但シ他人ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得ス

政府ハ探鑛許可一件毎ニ左ノ課稅ヲナス

イ 探鑛地面積一「ヘクタール」ニ付年額二仙半（每年前納）

ロ 一萬五千盾以上ノ所得ニ對シテハ總收入ノ年額四歩（鑛業法施行細則第三〇九條）

探鑛許可ハ許可證所有者ノ申請ニ依リ一回一箇年ノ期限ヲ以テ二回延期スルコトヲ得

但シ規定ノ期間内ニ申請ヲナシ且ツ絶エス熱心ニ探鑛ニ從事シタルコトヲ立證スルヲ要ス、延期申請ハ許可出願ト同一方法ニヨリ取扱フ、申請却下ノ場合ハ總督ニ訴フルコトヲ得（印度鑛業法第七條及鑛業法施行細則第九五條—第一〇一條）

探鑛許可證所有者カ自己ノ探鑛區域ニ於テ印度鑛業法第一條ノ「イ」ニ記載ノ鑛物一種以上ヲ發見シタル場合ハ該鑛物ヲ採掘スル權利ヲ取得ス、但シ探鑛許可ノ期限滿了前ニ採掘出願ヲナシ且ツ尙許可證ヲ所持スルヲ要ス、採掘出願ヲナシタル後出願ノ處分ニ付キ通知ヲ受クル迄ハ許可期限經過後ト雖モ探鑛作業ヲ繼續スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ探鑛許可所有者ニ關スル凡テノ規定ノ適用ヲ受ク（印度鑛業法第二八條、第二九條及鑛業法施行細則第四條）

第一條ノ「ロ」ノ第一項ニ記載ノ鑛物ヲ發見スルモ鑛業權ヲ與ヘス、該鑛物ノ採掘及地上搬出ハ政府自ラ之ヲナスカ又ハ第五條（ニ）ノ規定ニ基ク契約ニ依リ行フ、而シテ發見ニ對スル報酬ハ豫メ協定ナキ場合ハ其ノ都度總督之ヲ定ム

鑛業權ハ探鑛權ノ讓渡ニ關スル規定（鑛業法施行細則第一九條）ト同様ノ規定ニ依リ讓渡スルコトヲ得、鑛業權所有者死亡ノ場合ハ權利繼承者ニ移轉ス

探鑛權ハ地方行政長官ノ許可ヲ得テ讓渡スルコトヲ得、其ノ出願ハ當事者双方ヨリ提出シ探鑛許可出願ト同一ノ方法ヲ以テ取扱フ、該許可ヲ讓受ケタル者ハ原權利者ト同一ノ規定ニ從フヲ要ス、出願不許可ノ場合ハ總督ニ訴フルコトヲ得（印度鑛業法第七條及鑛業法施行細則第一一條及第一〇三—一〇一條）

許可所有者死亡ノ場合ハ許可ヲ繼承スヘキ權利ヲ有スルモノニ移轉ス、但シ死亡後直ニ又ハ一箇年以内ニ印度鑛業法第四條ノ規定ヲ履行スルコトヲ要ス、許可ハ其年内ニ前記方法ニ依リ移轉スルコトヲ得（印度鑛業法第四條及鑛業法施行細則第八條、第九條及第一〇條）、許可ヲ受ケタル後一箇年以内ニ探鑛許可ヲ使用セサレハ許可ヲ取消ス（印度鑛業法第七條及鑛業法施行細則第九三條及第九四條）

法律ニ依ル許可ノ喪失又ハ取消ニ關スル規定ハ印度鑛業法第一一條、第一二條及鑛業法施行細則第一八條、第四一—四三條及第一一一—一二〇條ニアリ

法律ニ規定ノ期間内ニ規定不履行ニ基ク許可ノ喪失又ハ取消ノ場合ハ該許可所有者タリシモノニ

ハ前ト同一ノ區域又ハ其ノ一部ニ對シ再ヒ許可ヲ與ヘス、許可ヲ他人ニ贈與シ又ハ讓渡シタル者ニハ前許可ト同一ノ區域又ハ其ノ一部ニ對シ再ヒ許可ヲ與ヘス

探鑛許可所有者ニ關シ規定シタル以外ノ者ハ何人ト雖モ總督ヨリ鑛業權ヲ得ルニ非サレハ印度鑛業法第四條ニ記載ノ鑛物ヲ採掘スルコトヲ得ス

鑛業權證書ニ記載ノ鑛物一種以上ニ對シ鑛業權ヲ許可ス、第一條ノ「ロ」ニ記載ノ鑛物ヲ除キ鑛業權ハ探鑛許可ヲ有スル者又ハ鑛業人ニシテ自己ノ鑛區ニ於テ鑛物ヲ發見シタルモノノミ請求スルコトヲ得但シ發見鑛物カ鑛區内ニ自然ノ狀態ニテ存在シ其ノ採掘カ技術上可能ナルコトヲ立證シ總督之ヲ認ムルコトヲ要ス（印度鑛業法第一三條、第二八條及鑛業法施行細則第一六二條第一六三條）、土地所有者又ハ第三關係人ハ自己ノ發見ニ係ル液狀瀝質物體又ハ瓦斯狀物體ニ對スル鑛業權ヲ主張スルコトヲ得ス

鑛業權出願ハ鑛業部長ニ提出シ鑛業部長ハ之ヲ (Gravelle Current) ニ掲載ス、出願者ノ資格要件ハ印度鑛業法第四條及鑛業法施行細則第一七三條ニ規定ス、株式會社ニシテ其ノ定款ニ鑛業ヲ含マサルモノニハ鑛業權ヲ許可セズ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 姓名、職業、年齢及住所
 - 二 鑛物發見ノ場所及鑛區ノ境界線
 - 三 鑛業權ノ名稱
 - 四 選定シタル住所
 - 五 鑛區内ニ存在スル土人工場ノ位置（鑛業法施行細則第一六八條參照）
- 前記願書ト共ニ測量技師ノ實測ニ成ルニ萬分ノ一以上ノ出願鑛區圖面三通ヲ提出スヘシ（鑛業法施行細則第一六九條）、其他ノ出願手續ハ印度鑛業法第二八條及鑛業法施行細則第一九條、第一六四條、第一六五條、第一六七條及第一六〇—一七二條ニ規定セリ
- 鑛業權ハ七十五箇年ヲ超過スル期間ニ對シ許可スルヲ得ス、尙左ノ面積ヲ超ユヘカラス
- 一 「ジャバ」、「マヅラ」、及「スマトラ」西沿岸州ニ於テハ二千「ヘクタール」
 - 二 其ノ他ノ土地ニ於テ（註）瀝青物體ノ採掘ニ對シテハ四千「ヘクタール」、其ノ他ノ鑛物ニ對シテハ一千「ヘクタール」

（註）之ハ事件ノ性質ヨリシテ既ニ取得シタル權利ニノミ適用ス（一九一九年官報第四號第十條參照）

出願取扱細則ハ鑛業法施行細則第一七六條及第一九二條ニ規定ス競賣ノミニ依リ鑛業權ヲ許可ス

ル件ハ印度鑛業法第三一條第三二條及第三四條ニ規定ス

鑛業權ニ基キ取得シタル權利ハ不動産トシテ一定條件ノ下ニ擔保ニ供シ又ハ讓渡ヲナスコトヲ得
(印度鑛業法第一八條)

鑛業權ハ鑛業法施行細則第二一—二一七條ニ規定ノ方法ニヨリ公告シ該公告ニ依リ初メテ效力
ヲ生ス

政府ハ鑛業權ニ左ノ課稅ヲナス

イ 鑛業地面積一「ヘクタール」ニ付キ年額二十五仙(每年前納)

ロ 總收入ノ年額四歩但シ特殊ノ場合ハ最低一步迄減スルコトヲ得(印度鑛業法第三五條、第
三六條及鑛業法施行細則第三〇二條、第三〇八條、第三一—三三四一條)

鑛業權及其取消ノ宣告ニ對スル理由ハ印度鑛業法第三七條及其ノ後ノ條項ニ規定セリ

宣告ノ方法ハ前記條項ニ規定シアルモ詳細ハ鑛業法施行細則ニ規定セリ

鑛業法ニ基キ探鑛又ハ採鑛ヲナス土人ニ對シテハ歐洲人ニ適用スル民法ノ規定ヲ適用ス

但シ鑛業法ニ關シ適用シ得ヘキ場合トス(鑛業法施行細則第四九條)個人ノ探鑛及採鑛ニ對スル
政府ノ監督ニ關シテハ鑛業法施行細則第一〇條ニ詳細規定シアリ、同規定ハ一九一四年官報第七

八九號及一九一七年官報第一三三號及第五二五號ヲ以テ變更ス

印度鑛業法ハ僅少ノ例外ヲ除キ政府ノ經營ニ係ル探鑛及採鑛ニ適用セス、政府ノ探鑛及採鑛ニ付
キ契約ヲナス權限ニ關シテハ印度鑛業法ノ變更ヲ目的トセル一九一〇年九月二十六日法律ヲ參照
スヘシ(印度官報第五八八號)

土人又ハ土人ト同等ノ身分ヲ有スル者ノ營ム鑛業ニ對シテハ左ノ場合ニ限り印度鑛業法ヲ適用セ
ス

イ 自己ノ計算及利益ヲ以テ小規模ニ探掘ヲナス場合

ロ 租借ノ方法ニ依リ探掘ヲナスカ又ハ其他ノ理由ニヨリ別ノ規定ニ據ル場合(印度鑛業法第
六條及鑛業法施行細則第四八條及其他ノ條項)

蘭領東印度憲法第二七條ノ第二項ノ規定ハ統治者カ條約ヲ以テ鑛業權許可ノ權限ヲ政府ニ移シタ
ル自治制施行地ニ適用ス、土人自治制ニ對シ印度鑛業法ノ適用スヘカラサル點及同法ノ改正ヲ要
スヘキ點ハ印度鑛業法第四四條第二項ノ有效ナル限り前記土地ニ對シ總督令ヲ以テ規定スヘカリ
シ管ナルモ此ノ如キ命令ノ發布ハ一九一四年官報第二號ノ存在スル限り自治制施行地ニ關シテハ
適當ト認メラレス、自治制施行地ト政府トノ關係ハ所謂 (Kort Declaration) ニヨリ規定ス(一九一

九年官報第八二二條及第八二三號、一九一九年自治令 (zelfbestuurs reglement 1919) 參照、一九一九年定報第八二二號及第八二三號、一九一四年官報第二號)

其ノ他ノ自治制施行地ニ於テハ探鑛許可證ハ州長官及官業局長ノ承認ヲ要シ探鑛ニ關シテハ總督ノ承認ヲ要ス、此等ノ許可ヲナス場合ハ成ル可ク鑛業法ニ則リ同時ニ土人諸侯ト締結シタル條約(一八七五年十一月二十三日第二六八九號「イ」項總督書記官長書面)ニ注意スヘシ

鑛業ニ關シ政府カ同一條約ヲ締結シタル自治制施行地名及條文ハ一八八四年鑛務部年鑑(第三九一—四六三頁、工業及行政ノ部及民政部ノ下ニアル外領 (buiten bestuursgebied))ニ於ケル自治制施行地表參照)ニアリ

探鑛及採掘ニ關スル許可證ノ様式ハ政府ニ於テ作成シ各地方長官宛送達シアリ依テ成ル可ク同様式ニ從フヘシ、同雛形ハ「ウエルテブレテン」(Wolterreden)ノ學用器具販賣所 (Depot van technische material) 又ハ教科書販賣所 (depot van school boeken) ニ於テモ受取ルコトヲ得(官報附錄 (bybladen) ノ第五四五〇號、第五五五五號、第五六一四號、第六二八五號、第六五四〇號、第七〇八〇號及第八四四九號) 印度鑛業法ハ同法規中ノ鑛產稅ニ關スル規定及法律ノ認可ヲ得タル探鑛ニ關スル契約トニ抵觸セサル限リ同法規施行前ニ許可シタル探鑛及採掘權ニ適用ス、一九〇七年五

月一日以前ニ許可シタル鑛業權ニ對スル課稅規定ハ當事者ノ請求ニ依リ新法規ニ一致セシムル爲之ヲ變更スルコトヲ得、一九〇七年五月一日(一八七四年官報第二八號)以前ニ許可シタル鑛業權ニ對スル鑛產稅規則ハ一九一五年官報第二六一號ヲ以テ變更ス、印度鑛業法第一條ニ記載ノ鑛物以外ノ鑛物採掘ニ關シ既ニ許可シタル鑛業權ハ有效トス、(鑛業法及鑛業法施行細則ニ規定ノ附則參照)

「ピリト」島ニ於ケル鑛業權、一九〇九年九月一日現在ノ鑛業權及印度鑛業法第一條ニ記載ナキ鑛物ノ採掘許可ニ關シテハ本年鑑ノ追加條項ヲ見ルヘシ

一九〇六年石油令(官報第一四三號、一九〇八年官報第二一三號、一九〇九年官報第一〇七號)ヲ取消シ新ニ石油令ヲ制定シ一九一〇年官報第二七號ヲ以テ公布セリ、同令ハ一九一二年官報第五六二號、一九一七年官報第一六一號ヲ以テ變更シ且ツ追加ス、本石油令ハ蘭領印度各港ノ繫船地及港内ニ於テ石油其ノ他可燃性油ノ運搬陸揚及船積ニ關シ規定ス

石油其ノ他可燃性液體ノ貯藏竝ニ保管ニ關シテハ一九一七年官報第一六〇號ヲ以テ規定シ同規定ハ一九一七年官報第五三七號及一九一九年官報第二二六號ヲ以テ變更セリ

一九一九年官報第一六〇號第四條第四項ノ規定ハ蘭領印度官報附錄 (bybladen) 第八八五八號ニ

アリ

一八八四年三月二十三日總督令(官報第五〇號)ヲ取消シタル後ハ何人ト雖モ官業局長ノ許可證
 ナクシテ地下十五米突以上ノ地中ヨリ水ヲ引キ又ハ十五米突以上ノ既存掘抜井戸ノ修繕又ハ掃除
 ヲナスコトヲ得ス、且ツ官業局長ハ許可ヲ與フルニ先チ地方評議會(地方評議會ナキ場合ハ地方
 長官)ノ意見ヲ徵スルヲ要スル旨一九一二年八月十日政府決議第二十六號(官報第四三〇號)ヲ
 以テ規定セリ、現存法規ニ牴觸スルカ又ハ公益ニ反スル場合ニ限り許可ヲ拒絕スルモノトス
 本法ニ違反シタルモノハ三箇月以内ノ懲役又ハ二千盾以下ノ罰金ニ處ス、土人又ハ土人ト同等ノ
 身分ヲ有スルモノハ食料ノミヲ給シ(賃金ヲ給セス)上記ノ期間土木工事ノ苦役ニ服セシム、官業
 局長ハ許可ヲ得スシテ行ヒタルモノハ其ノ何物タルヲ問ハス之レヲ取消シ得ル權能ヲ有ス
 官業局長ハ公安ノ爲必要ト認ムル條件ヲ之レニ追加スルコトヲ得、條件不履行ノ場合ハ許可證所
 有者ノ負擔ニシテ政府ハ適當ノ處置ヲナスコトヲ得
 地下十五米突以上ノ地中ヨリ引水ノ爲行フ試掘ニ關スル規定ハ官報附錄 (by Indian) 第七九五四
 號ニアリ

第五節 蘭領東印度關稅定率法並關係諸法規

第一項 關稅定率法

附、府屬A B表

一八七二年十一月十七日和蘭官報第一三〇號、蘭領東印度官報一八七三年第三三號
 一九一〇年官報第七九號、一九一四年官報第二四五號、一九一五年官報第二一九號
 及第二二五號、一九一六年官報第四七一號、一九一九年官報第四五二號、一九二一
 年官報第二二〇號及第三四六號ニ依リ改正

第一條 瓜哇及「マヅラ」島「タバヌーリ」「スマトラ」島西海岸「ベンクラーレン」「ランボン」地方

「バレムバン」「バンカ」及其ノ屬領「スマトラ」島南部及東部地方ノ各理事廳管内並ニ「アチ

エ」政廳及其ノ附屬地管内「シンケル」地方ニ於テ消費ノ爲外國ヨリ輸入シ及免稅ノ規定ナキ

總テノ物品ニ對シ本法附錄(A)ニ規定スル定率表ニ依リ輸入稅ヲ賦課ス

第二條 定率法ニ依リ輸入稅ヲ免除スル物品ノ外更ニ左ノ物品ニ對シテハ輸入稅ヲ免ス

一 (イ) 蘭領政府ノ名ニ於テ課稅セル蘭領東印諸領土ノ總テノ生産品

但シ政府ノ倉庫ヨリ出庫セサル鹽、瓜哇及「マヅラ」島以外ノ諸領州ニ輸入セラレタル酒精

ニシテ消費稅ノ規定ニ依ラサルモノ並ニ是等諸領州ヨリ輸出證明書ヲ附セル綿製品、煙草及

葉卷煙草ハ之ヲ除外ス

(ロ) 瓜哇及「マヅラ」島以外ノ諸領州ニ輸入セラルル「ガムビル」綿織布品、煙草、葉卷

煙草、鹽及酒精ヲ除キ他ノ蘭領東印度諸領土ノ總テノ生産品

二 輸入税カ蘭領東印度税關ニ於テ既ニ仕拂ハレタルコトヲ證明サルル總テノ物品

但シ若再輸入ノ場所ニ於テ一屬高率ノ輸入税ヲ課セラルヘキモノナルトキハ其ノ差額ニ相當
スル金額ヲ仕拂フニ非サレハ該物品輸入ヲ許可セス

三 旅客ノ携帶セル旅具及其ノ自用品

第三條 濫用豫防ノ必要上工場及他ノ製造工業ニ使用セラルル化學藥品、染料及他ノ類似品ニ對
シテハ總督令ヲ以テ其ノ輸入税ヲ免除ス

(註) 一九一六年官報第四七四號總督令(化學工場ニ於テ植物質原料ノ浸出用「クロロフォルム」ニ關スル規定)參照

總督ハ尙左ノ場合輸入税ノ免除又ハ拂戻ヲ爲スコトヲ得

(イ) 政府ノ使用或ハ政府ノ經費ヲ以テ輸入スル物品

(註) 一九一六年官報第四七五號參照

(ロ) 學術研究ノ爲輸入スルモノ

(註) 一九一五年官報第三七八號參照

若ハ國際的關係ニ依リ輸入税ノ免除又ハ拂戻ヲ爲スヘキモノ(附錄(ハ)參照)

(註) 一九〇八年官報第一〇七號及一九二一年官報第三二號參照

第四條 本法第一條ニ揚クル蘭領東印度諸地方ヨリ輸出スルニ當リ本法附錄(B)定率表ニ規定
スル物品ニ對シテハ同表ニ依ル輸出税ヲ賦課ス

第五條 總督ハ其ノ附與セラルル職權ニ依リ本法第一條ニ掲クル瓜哇及「マヅラ」島以外ノ諸州
ニ於テ又上記諸州内ノ一部地方ニ對シ本法第四條ノ定率表ニ掲ケサル左記物品ニ限り輸出税ヲ
課スルコトヲ得

但シ該輸出品ニ對スル課税ハ其ノ價格ノ百分ノ十又ハ之ニ等シキ金額ヲ超過セサルコトヲ要ス

安息香「ゴム」「ダマル」「ガタ」「インヂア」「ラッパ」及他ノ種類ノ「ゴム」竝ニ樹脂

木材(帆脚、橈及他ノ圓材ヲ含ム造船材料及材木ヲ除ク)

鹿角

象牙及犀角

「マングローヴ」樹皮「テンガル」樹皮

籐(總テノ種類)

「サーナ」(Sarna)

烏皮「レンカワン」核 ((Tengkawang kernels))

蠟及特ニ指定スル他ノ林産物 (附録(イ)参照)

第六條 蘭領東印度税關ニ對シ既ニ輸出税ヲ仕拂タル物品ハ其ノ輸出税ヲ免除ス

但シ物品カ再輸出ノ場所ニ於テ一層高額タル關税ノ仕拂ヲ要スルモノナルトキハ其ノ差額ニ相當スル金額ヲ仕拂フニ非サレハ輸出ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 「ムアラ、コンバ」ニ於ケル輸出入税ノ賦課及其ノ免除ニ對シ當分ノ内一八四七年四月二十三日蘭領東印度總督令(蘭領印度官報第一九號)ニ依リ規定セララルル規則ハ猶其ノ效力ヲ有ス

更ニ他日和蘭女王陛下ノ裁可ヲ經ルコトトシ總督ハ必要ト認ムル除外例ニ依リ「ムアラ、コムバ」ニ本法ヲ適用スル權能ヲ有ス

(註) 「ムアラ、コムバ」(「ヂャムビ」)ニ於ケル輸出入税賦課ニ關スル一八四七年四月二十三日公布總督令(蘭、印、官、第一九號)ハ一八四七年總督令(官報第三三四號)ヲ以テ廢止尙同總督令ヲ以テ其ノ輸出税賦課ハ關稅定率法ニ依リ「ヂャムビ」全州ニ擴張セララルル其ノ後

該總督令ハ更ニ一九一〇年官報第六二八號總督令ヲ以テ變更(附録(イ)参照)

但シ是等除外例ハ關稅賦課カ總テノ差別的輸出入ヲ排除シ制定セララルル本法ノ原則ニ違反セス

第八條 總督ハ其ノ職權ニ依リ前條末項ニ於ケル「ムアラ、コムバ」ニ關シ規定セルト同時ニ保留ニ依リ本法一條ニ掲ケサル蘭領東印度ノ他ノ地方ニ於テ蘭領東印度政府ノ爲輸出入税ヲ賦課スルノ權能ヲ有ス(附録(イ)参照)

第九條 輸出税ヲ課スヘキ物品又ハ斯クノ如キ物品ニ課スヘキ關稅率ニ關シ差異ヲ設クル蘭領東印度ノ異ナル各地方間ノ運送ニ對シ輸出税賦課ノ適用方法ハ總督之ヲ定ム

(註) 一九一〇年官報第六二八號總督令第四條(附録(イ)参照)並ニ一八八二年官報第二四〇號總督令(追加制限ニ關スル總督令)細則(A)第五十二條及第五十四條並同細則(B)第十條及第十一條)参照

第十條 總督ハ保税倉庫ノ倉敷料、鑑定審査及他ノ實務ニ對シ納付スヘキ料金率ヲ制定ス(註) 一八八二年官報第二四〇號總督令第九條及附屬規定(A)第二十四條参照

第十一條 通過ノ場合ニ於ケル物品ニ對シテハ關稅ヲ賦課セス

第十二條 本法ノ正當適用及其ノ脱税ニ對スル保全方法ニ關シテハ植民地總督令ヲ以テ之ヲ定ム(註) 一八八二年官報第二四〇號總督令参照

輸出入税及之ニ關係スル現行總督令ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十三條 本法規定ハ或特種物品ノ輸入ニ對シ植民地總督令ニ依リ既ニ施行セラレ若ハ施行サル

ヘキ蘭領東印度全部又ハ其ノ一部地方ニ於ケル禁止規則ヲ無効ト爲サス

第十四條 本法ハ一八七四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 本法ハ之ヲ印度關稅定率法 (Indische Tarifwet) ト稱ス

A 蘭領東印度關稅定率法第一條ニ屬スル附錄

輸入稅表 (關稅輸入定率表番號ノ簡單ナル「アルフ」
「アベチカル」物品表ハ附錄「チ」參照)

(註) 本表原文ハ「アルフアベチカル」(和蘭語)ニシテ本譯文ハ即チ原文其儘ノ配列順序ニ依リ

號番	品名	單位	稅率
1	陶器(焙燒)及磁器	從價稅	一〇%

(註) ※申告價格ハ稅關保稅倉庫ニ於ケル價格タルコトヲ要ス但シ公定價格表ニ掲ケル物品ニ關シ既ニ其輸出入稅計算ノ價格ヲ定ムルモノハ該表ニ依リ其物品ニ相當スル關稅ヲ支拂ハサルヘカラス公定價格表ハ關稅地域内ニ所在スル商業及工業會議所ノ商議ヲ經テ財政部長官三箇月毎ニ之ヲ定メ官報附錄ヲ以テ之ヲ公布ス

稅關保稅倉庫ニ於ケル價格ハ物品實價ニ於ケル正當取引ノ場合ノ如ク蘭領東印度ニ於ケル上記稅關保稅倉庫渡C、I、F、渡ニ對シ外國ニ於ケル直接(當事者ヨリ直ニ得タル場合)最近ノ時價相場ノ價格トス

普通ノ場合(即チ Delivery)ハ契約ニ依リ約定セス最短航路ノ方法ニ依ル直送船積及到着後即時輸入)ニ於ケル價格(即チ保稅倉庫ニ於ケル價格)ハ上記保稅倉庫ニ在ルトキニ於テモ關係物品カ卸賣商ニ仕拂ハレタル價格ニ一致スル様評價セラル即チ上記保稅倉庫迄「Delivery」ノトキニ於テモ荷造、輸送及保險料並ニ他ノ船積費用ニ依リ増加シタル原産地ノ直接賣價格トス

上記公定價格表ニハ財政部長官ノ意見ニ依リ物品價格ハ普通現ニ商取引ニ用フル尺度、重量若ハ其實相場ニ依リ解釋セラルヘキ物品ノミナ上ヲ

2	陶器、屋根瓦、床瓦及煉瓦類	從價稅	六%
3	亞力 (arrak) 酒樽	無稅	
4	食酢	從價稅	一〇%
5	骨炭	無稅	
6	來酒(樽詰)	「ヘクトリットル」	七盾五十仙
7	同(樽詰)	同	八盾
8	「ブリキ」板	無稅	
9	白葉鐵製品	從價稅	一二%
10	書籍、地圖、海圖、印畫及繪畫樂譜(製本セス「バラ」綴リノモノ或ハ製本セルモノ)	無稅	

(特別規定) 梓線付印畫及繪畫ハ別號ニ掲クル家具トシテ課稅ス(第五十一號參照)

11	火藥	從價稅	六%
12	「セメント」	一	
13	飲料品(別號ニ掲ケサル飲料品)	從價稅	四〇仙
14	食料品(別號ニ掲ケサル食料品)	從價稅	一二%
15	驢及騾馬	同	一二%
16	工業用機關、蒸氣機關、機械及器具、農具、製造及工匠器具、採礦及手藝或ハ職業用器具並ニ稅關官吏ニ於テ是等部分品ト認ムルモノ	無稅	
17	檳榔膏	從價稅	六%
18	同(其他)	一〇〇	基瓦
19	絲縷	從價稅	二〇盾
20	酒精(附錄(ニ)參照)	從價稅	一〇%

(註) 該消費稅高ハ酒精強度五〇%、一「ヘクトリットル」ニ付一五〇盾ト定ム他ノ容量或ハ強度ノモノハ此比例稅ヲ

攝氏實際計十五度ノ溫度ニ於テ酒精五〇%ヲ含有スル液體一「ヘクトリットル」

※土產「スピリット」ノ消費稅高

徵收ス(一九二一年官報第二八七號總督令參照) 特別規定

- 一 酒精含量ノ強弱ハ酒精五〇%ヲ以テ標準トス其ノ強度ノ鑑定計算ニ關スル訓令、計器及計算表ハ總督之ヲ定ム(一九二八年官報第九二號參照)
- 二 但シ比重計及寒暖計ニ依リ直接且簡單ニ強度檢量ヲ爲シ得サル物質ヲ以テ精製或ハ混合スル「リキユール」酒及他ノ類似蒸溜液飲料品ニ對シ當該稅關檢査官吏ニ於テ上記部類ニ屬スル飲料品トシテ申告セラルル液體方強度七十五%以上ノ酒精ノ含有ヲ推定セラルルニ非サレハ是等ノ類別ハ七十五%ヲ算比ノ標準ト定ム此場合檢査官吏ハ實際ノ強度檢査ヲ爲スノ權能ヲ附與セラレ而シテ其ノ類別ハ強度超過ノ程度ニ依リ之ヲ定ム
- 三 比重計及寒暖計ニ依リ簡單ニ其ノ強度ノ直接測定ヲ爲シ得サル精製或ハ混合物ヲ含ム實際ノ「リキユール」酒ニ非サル酒精類ニシテ其ノ實際強度カ明ニ五十%以上ヲ超過セサルモノハ「リキユール」酒及他ノ類似蒸溜液飲料品トシテ課稅セサルモ其ノ實際ノ強度ニ依リ課稅ス
- 四 飲料品ナラサルモノニシテ酒精ヲ以テ精製スル「ゲアニシユ」及總テノ他ノ液體、木精粒ニ木精ヲ以テ精製及混合スル總テノ液體ニ對シテハ其ノ強度一〇〇%ヲ算比ノ標準ト定ム
- 五 總督ハ又必要ナル規定ヲ以テ左ノ物品ニ對シ輸入稅ヲ免除スルコトヲ得
 - (イ) 木精或ハ
 - (ロ) 酒精類即チ

(1) 和蘭ニ於テ消費稅ノ免除ニ關スル規則ニ依リ普通使用ニ不適當トナス爲ニ指定サレタル木精或ハ其他ハ物質ヲ以テ和蘭ニ於テ混合サレタル酒精類

(2) 關領東印度ニ於テ政府取締ノ下ニ一定ノ目的ニ對シ與ヘラレタル訓令ニ從ヒ總督ニ依リ斯カル目的ニ對シ指定セラレ製造スル木精若ハ或他ノ物質ヲ混合シ普通使用ニ對シ關領東印度ニ於テ不適當ト爲サレタル酒精類

(3) 食酢精製用酒精類(一八九八年官報第九二號參照)

六 總督ハ又必要ナル條規ヲ以テ染料及「グアニシユ」ニシテ普通使用ニ適セサル酒精類ヲ以テ精製セラレタルモノニ對シテハ「他ノ塗料」ノ項ニ依ル輸入稅ヲ課シ輸入ヲ許可スルコトアルヘシ(一九〇七年官報第三三八號參照)

七 硫酸「エーテル」グロロフォルム」及總テノ他ノ類似品(酒精類ヨリ或ハ酒精類ヲ以テ精製セルモノ)ニ對スル輸入稅ハ酒精類ニ對スル輸入稅ニ準據シ植民地總督令ニ依リ總督之ヲ定ム(附錄(ホ)參照)

八 稅關ヲ經テ輸入スル酒精類ニシテ總督令ニ依リ特ニ指定サレタル以外ノモノハ「グアニシユ」及此ノ同等品トシテ課稅ス

九 關領東印度ニ於ケル消費稅增加ノ爲メ增加サレル酒精類輸入稅ニ於テ總督ハ其職權ニ依リ或最大量ヲ超ユル貯藏酒精類ニ對シ附加輸入稅追徵ニ關スル細則ヲ規定スルコトヲ得

25	松脂	從價稅	無
24	硝子及總テノ種類ニ於ケル硝子製品	從價稅	一二%
22	金及銀(箔)	同	一二%
23	塊、條、片、鑄造セル金銀及金粉	從價稅	無
24	金、銀製品「レース」「トリムミングス」及金、銀線	從價稅	一二%

26	木材 換キタル木材、或ハ挽カサル木材、造船用材料及材木(橋、船用圓材、撓及他ノ圓材)	從價稅	無
27	木製品	從價稅	六%

28	氷	從價稅	無
29	鐵條、片、竿或ハ板、「レール」螺番及鐵道用目板、水道管、瓦斯管、車軸、車軸箱、車輛、鑄製或ハ鍛鐵、鐵橋及其部分品、牝牡螺旋釘及釘、鐵線電信及電話線並「ケーブル」	從價稅	無

(特別規定) 車軸、箱及車輛ニシテ「車及馬車」ニ屬スヘキモノハ「車及馬車」トシテ取扱ヒ課稅ス(第六十四號參照)

30	同 船用錨、船用鎖、船用「スピンドル」船用索具、鐵製「ローデング」「ボート」或ハ舢舨、建築用鐵骨、物置或ハ倉庫、屋根用鐵及排水渠(水吐)ニシテ電波セルモノ或ハ電波セサルモノ	從價稅	六%
31	同 鐵製品(別號ニ掲ケサル鐵)	從價稅	一二%

32	器具 計算器、理學用器、醫療器及光學用器	從價稅	無
----	----------------------	-----	---

33	寶玉眞珠及寶石(既ニ嵌入セルモノ或ハ「バラ」モノ)	一〇〇	無	稅
34	蠟燭	一〇〇	無	稅
35	石灰	無	無	稅
36	椰子及椰子油	無	無	稅
37	衣服類出來合服(織リタル衣服或ハ編ミタル衣服)	從價	一	二%
38	石炭(坑炭)及「コータス」	無	無	稅
39	銅未精製及精製銅、鍛銅或ハ薄卷板(船底板包板ヲ含ム)鑄銅、鑄造「メタル」梁用銅竿、牝牡螺旋釘及釘、銅及青銅製電話線並ニ同電導用線	無	無	稅
40	同 銅製品、漆塗、鍍金或ハ「ベイント」セルト否トニ係ハラサル銅製品、青銅製品及銅線並ニ別號ニ掲ケサル銅製品	從價	一	二%
41	小圓物類	同	六	%
42	革及革製品	從價	一	二%

(特別規定) 總督ハ必要ニ應シ上記小圓物類トシテ取扱フヘキ品目ヲ指定ス

43	鐵道機關車及其炭水車	無	無	稅
44	鉛(未精製)薄卷板及引延板	無	無	稅
45	同(加工セルモノ)但シ別號ニ掲ケサル鉛	從價	一	二%
46	織物及其ノ製品 綿布、「リンネル」毛或ハ他ノ織維製、「リボン」「レース」及「トリムミングス」(純金、銀或ハ模造金、銀ナラサルモノ)及其他別種類トシテ取扱ハサル總テノ他ノ製品	從價	一	〇%
47	織物及其製品 絹、絹製「リボン」「レース」及「トリムミングス」並ニ別號ニ掲ケサルモノ(天鵝絨製品ヲ含ム)	從價	六	%

(特別規定) 總督ハ若上記織物及其製品ニ對スル關稅率ニシテ其輸入稅ノ金額カ一般ニ對シ過重ト認ムルトキハ最大限度ヲ四%迄トシ植民地總督令ヲ以テ綿布反物、半毛製反物、模造「バテツタ」綿織製「サロン」「カインバンヂャン」及「スレンジン」綿布製「モルトン」「ブランケット」包囊及包裝用材料ニ對スル輸入稅ヲ低減スルコトヲ得

(特別規定) 純絹物ヲ除キ絹交織物及其ノ製品ハ綿布製品トシテ取扱ヒ課稅ス

48 小麥粉 從價稅 一〇%、
 94 肥料 無稅

(特別規定) 硫酸ハ若鳥糞或ハ硫酸「アンモニア」ト混スルトキハ肥料トシテ取扱ヒ輸入稅ヲ免除ス總督ハ其ノ混合割合及方法ヲ別ニ規定スルコトヲ得(一九一六年官報第四七三參照)

50 家具「ランプ」(但シ瓦斯及電氣燈用ナラサル「ランプ」) 從價稅 一〇%、
 51 同 別號ニ掲ケサル家具 從價稅 一二%、
 52 礦水 天然及人工礦水 一〇〇壺或ハ瓶 六盾、
 53 樂器 從價稅 一二%、
 54 阿片 一〇〇基瓦 四五〇盾、
 55 馬匹 從價稅 一二%、
 56 紙(總テノ種類)「ハンギングス」樂譜用紙「マーブル」紙板紙、筆記帳及簿記帳(有罰紙及無罰紙) 從價稅 一二%、

57 瀝青 無稅、
 58 石油「ヘクトリツトル」 四〇仙、
 59 寫眞機及其部分品 從價稅 六%、
 60 植木(生) 無稅、
 61 郵便切手及他ノ切手(外國品、政府發行ノモノニシテ使用シ得ルモノ或ハ使用シ得サルモノ) 無稅、
 62 芳香及香水類(酒精ヲ混シ或ハ酒精ヨリ精製セラレサルモノ) 從價稅 一二%、
 63 米(白米或ハ白米ナラサル米) 從價稅 一二%、
 64 車及馬車並ニ其部分品 從價稅 一二%、
 (特別規定) 鐵道用車輛及其部分品ハ無稅
 65 繪畫 無稅、
 66 文房具 製圖書用品 從價稅 六%、
 (特別規定) 但シ「紙ハ」之ヲ除外ス

67	骨牌 歐洲人用(「バラ」或ハ組)	一	基瓦	一盾五〇仙、
68	同 支那人用(同)	同	二五	仙、
69	鋼條、板、鋼製車軸、「レール」鐵道用「ジョイント」及「フィッシュプレート」	—	無	稅
(特別規定) 「車及馬車」用車軸ハ之ヲ Carriage トシテ取扱ヒ課稅ス(第六十四號)參照)				
70	同 鋼索	從	價	稅 六 %、
71	同 別號ニ掲ケサル鋼製品	同	一	二 %、
72	糖水(但シ「アルコール」ヲ混セサルモノ果實「シラップ」ヲ含ム)	一	〇〇瓶	二〇盾、
73	煙草 煙草及嗅煙草	一	〇〇基瓦	八盾、
74	同 葉卷煙草及紙卷煙草	一	〇〇基瓦	一〇〇盾、
75	「タール」	—	無	稅
76	茶	一	基瓦	四〇仙、
77	時計 懷中時計、振時計及別號ニ掲ケサル總テノ時計	從	價	稅 一 二 %、

78	同 掛時計	從	價	稅 六 %、
79	家畜 牛、水牛	一	頭ニ付	八盾、
80	同 豕	同	五〇	仙、
81	同 別號ニ掲ケサル家畜	—	無	稅
82	塗料(液體)二十五基瓦或ハ二十五基瓦未滿ノ包裝	從	價	稅 一 二 %、
83	同 (其他)「ターペンタイン」及亞麻子油	同	六	%、
84	魚類 鹽引或ハ乾燥セル魚類ニシテ罐詰、瓶詰、或ハ此種ノ類似器物ニ詰メサル魚類	從	價	稅 一 〇 %、
58	肉類(總テノ種類)	從	價	稅 一 二 %、
86	武器 銃砲及其部分品	同	六	%、
87	葡萄酒類(樽入)「ヘクトリットル」	同	九	盾、
88	同 (瓶入)	同	一〇盾五〇仙、	
89	同 (泡起性葡萄酒類)	一	〇〇瓶	二 一 盾、
90	種子 農園用	—	無	稅

91	帆布	從價稅	一〇	%
92	亞鉛 未精製亞鉛及薄卷板、裏板、牝牡螺旋釘及釘ヲ含ム	無稅		
93	同 亞鉛製品「ヴァアニシユ」漆塗或ハ「ベイント」セルト否トニ係ハラヌ	從價稅	一二	%
94	鹽 總テノ種類ニ於ケル食卓用鹽及岩鹽	一〇〇	基瓦	一五
95	同 前號ニ掲記セサル他ノ鹽（「アチエ」及其附屬地政廳管内「シンケル」地方ニ輸入ノ場合）	同	一〇	盾
96	同 同（其他地方ニ輸入ノ場合）	同	六盾五〇	仙
97	同 工業用鹽	同	二	盾
98	（特別規定）總督ハ該輸入稅ノ正當ナル適用法ヲ規定ス（附錄（へ）參照） 雜品 別號ニ掲記セス或ハ前掲諸物品ニ含マレサル總テノ雜品	從價稅	六	%

（註）本表原語ハ「アルファベチカル」和蘭語ヲ以テ配列セラルルモ本譯語ハ必スシモ原語ノ順序ニ依ラス「アルファベチカル」英語順ヲ用テタリ

參照表

「アブサント」酒	利久酒トシテ取扱フ「スピリット」參照
硫酸「エーテル」	「スピリット」參照
農具	機關參照
農園用種子	種子（農園用）參照
「アムフユン」	阿片參照
彈藥	火藥參照
錨	鐵參照
鐵垢	機關參照
工業用器具	同
「アラツク」酒	「スピリット」參照
人造炭酸水	礦水參照
造花	衣服類參照
造花（婦人裝飾品ナラサルモノ）	小間物類參照

自働車
 車軸、車軸箱及車輪
 「ペーコン」
 帶（綑帶）
 條（金）
 同（鐵）
 同（木製）
 寢臺及蒲團
 自轉車
 「ブランケット」
 牝牡螺旋釘（銅製）
 車軸箱、車軸及車輪
 「ブランデー」
 煉瓦類

「車及馬車」參照
 鐵及鋼參照
 肉類參照
 織物製品參照
 金參照
 鐵參照
 木材參照
 家具「別號ニ掲記セサルモノ」參照
 「車及馬車」參照
 織物製品參照
 銅參照
 鐵及鋼參照
 「スピリット」參照
 陶器參照

青銅品
 刷毛類
 水牛
 「バター」
 「ケーブル」（繩索）
 同（電信線）
 帽子
 板紙
 地氈及「テーブル」掛
 鎖（船用）
 海圖
 「チーズ」
 醫療器
 鹽化「カルシウム」（生）

銅參照
 小間物類參照
 家畜參照
 食料品（別號ニ掲ケサルモノ）參照
 雜品參照
 鐵參照
 衣服類參照
 紙參照
 綿織製品等參照
 鐵參照
 書籍參照
 食料品參照
 器具參照
 骨炭參照

「クロロフォルム」

「サイダー」

葉巻煙草

紙巻煙草

掛時計

衣服類（織リタル或ハ編ミタル）

椰子油

「コンニヤック」酒

「コークス」

鑄銅

鑄金及銀

銅貨

銅竿（梁用）

銅器

1010

「スピリット」参照

飲料品（別號ニ掲ケサルモノ）参照

煙草参照

同

時計参照

衣服類参照

椰子参照

「スピリット」参照

石炭参照

銅参照

金及銀参照

銅参照

銅参照

同

銅線

鍛銅或ハ展銅

「クリスタル」（一種ノ上等「グラス」）

「カラント」汁

犬

圖畫用具

製圖畫

調革

乾板

刺繡

消火器

裝飾品（金、銀製ナラサルモノ）

鐵砲

消防唧筒及其部分品

同

同

硝子及硝子器参照

飲料品「別號ニ掲ケサルモノ」参照

家畜「別號ニ掲ケサルモノ」参照

文房具及圖畫用品参照

繪畫参照

機關参照

硝子及硝子器参照

織物製品参照

機關参照

小間物類参照

武器参照

機關参照

1011

消防用覆面器
 消防機關及救助器
 床敷布(油布)
 「ブランデー」漬及酒精漬果實
 平、丸紐或ハ金「モール」(純金製)
 平、丸紐或ハ金「モール」(模造)
 瓦斯計
 瓦斯管
 硝子珊瑚
 眼鏡、硝子珊瑚及硝子製玩具
 硝子器
 「ヂム」酒
 手袋
 金及銀(鑄物)

同
 同
 綿織物製品參照
 利久酒トシテ取扱フ「スピリット」參照
 金及銀參照
 小間物類參照
 機關參照
 鐵參照
 小間物類參照
 同
 硝子及硝子器參照
 「スピリット」參照
 衣服類參照
 金及銀參照

金粉
 絹製品及「リボン」
 蓄音機
 蓄音機平圓板(「レコード」)
 「グラス・リンネン」
 鳥糞
 「ハンカーチーフ」
 壁紙
 帽子
 有角家畜
 縮鐵
 獵銃
 手工器具
 工場用「インデア・ラツパー」

金參照
 織物製品參照
 樂器參照
 同
 綿織物品參照
 肥料參照
 織物製品參照
 紙參照
 衣服類參照
 家畜參照
 鐵條トシテ取扱フ鐵參照
 武器參照
 機關參照
 同

金銀塊

器具

鐵線

鐵製品

細貨類(金、銀ナラサルモノ)

「カイン」(反物)

小刀及刃物

實驗所用陶磁器類

實驗所用硝子器類

「レース」及裝身用網

紐(靴紐及其他)

純金、銀製「レース」

模造金銀「レース」

「レース」(其他)

金、銀參照

機關參照

鐵參照

同

小間物類參照

織物類參照

小間物類參照

陶磁器類參照

硝子及硝子器參照

織物製品參照

同

金及銀參照

小間物類參照

織物製品參照

「レース」製品

「ラムプ」

革製品

亞麻織

亞麻仁油

利久酒

機關車用炭水車

機械類

地圖及海圖

「マーブルト・ペーパー」

檯

數學用器

蒲團類

「メタル」

同

家具參照

革及革製品參照

綿織物類參照

塗料參照

「スピリット」參照

機關車參照

同

書籍參照

紙參照

木材參照

器具參照

家具「別號ニ掲ケサルモノ」參照

銅參照

婦人帽附屬品

騾馬

樂譜

樂譜用紙

釘

布巾

「ニュー・シルヴァー」(所謂)

油(椰子油)

油(亞麻仁油)

光學用器

包裝用布

包裝用品

日傘

板紙

衣服類參照

驢馬參照

書籍參照

紙參照

鐵、銅、亞鉛參照

綿織物製品參照

銅參照

椰子參照

塗料參照

器具參照

綿織物類等參照

同

衣服類參照

紙參照

眞珠

振時計

芳香類

芳香及香水(酒精ヨリ或ハ酒精ヲ以テ精製)

芳香及香水(其他)

梨酒及梨果汁

蓄音器

蓄音機「レコード」

寫真用紙

理學用器

「ピアノ」及其類似樂器

繪畫

冢

枕被

寶玉類參照

時計參照

香水類參照

「スピリット」參照

香水類參照

飲料品(別號ニ掲ケサルモノ)參照

樂器參照

同

紙參照

器具參照

樂器參照

書籍參照

家畜參照

織物製品參照

拳銃
 坑炭
 銀被セ銀器
 板(銅)
 板(鐵)
 板(鋼)
 板(亞鉛)
 磁器
 寶石
 印刷機
 印刷活字
 印畫及繪
 製鍊銅
 簿記帖簿(有罫或ハ無罫ノモノ)

武器參照
 石炭參照
 小間物類參照
 銅參照
 鐵參照
 鋼參照
 亞鉛參照
 陶器參照
 寶玉參照
 機關參照
 器具トシテ取扱フ機關參照
 書籍參照
 銅(粗製及精製)參照
 紙參照

「リボン」
 索具
 竿(銅)
 竿(鐵)
 屋根用硝子
 屋根瓦
 硝子製屋根瓦
 船及漁用、包装用及其ノ他用繩索
 圓材
 「ラム」酒
 包囊(「リンネル」及其他)
 馬具
 「サロン」
 「ソーセージ」

織物製品參照
 雜品參照
 銅參照
 鐵參照
 硝子及硝子製品參照
 陶器參照
 硝子及硝子製品參照
 雜品參照
 木材參照
 「スピリット」參照
 綿織物製品參照
 革及革製品參照
 織物製品參照
 肉類參照

「ミシン」機

緬羊及小緬羊
敷布及枕被

銅板

銅板

薄キ鍛金板

亞鉛板

船用鎖

靴工品

絹製品

絹織物

銀

「スレンジン」

嗅煙草

機關參照

家畜（別號ニ掲載セサルモノ）參照

織物製品參照

銅參照

鋼參照

金地、條等トシテ取扱フ金及銀參照

亞鉛參照

鐵參照

革及革製品參照

織物製品參照

同

金及銀參照

織物製品參照

煙草參照

「トタン」(亞鉛)

船用「スピンドル」

源泉水(天然水)

蒸氣機關

鋼製品

靴足袋

糖水(料理用)

同(酒精類ヲ混スルモノ)

同(其他)

「テーブル」掛布

卓被

茶鉛

電信線

亞鉛參照

鐵參照

礦水參照

機關參照

鋼參照

衣服類參照

食料品「別號ニ掲載セサルモノ」參照

利久酒トシテ取扱フ「スピリット」參照

糖水參照

綿織製品參照

同

鉛參照

鐵參照

電話線
 床用瓦
 材木
 綿織物、「リンネル」毛其他纖維製織物
 工具
 「トリムミングス」
 「トランク」類
 捲リ煙草
 傘
 糧食
 「ヴァニシユ」(酒精ヲ以テ精製)
 懷中時計
 車輪、車軸箱及車軸
 窓硝子

鐵及銅參照
 陶器參照
 木材參照
 織物製品參照
 機關參照
 織物製品參照
 革及革製品參照
 煙草及嗅煙草參照
 衣服類參照
 食料品(別號ニ掲載セサルモノ)參照
 「スピリット」參照
 時計參照
 鐵及鋼參照
 硝子及硝子製品參照

線(銅線)
 同(電導用)
 同(金)
 同(鐵)
 同(鋼)
 同(電信線)
 同(電話線)
 同(銀)
 同(亞鉛)
 木精
 毛織物製品
 織リタル及編ミタル衣服
 婦人用頭被及肩掛類
 筆記帖

銅參照
 銅參照
 金銀參照
 鐵參照
 鐵製品(別號ニ掲載セサルモノ)參照
 鐵參照
 鐵及銅參照
 金銀參照
 亞鉛器トシテ取扱フ亞鉛參照
 「スピリット」參照
 綿織物製品參照
 衣服類參照
 綿織物製品參照
 紙參照

鍛銅或ハ延銅

銅參照

B 蘭領東印度關稅定率法第四條ニ附屬スル附錄

輸出稅表

番號	品名	單位	稅率
1	石油及其副產物		
	(A) 石油及其副產物但シ次項(B)ニ掲ケサルモノ	一〇〇〇基瓦	七盾五十仙
	(B) 液體燃料、石油滓、瀝榨油、機械油、尿、瀝青及蠟油	同	一盾五十仙
2	「インディア、ラツバー」(護謨)(若護謨二分ノ一基瓦ニ對スル市價八十二仙五厘或ハ夫以下ノ場合)	二分ノ一基瓦	無稅
	市價八十二仙五厘ヲ超ヘ九十仙未滿	同	四分ノ一%
	同 九十仙乃至一盾未滿	二分ノ一基瓦	二分ノ二%
	同 一盾乃至一盾十仙未滿	同	一%
	同 一盾十仙乃至一盾二十仙未滿	同	二%

同 一盾二十仙乃至一盾三十仙未滿	同	三%
同 一盾三十仙乃至一盾四十仙未滿	同	四%
同 一盾四十仙乃至一盾五十仙未滿	同	五%
同 一盾五十仙以上	同	七%

(特別規定)

(一) 右護謨ニ對スル輸出稅ハ其實施ノ日ヨリ起算シ三箇年ノ期間之ヲ賦課ス

(二) 護謨ニ對スル平均市場ハ殖民地總督令ニ制定セル規則ニ依リ總督或ハ總督ノ名ニ於テ

時々之ヲ定ム(附錄(ト)參照)

Slab rubber 〃ニ對シ本關稅定率ニ適合セシメ規定スル輸出稅ハ市價ノ十二「パーセント」ヲ減稅ス

3 「ゴブラ」

一〇〇基瓦

平均市價及平均元價ニ其ノ一〇%ヲ加ヘタルモノノ差ノ八%

(特別規定) 平均市價及元價ハ蘭領東印度全稅關地域或ハ其特定地方ニ對シ總督ニ依リ或ハ其名ニ於テ時々之ヲ定ム(附錄(ト)參照)

4 皮革

5 規那皮

一「ユニット」ニ對スル價格カ

五仙未滿ノ場合

- 同 五仙以上五仙一厘未滿
- 同 五仙一厘以上五仙二厘未滿
- 同 五仙二厘以上五仙三厘未滿
- 同 五仙三厘以上五仙四厘未滿
- 同 五仙四厘以上五仙五厘未滿
- 同 五仙五厘以上五仙六厘未滿
- 同 五仙六厘以上五仙七厘未滿
- 同 五仙七厘以上五仙八厘未滿
- 同 五仙八厘以上五仙九厘未滿
- 同 五仙九厘以上六仙未滿

樹皮狀ニ於ケル含
有硫磺規尼一基瓦

函詰ニセル藥用管狀皮
ヲ除ク總テノ規那皮

函詰ニセル藥用管
狀規那皮

從價稅 二%

一〇三六

一基瓦	無稅	無稅
同	二仙	三仙
同	二仙	三仙
同	二仙	三仙
同	二仙	三仙
同	三仙	四仙
同	四仙	五仙
同	五仙	六仙
同	六仙	七仙
同	八仙	九仙
同	十仙	十一仙
同	十二仙	十三仙

- 同 六仙以上六仙一厘未滿
- 同 六仙一厘以上六仙二厘未滿
- 同 六仙二厘以上六仙三厘未滿
- 同 六仙三厘以上六仙四厘未滿
- 同 六仙四厘以上六仙五厘未滿
- 同 六仙五厘以上六仙六厘未滿
- 同 六仙六厘以上六仙七厘未滿
- 同 六仙七厘以上六仙八厘未滿
- 同 六仙八厘以上六仙九厘未滿
- 同 六仙九厘以上七仙未滿
- 同 七仙以上七仙一厘未滿
- 同 七仙一厘以上七仙二厘未滿
- 同 七仙二厘以上七仙三厘未滿
- 同 七仙三厘以上七仙四厘未滿

同	十四仙	二十一仙
同	十六仙	二十四仙
同	十九仙	二十八仙
同	二十二仙	三十二仙
同	二十五仙	三十六仙
同	二十八仙	四十一仙
同	三十一仙	四十六仙
同	三十四仙	五十一仙
同	三十七仙	五十六仙
同	四十一仙	六十一仙
同	四十五仙	六十七仙
同	四十九仙	七十三仙
同	五十三仙	七十九仙
同	五十七仙	八十五仙

一〇三七

同	七仙四厘以上七仙五厘未滿	同	六十一仙	九十一仙
同	七仙五厘以上七仙六厘未滿	同	六十五仙	九十七仙
同	七仙六厘以上七仙七厘未滿	同	六十九仙	一盾三仙
同	七仙七厘以上七仙八厘未滿	同	七十四仙	一盾十仙
同	七仙八厘以上七仙九厘未滿	同	七十九仙	一盾十七仙
同	七仙九厘以上八仙未滿	同	八十四仙	一盾二十四仙
同	八仙以上八仙一厘未滿	同	八十九仙	一盾三十一仙
同	八仙一厘以上八仙二厘未滿	同	九十四仙	一盾三十八仙
同	八仙二厘以上八仙三厘未滿	同	九十九仙	一盾四十五仙
同	八仙三厘以上八仙四厘未滿	同	一盾四仙	一盾五十三仙
同	八仙四厘以上八仙五厘未滿	同	一盾九仙	一盾六十一仙
同	八仙五厘以上八仙六厘未滿	同	一盾十四仙	一盾六十九仙
同	八仙六厘以上八仙七厘未滿	同	一盾十九仙	一盾七十七仙
同	八仙七厘以上八仙八厘未滿	同	一盾二十四仙	一盾八十五仙

同	八仙八厘以上八仙九厘未滿	同	一盾二十九仙	一盾九十三仙
同	八仙九厘以上九仙未滿	同	一盾三十四仙	二盾一仙
同	九仙以上九仙一厘未滿	同	一盾四十仙	二盾九仙
同	九仙一厘以上九仙二厘未滿	同	一盾四十六仙	二盾十七仙
同	九仙二厘以上九仙三厘未滿	同	一盾五十二仙	二盾二十六仙
同	九仙三厘以上九仙四厘未滿	同	一盾五十八仙	二盾三十三仙
同	九仙四厘以上九仙五厘未滿	同	一盾六十四仙	二盾四十四仙
同	九仙五厘以上九仙六厘未滿	同	一盾七十仙	二盾五十三仙
同	九仙六厘以上九仙七厘未滿	同	一盾七十六仙	二盾六十二仙
同	九仙七厘以上九仙八厘未滿	同	一盾八十二仙	二盾七十一仙
同	九仙八厘以上九仙九厘未滿	同	一盾八十八仙	二盾八十仙
同	九仙九厘以上十仙未滿	同	一盾九十四仙	二盾八十九仙
同	十仙以上十仙一厘未滿	同	二盾	二盾九十八仙
同	十仙一厘以上十仙二厘未滿	同	二盾六仙	三盾七仙

9 煙草(但シ領内市場向ニ製造セラレサル煙草)

一〇〇基瓦

一 盾

(特別規定) 瓜哇煙草稅若ハ「スマトラ」煙草稅ヲ賦課セラルル農園ヨリ輸出セラルル煙草ニ對シ一九一九年、一九二〇年及一九二一年收穫煙草ヨリ始メ其輸出稅ヲ賦課セス(一九二一年官報第二六八號總督令第三號參照)

10 錫

一〇〇基瓦

三盾五十仙

(特別規定) 殖民地總督令ヲ以テ制定スル規則ニ依リ錫礦ノ輸出稅ハ其ノ礦中ニ含ム錫ノ割合ニ依リ課稅ス(「ピリトン」錫礦ノ輸出稅ハ一八九九年一月十一日(官報第二十五號)總督令ニ依リ一〇〇基瓦ニ付二盾三十五仙ト定ム)

11 燕 巢

從價稅

六「パーセント」

第二項 關稅定率法ニ關スル總督令

附、附錄(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)(チ)

蘭領東印度關稅定率法(一九二一年官報第二一〇號及第三四六號)ヲ適用セラレサル期間ニ於テ瓜哇「マヅラ」島以外諸領土ノ特別輸出入稅賦課ニ關スル規定並稅關地域ノ用語

特別關稅定率ニ關スル總督令

一九一〇年十二月七日官報第六二八號、一九二一年四月十八日官報第二八九號一五〇一號、一九二二年五月二十八日官報第三三九號、一九二五年三月一日官報第二二二號、一九二〇年三月十三日及同十八日官報第一四三號及第一六七號並一九二二年四月三十日官報第二六六號ニ依リ改訂増補

瓜哇及「マヅラ」島以外ノ諸領ニ於テ輸出入稅賦課ニ關スル總テノ規定カ和蘭女王陛下ニ依リ尙必要ト認メラレ若クハ右規定カ取消サル迄ノ間ニ於テ若シ蘭領東印度關稅定率法ノ適用ニ依リ徵收セラレサルトキハ次ノ如ク規定ニ依リ徵收ス

第一條 稅關地域ナル語句ハ輸出入稅カ蘭領東印度政府ノ爲ニ賦課セララルル蘭領東印度總テノ地方ヲ云フ

第二條

第一 蘭領東印度關稅定率法第一條(印度官報一九一〇年度七九號)ニ依リ稅關地域ニ屬スル諸州及其特別地方以外稅關地域ニ包含スル地方ハ左ノ如シ

- (一) 蘭領東印度關稅定率法ニ依リ稅關地域ニ屬セサル「アチエ」及其附屬地政廳地方但シ「ウエ」島ハ之ヲ除外ス
- (二) 「セレベス」島及其附屬地政廳地方
- (三) 「スマトラ」島東海岸政廳地方

但「シアク」河岸「バンカ」及「クブ」附屬地並ニ是等ニ屬スル諸小島以外ノ「シアク」沿岸及其沿岸諸小島ハ之ヲ除外ス

(四) 「リオウ」及其附屬地理事廳管内「インドラギリ」地方及「カリムーン」地方ニ於ケル「ダネイ」並ニ「カテマン、テリトリ」

(五) 「ボルネオ」島南、東部州理事廳管内「コタ」「ウワリンギン、バガタン」及「クーサン」「タナ」「ブームブー」「バシル」「クイーテイ」「グヌーン」「タプール、サムバリウン」及「ブルーレンガム」地方

(六) 「チャムビ」州、「ボルネオ」島西部地方「メナド」州「アムボイナ」州「テルナテ」及其附屬地、南部「ニュー、ギネア」地方ヲ除キタル「ニュー、ギネア」島「チモル」及其附屬地並「バリ」及「ロムボク」島

第二 前項第一ニ掲クル諸州及其特別地方ニ於テ輸出入税ハ次ノ制限ノ外上掲定率法ニ規定スル定率表及諸規定ニ依リ賦課ス

(A) 税關地域ニ包含スル「スマトラ」島東海岸政廳地方並蘭領東印度關稅定率法ニ依リ税關地域ニ屬セサル「アチエ」及其附屬地政廳地方(「ウエ」島ハ之ヲ除外ス)ニ於テ總テノ

種類ニ於ケル食卓用鹽及岩鹽ヲ除ク他ノ鹽ニ對スル輸入税ハ百基瓦ニ付十盾ト定ム

(B) (一九二〇年官報第一四三號ヲ以テ廢止)

(C) 「アチエ」及其附屬地政廳管内「グランド、アチエ」地方(「ウエ」島ヲ除ク)ヨリ輸出皮革ニ對シ從價稅五「パーセント」及「燕巢」一基瓦ニ付二盾二十五仙ノ輸出税ヲ賦課ス
同政廳管内ノ其他地方(「シンケル」及「タミアン」地方ヲ除ク)ヨリ輸出スル皮革ニ對シ從價稅五「パーセント」及「燕巢」ニ對シ從價稅一〇「パーセント」ノ輸出税ヲ賦課ス

(D) 一九一一年官報第二八九號、一九一二年官報第三三九號及一九一三年官報第二五九號ニ依リ改正セラレ一九一五年第二二一號ヲ以テ廢止

(F) 前掲第一ノ(一)ニ掲クル諸州ニ對シ蘭領東印度關稅定率法第四條ニ掲クル物品ニ關シ定ムル輸出税ニ加フルニ第三條ニ規定スル輸出税ヲ賦課ス

第三條 「バリ」及「ロムボク」州ヲ除キ瓜哇及「マヅラ」島以外ノ税關地域ニ包括サル諸州及其特別地方ニ於テ左ノ定率表ニ掲クル生産物ニ對シ輸出税ヲ賦課ス
定率表第一 「セレベス」及其ノ附屬地政廳管内「スマトラ」西海岸州「タバヌーリ」州「ベン

クレーン」州「ラムボン」地方「バレムバン」地方「ジャムビ」地方「バンカ」及其ノ附屬地
地方「ボルネオ」島西部地方「メナド」地方「アムボイナ」地方「タルナテ」及其附屬地地方、
南部「ニュー、ギネア」地方ヲ除ク「ニュー、ギネア」地方「チモル」及其附屬地地方並ニ「ビ
リトン」地方ニ適用ス

品名	單位	從價稅	稅率
安息香、 <small>「ゴム、コパル」</small> 「ゴム、ダマヤ」 <small>麒麟竭樹脂、樟腦</small> 「チエロトン、ラツバ」及土人ニ依リ「ガタ」ト稱セラルル他ノ種類ノ乳膏	從價稅	五	「パーセント」
「ガール」及他ノ香水	同	五	「パーセント」
鹿角	同	五	「パーセント」
象牙及犀角	同	八	「パーセント」
「マングローヴ」樹皮及「テンガル」樹皮	同	五	「パーセント」
籐 <small>(總テノ種類)</small>	同	五	「パーセント」
「サーゴ」及「サーゴ」粉	同	五	「パーセント」
「テンカワン」核	同	五	「パーセント」

「テンカワン」或ハ「スーンタイ」脂	同	五	「パーセント」
鳥皮	同	一〇	「パーセント」
蜜、蠟	同	五	「パーセント」
定率表第二「ボルネオ」島南部及東部地方ニ適用ス			

品名	單位	從價稅	稅率
安息香、 <small>「ゴム、コパル」</small> 「ゴム、ダマヤ」 <small>麒麟竭樹脂、樟腦</small> 「チエロトン、ラツバ」及土人ニ依リ「ガタ」ト稱セラルル他ノ種類ノ乳膏	從價稅	八	「パーセント」
「ガール」及他ノ香水	同	八	「パーセント」
鹿角	同	八	「パーセント」
象牙及犀角	同	八	「パーセント」
「マングローヴ」樹皮及「テンガル」樹皮	同	八	「パーセント」
籐 <small>(總テノ種類)</small>	同	八	「パーセント」
「サーゴ」及「サーゴ」粉	同	八	「パーセント」
「テンカワン」核	同	八	「パーセント」

「テンカワソ」或ハ「ストーンタイ」脂 同 八「パーセント」

鳥皮 同 一〇「パーセント」

蜜 蠟 同 八「パーセント」

定率表第三 税關地域ニ屬スル「スマトラ」東海岸政廳地方並「リオ」州及其附屬地理事廳管内ニ於ケル「カリムーン」地方ノ「ダネイ」「インドラギリ」及「カテマン」「テリトリ」ニ適用ス

品名	單位	税率
「バラム」及「ストジタイ」果實 (Balam)	一「コヤン」(四〇「ビクル」)	一〇「パーセント」
註 「ビクル」(Peanut) 一三六封度(一封度一六「オンス」)		
安息香「ゴム、ダマル」「ゴム、コバル」及麒麟竭樹脂	從價稅	五「パーセント」
土人ニ依リ「ガタ」ト稱セラルル總テノ種類ノ乳糜「ヂエロトン、ラツパー」ヲ含ム	從價稅	八「パーセント」
「マングローヴ」樹皮及「テンガル」樹皮	一「コヤン」	二盾五十仙
藤總テノ種類	從價稅	五「パーセント」

「サーゴ」(精製) 一〇〇基瓦 六十仙

同 (精製セサルモノ) 同 四十仙

「バラム」脂及「ストーンタイ」果實 從價稅 五「パーセント」

蜜 蠟 一〇〇基瓦 八盾

定率表第四 「アチエ」州及其附屬地政廳地方管内

(a) 「シンケル」地方

(b) 「タミアン」地方

(c) 「グラランド、アチエ」地方(「ウエ」島ヲ除ク)

(d) 「アチエ」及其附屬地政廳ノ他ノ地方 (同)

品名	單位	税率
「バラム」及「ストーンタイ」果實 一「コヤン」	(a) 一〇盾	(b) 一〇盾
安息香「ゴム、コバル」「ゴム、ダマル」麒麟竭樹脂、樟腦、「ヂエロトン、ラツパー」及土人ニ依リ「ガタ」ト稱セララルル他ノ種類ノ乳糜	從價稅	五「パーセント」

安息香「ゴム、ダマル」「ゴム、コバル」麒麟竭樹脂	同		五「バト」	五「バト」	一〇五〇	一〇「バト」	一〇「バト」
土人ニ依リ「ガタ」ト稱セラルル總テノ種類ノ乳糜（「サエロトン、ラツパー」ヲ含ム）	同			八「バト」	一〇「バト」	一〇「バト」	一〇「バト」
「ガール」及他ノ香水	同		五「バト」				
鹿角	同		五「バト」				
象牙及犀角	同		八「バト」		一〇「バト」	一〇「バト」	
椰子果	千	箇			三	三	三
「マングローヴ」樹皮及「テンガル」樹皮			從價稅	一「コヤ			
檳榔子（楕圓形）	一〇〇基瓦		五「バト」	五「バト」	三十八仙		
同（圓形）	同				十九仙		
籐（總テノ種類）	從價稅		五「バト」	五「バト」			
「サーゴ」及「サーゴ」粉	同		五「バト」	五「バト」			

同（精製）	一〇〇基瓦			六十仙			
同（精製セサルモノ）	同			四十仙			
領内市場向キニ製造セル煙草	同				四	四	四
「テンカワン」核	從價稅		五「バト」				
「テンカワン」或ハ「ストーンテ	同		五「バト」				
「イ」脂	同		五「バト」				
「パラム」脂及「ストーンテ	同			五「バト」			
果實	同			五「バト」			
鳥皮	同		一〇「バト」				
蜜蠟	同		從價稅	五「バト」	（一〇〇基瓦）	（一〇〇基瓦）	（一〇〇基瓦）

上記第一、第二、第三及第四定率表ニ關スル特別規定「ガツタ、ベルチャ」樹葉ヨリ機械的ニ搾取スル「ガツタ、ベルチャ」竝ニ組織的栽培企業者ニ依リ産出セラルル「ガツタ、ベルチャ」ニ對シテハ輸出稅ヲ免除ス但シ上記何レノ場合ニ於テモ該稅免除ノ理由カ歐洲人主管官吏ニ依リ發給サルル證明書ニ依リ保證セラルルコトヲ要ス

第四條 前掲第三條ノ定率表ニ依ル輸出税ハ又輸出品ニ對シ輸出税ヲ賦課セサル税關地域内ノ或場所へ海上輸送ノ場合ニ於テモ仕拂ハサルヘカラス但シ輸出セントスル物品カ等シキ或ハ異ナル單位或ハ率ニ依リ輸出税ヲ賦課セラルヘキ税關地域ニ於ケル或場所ニ輸出セラルトキハ其場所ニ適用サルル定率表ニ依リ再輸出ノ場合ニノミ課税ス但シ其場合ニ於テ若其定率表ニ掲クル定率カ輸出ノ場所ニ於テ適用サルル税率ヨリ低廉ナルトキハ其差額ヲ追徴ス

第五條 其他別ニ規定セサル限り是等定率表又ハ蘭領東印度關稅定率表ノ諸規定ニ於ケル變更及修正ハ總督ニ於テ該定率表及諸規定ノ適用ハ既ニ宣言シ或ハ將來宣言シ得ル諸州及其特別地方ニ及ホスコトヲ得

第六條 本總督令ハ一九一一年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(ロ) 附 錄 (附錄(イ)略ス)

展覽目的ノ物品、製造ノ或ハ程後税關地域ヨリ輸出スル物品或ハ再輸出ト明ニ指定サルヘキ物品ノ免除ニ關スル細則

(一八八二年官報第二四〇號總督令第二十三條及第二十三條(A))

第二十三條 (一九〇二年官報第三三七號及一九〇九年官報第二〇五號第一條ニ依リ更改)

陳列ヲ目的ト爲ス物品、或加工ヲ經タル後税關地域ヨリ再輸出スル物品若ハ再輸出ト明ニ指定サルヘキ物品ハ其ノ輸入税ヲ免除ス

但シ次項ニ掲クル關係當局ニ於テ本條ノ適用ヲ指定シ尙上記當局ニ依リ定ムル期限内其免除ヲ受クルゴトニ對シ指令スル條件カ履行サルルコトヲ規定ス

財政部長官ハ郵便小包ノ物品、商業旅行者ニ依リ商品見本トシテ紹介サルヘキ物品及興行者ノ興行用品ニ屬スル物品ヲ除キ總テノ物品ニ對シ本條適用ヲ決定ス

上記三箇ノ場合ニ於ケル適用及決定ハ其主腦長官之ヲ爲ス

輸入税ハ規定スル期限内ニ仕拂フコトヲ要ス但シ物品カ豫定サレタル目的ニ對シテノミ使用サレタルコト及其後輸出サレタルコトヲ表示セラレサルトキハ其必要ニ應シ上記期限ヲ延長スルコトヲ得

「マカッサ」地方ニ對シテハ左ノ條項ヲ規定追加ス (一九〇九年官報第二〇五號第二條 參照)

第二十三條 (A) 加工セル後税關地域ヨリ輸出セントスル物品ニ關シ前掲第二十三條ノ適用上重大ナル困難アル場合ニハ財政部長官ノ權能ニ依リ次項ニ掲クル規定ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

財政部長官ハ必要ニ應シ其權限ニ依リ指定ナル物品ノ一部ハ直ニ輸入税ヲ仕拂フヘキモノナルコトヲ決定ス

財政部長官ハ又上記一部品ノ指示ヲ制限シ及其權限行使ノ日ニ遡リテ本條ノ適用ニ對スル決定ヲ取消スコトヲ得緊急ヲ要スル場合は等ニ關スル處分ハ財政部長官ノ事後承認ヲ條件トシ州長官之ヲ爲スコトヲ得

物品ハ本總督令ニ屬スル細則(A)第二十七條乃至第三十一條ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス及若物品ノ一部カ輸入ノ後直ニ輸入税ノ仕拂ヲ要スルモノナル場合上記税金ハ徵收官ノ計算ニ從ヒ仕拂ハサルヘカラス徵收官ノ要求ニ依リ物品ノ見本品ニ對シテモ徵收官ノ意思ニ依リ一時的ニ課税ヲ爲スコトヲ得

物品ハ輸入ニ關スル如何ナル他ノ手續ヲモ要セス

(ハ) 附 錄

外國領事官及領事館ノ輸入スル或物品ニ關スル規定

一九〇八年二月二日總督令第二六號及一九二一年一月十二日總督令第四一號總督令(官報一九〇八年第一〇七號及一九二一年第三二號)ニ依リ左ノ場合如何ナル輸入税ヲモ賦課セス

(a) 蘭領東印度ニ駐在スル正式外國領事官ノ携帶スル世帶道具

(b) 蘭領東印度ニ於ケル外國領事館ノ爲輸入スル國旗、紋章、文房具及其他ノ物品

(c) 蘭領東印度駐在外國領事官及領事館ニ宛テタル見本及模型品但シ見本品用ニノミ適用シ且ツ商品トシテ賣ラレサルモノニ限ル

(註) 一九二一年十一月二十七日(官報第七一六號)ヲ以テ前項(b)ニ於ケル「文房具」ノ次ニ「其他ノ物品」ノ字句ヲ挿入セラル

(ニ) 附 錄

酒精ノ輸入ニ對シ總督ニ依リ特別指定セラルル税關

一九〇六年官報第三〇一號及第四五九號、一九〇七年官報第三三四號、一九〇八年官報第二九三號、一九一〇年官報第二四八號、一九一一年官報第二四一號、一九一二年官報第二三九號、一九一三年官報第二〇一號、一九一四年官報第二八二號及一九一五年官報第六八五號ニ依リ改正増補)

瓜哇及「マヅラ」島

「バタヴィア」、「チエリボン」、「テガル」、「ベカロンガン」、「スマラン」、「スラバヤ」、「バスウルアン」、「プロボリンゴ」、「チラチャツブ」、「バンヂューワンギ」及「バナルウアン」

「スマトラ」島西海岸理事廳管内

- 「バダン」
- 「タバヌーリ」理事應管内
- 「シボルガ」
- 「ベンクローレン」理事應管内
- 「ペンタートレン」
- 「ラムボン」州理事應管内
- 「テロク、ベトン」
- 「バレムバン」理事應管内
- 「バレムバン」
- 「ヂャムビ」理事應管内
- 「ヂャムビ」
- 「リオ」及其附屬地理事應管内 「インドラギリ」地方
- 「レンガ」
- 「スマトラ」島東海岸政應管内

- 「ブラワン」
- 「バンカラ」
- 「アチエ」及其附屬地政應管内
- 「オレ、レー」
- 「シグリ」
- 「ロ、スマグエ」
- 「イデイ」
- 「ランサ」
- 「チャラン」
- 「ムーラボー」
- 「タバ、トリアン」及「シナバン」
- 「バンカ」及其附屬地理事應管内
- 「ムントツタ」
- 「バンカルバラム」
- 「スーングーリア」及「プリンヂユ」
- 「ピリト」副理事應管内
- 「タンヂオン、バンダン」
- 「ボルネオ」島西部理事應管内
- 「ボンテアナ」
- 「サムバス」
- 「シンカワン」及「ベマンカット」
- 「ボルネオ」島南部及東部理事應管内
- 「バンヂエルマシ」
- 「コタ、バルー」
- 「バリクババン」
- 「サマリンダ」及「バンカラ」
- 「バン」
- 「セレベス」島及其附屬地政應管内

- 「マカツサー」
 - 「メナド」理事應管内
 - 「メナド」及「ゴロンタロ」
 - 「アムボイナ」理事應管内
 - 「アムボイナ」及「ネイラ」(「バンダ」)
 - 「タルナテ」及其附屬地理事應管内
 - 「タルナテ」
 - 「チモル」及其附屬地理事應管内
 - 「クローバン」
 - 「バリ」及「ロムボク」理事應管内
 - 「バブアン」(「ブルレン」)、「ブノア」、「アムベナン」及「ラブリアンハヂ」
- 輸入ハ上記税關ノ派出所ニ許可セス
- (ホ) 附 録
- 酒精ヨリ或ハ酒精ニテ精製スルモノニ對スル輸入税(一九二一年官報第二八八號)

一九二一年五月十一日公布蘭領東印度總督令ニ依リ酒精ニ關シ特別規定スルモ百基瓦ニ對スル輸入税ハ次ノ如ク之ヲ定ム

- 水化「クロラール」 三盾二十仙
- 硫酸「エーテル」 五盾四十仙
- 「クロロフォルム」 三盾八十仙
- 醋酸「エーテル」 三 盾
- 「コロヂエウム」 四盾七十五仙
- 稀硫酸「アルコール」 三盾八十仙
- 其他(酒精ヨリ或ハ酒精ニテ精製スルモノ) 三盾八十仙

(ハ) 附 録

工業用鹽ノ輸入 一九二一年七月二十六日(官報第四五四號)公布ノ總督令第五條C項ニ於テ政府倉庫ヨリ出庫セサル工業鹽ノ輸入ハ之ニ對スル輸入税ヲ仕拂ヒタル後總督ニ依リ指定セラルル諸港及左記制限ノ下ニミ輸入ヲ許可ス即チ上記鹽ハ輸入者ノ費用ヲ以テ税關長ノ同意ノ下ニ他ノ成分ヲ混合シ普通消費ニ使用シ能ハサラシム

一九〇七年十二月三十一日公布總督令（官報第五四四號）ニ依リ政府專賣區域外ノ場所ニ輸入セラルル前掲ノ鹽ニ對シテモ亦前項同様ノ規定ヲ適用ス

總督令（一九〇五年官報第三〇七號、一九〇七年官報第五四五號、一九〇八年官報第五四四號、一九〇九年官報第二三五號一九一六年官報第一四六號參照）ニ依リ工業目的ニ消費スル鹽ノ輸入ハ「バタヴィア」、「チエリボン」、「テガル」、「ベカロンガン」、「スマラン」、「スラバヤ」、「チラチャツプ」、「バダシ」、「バレムバン」、「ブラワン、デリ」、「バンカラン、ブランダン」、「シボルガ」、「メナド」、「ゴロンタロ」、「バリクババン」及「タンジョン、パレイ」ノ諸港ニノミ許可ス

（ト）附 錄

輸出稅ヲ賦課セラルヘキ或種生産品ノ元價及市價ノ決定方法

（一九二二年四月三十日官報第二六七號總督令）

第一條 輸出稅ノ計算ハ財政部長官時々之ヲ定ム

（A）「コブラ」及胡椒ニ關シ蘭領東印度全稅關地域ニ對シ或ハ其特別地方ニ對シ平均市價及元價

（B）「インデア、ラツバー」及規那皮ニ關シ其平均市價

第二條 平均市價ノ計算ハ新聞紙及蘭領東印度商業組合ニ依リ定期公示スル市價ニ依リ之ヲ定ム

第三條 正當價格（定價）ハ之ヲ官報附錄トシテ掲載ス尙是等價格一覽表ハ關係當事者ノ爲輸出及消費稅徵收官ノ事務所ニ公衆ノ爲之ヲ陳列ス

第四條 本總督令ハ一九二一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

（チ）附 錄

輸入關稅定率表中ノ番號ニ對スル「アルファベチカル」物品早見表

品 名	番 號
武器（銃砲）	第 八 六 號
亞力酒用樽	第 三 號
麥 酒	第 六 號 乃 至 第 七 號
飲料品（別ニ掲記セサル飲料品）	第 一 三 號
骨 炭	第 五 號
書籍等	第 一 〇 號
蠟 燭	第 三 四 號

車及馬車等

家畜

「セメント」

衣服類（織リタルモノ或ハ編ミタルモノ）

石炭及「コークス」

椰子及椰子油

銅等

驢馬及騾馬

陶器及磁器

食料品（別號ニ掲ケサル食料品）

機關等

魚類

小麥粉

家具

一〇六二

第六四號

第七九號乃至第一號

第一二號

第三七號

第三三八號

第三三六號

第三九號乃至第四〇號

第一五號

第一號乃至第二號

第一四號

第一六號

第八四號

第四八號

第五〇號乃至第五一號

「ガムビル」

硝子等

金及銀

雜品（別號ニ掲ケサル總テノ他ノ物品）

火藥

馬

氷

器具（數學用器、理學用器、醫療器及光學用器）

鐵等

寶玉等

鉛等

皮革等

石炭

鐵道機關車及炭水車

第一七號乃至第一八號

第二一號

第二二號乃至第二四號

第九八號

第一一號

第五五號

第二二八號

第三二號

第二九號乃至第三一號

第三三號

第四四號乃至第四五號

第四二號

第三五號

第四三號

一〇六三

織物製品及織物

肥料

肉類

礦水

樂器

阿片

繪畫

塗料

紙等

香水等 (酒精ヲ混セサルモノ)

石油

寫真器

瀝青

植物

一〇六四

第四六號乃至第四七號

第四九號

第五二號

第五三號

第五四號

第五五號

第五六號

第五七號

第五八號

第五九號

第六〇號

第六一號

第六二號

第六三號

骨牌

郵便切手等

樹脂

米

帆布

鹽

種子 (農用)

小間物類

酒精類

文房具等

鋼

糖水 (酒精ヲ含マサル糖水)

「タール」

茶

第六七號乃至第六八號

第六九號

第七〇號

第七一號

第七二號

第七三號

第七四號

第七五號

第七六號

第七七號

第七八號

第七九號

第八〇號

一〇六五

時計

自來鐵板等

煙草等

食酢

葡萄酒

木材等

糸線

亞鉛等

一〇六六

第七七號乃至第七八號

第八號乃至第九號

第七三號乃至第七四號

第三一三號

第八七號乃至第八九號

第二六號乃至第二七號

第一一九號

第九二號乃至第九三號

第六節 蘭領印度現行商標條例及關係法規 附特許手續

第一項 蘭領印度現行商標條例

第一條

一 商標法第一條所載ノ海牙ニ於ケル工業所有權局支局トシテノ工業所有權事務ハ蘭領印度ニ於テハ農工商務部「スリナメ」及「キュラサヲ」ニ於テハ其地高等法院 (Hof van Justitie) 所屬檢事總長事務局 (parket van den procureur general) ノ管轄トス

- 二 支局ハ同時ニ文書保管支所トシテ支局所在植民地ニ於ケル工業及商業商標ノ公告ヲ盡任ス
- 三 支局ハ海牙本局ニ宛テ工業所有權ニ關シ本局ノ望ム總テノ報告ヲ爲スモノトス

第二條

一 蘭領印度「スリナメ」及「キュラサヲ」ニ於テハ自己ノ製品又ハ商品ヲ他人ノソレト區別スル爲メノ商標ノ專用權ハ該商標本來ノ目的ノ爲メ和蘭、蘭領印度「スリナメ」又ハ「キュラサヲ」ニ於テ最初ニ使用シタル者ニ歸屬ス但シ該商標カ現實ニ使用サレタル物品ノ種類ニ限り且最後ノ使用後三年以上ヲ經過セサルコトヲ條件トス

二 反對ノ證明アル場合及次項所定ノ場合ヲ除キ、第四條ノ規定ヲ最初ニ履行シタル者ヲ以テ出願商標最初ノ使用者ト見做ス

三 一八八三年三月二十日巴里ニ於テ締結サレタル工業所有權保護ニ關スル國際規約(和蘭法令一八八四年第一八九號、印度法令一八八八年第一八八號「スリナメ」官報一八九〇年第八號及「キュラサヲ」公報一八九〇年第三號)第六條ニ鑑ミ該規約加入ノ一國ニ於テ合法的ニ商標ヲ登錄 (deponeren) セル者ニシテ其後四ヶ月ノ期間以内ニ工業所有權支局ニ對シ該商標ヲ出願セル場合ニハ出願者ハ支局所在植民地ニ於テ該商標ヲ既ニ該期間ノ當初ニ於テ使用シタルモノト見做

四 前記巴里ノ國際規約加入ノ一國ノ領土内ニ開催セラレタル官設又ハ政府公認ノ國際的博覽會ニ陳列シタル製品又ハ商品ノ商標ヲ該博覽會開會後六ヶ月以内ニ工業所有權支局ニ宛テ前記物品ニ對スル登録ノ爲メ第四條ニ準據シ提出スル者アルトキハ支局所在植民地ニ於テハ該商標カ博覽會内ニテ其物品ヲ他人ノソレト區別スル爲メ使用セシ日ニ既ニ使用シタルモノト見做ス該使用日附證明ノ爲メ工業所有權支局ハ博覽會當事者ノ確證アル聲明書又ハ支局カ満足シ得ヘキ權能アル他方面ヨリノ證明書ノ提出ヲ請求スルコトヲ得

第三條

一 權利者二人以上ノ名ヲ以テスル商標ノ登録ハ關係者ノ全部カ該商標ヲ以テ表明スル商品ノ工場又ハ商品ヲ取扱フ商館ノ權利ヲ共有スル場合ニ限り之ヲ行フ
 二 上記事實證明ノ爲メ工業所有權支局ハ權利ノ共有ヲ示スニ足ル證書ノ確證アル抄本ノ提出ヲ請求スルコトヲ得

第四條

一 商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ長サ及幅最小限度一「センチメートル」五、最大限度十「センチメートル」厚サ二「センチメートル」四ニ達スル商標ノ印版一個竝ヒニ明瞭ナル商標見本及之ト符合スヘキ精密ナル證明書各二通ヲ署名ノ上登録ヲ欲スル殖民地ノ工業所有權支局ニ差出スヘシ説明書ニハ同時ニ該商標ヲ使用セムトスル商品ノ種類及出願者ノ完全ナル姓名及住所ヲ記載スルヲ要ス特定ノ色ヲ以テ商標ノ特徴トスル旨説明書ニ記載シアル場合ハ工業所有權支局ハ出願者ニ對シ必要ト認ムル數ノ著色シタル商標見本ノ提出ヲ請求スルコトヲ得

二 商標登録ノ出願ハ又委任狀ヲ有スル代理人ニ依ツテ行ハルルコトヲ得
 三 善良ナル風俗ヲ紊シ又ハ其ノ使用カ公ノ秩序ヲ害スルカ如キ文字若ハ形像ヲ含ム商標及公法上ノ諸機關ノ紋章若ハ刻印ト同一又ハ類似ノ商標ハ之ヲ登録セス
 四 商標ノ登録ヲ出願スルモノハ出願ノ際各商標ニ付し出願料金三十盾ヲ納付スヘシ出願料金ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ返還セス

第五條

一 前條ニ從ヒ出願サレタル商標ハ第九條規定ノ場合ヲ除キ受領ノ日ヨリ八日以内ニ之ヲ商標原簿ニ登録ス商標原簿ノ様式ハ商標法ノ施行ヲ擔任スル當該大臣カ同法第五條ニ基キ定ムル様式ニ同シ

- 二 提出サレタル商標見本及説明書二通ニハ商標原簿登録日附及番號ヲ附シテ之ヲ確證ス
- 三 右ノ中一通ハ其後三日以内ニ出願者ニ返送ス
- 四 第四條第二項所定ノ委任狀ハ之ヲ殘リ一通ニ添付ス

第六條

- 一 工業所有權支局ハ登録サレタル商標ノ第四條所定ノ説明ヲ印版ノ複寫商品ノ種類及出願者ノ完全ナル姓名及住所ト共ニ蘭領印度ニ於テハ毎月最初ノ官報 (Mevasthe Courant) 「スリナム」及「キュラサヲ」ニ在テハ公式ノ通告カ掲載サレル新聞紙 (Mevastblad) 毎月初號ニ掲載ス
- 二 前項ノ公告ハ該官報又ハ新聞紙ノ特別ナル附録トシテ發行シ一般ノ需メニ應ス商標印版ハ其後請求アル場合ニ於テハ之ヲ出願者ニ返還ス

第七條

- 一 蘭領印度「スリナム」又ハ「キュラサヲ」ニ居住シ又ハ該地ニ番意ヲ以テ設立サレタル工場又ハ商館ヲ有シ現實工業又ハ商業ニ従事スル和蘭臣民及外國人カ第四條ニ從ヒ出願セル商標ニシテ同一商品ニ付一八九二年十二月十二日付法律 (和蘭法令第二七〇號、印度法令一八九三年第九九號「スリナム」官報一八九三年第八號及「キュラサヲ」公報一八九三年第二號) ニ依リ

- 承認サレタル一八九一年四月十四日「マドワツド」ニ於テ締結ノ規約加入諸國ニ於テモ保護ヲ受ケムトスル者ハ更ニ明瞭ナル商標見本四通、該商標ヲ使用セムトスル商品種類ノ佛蘭西語ヲ以テセル明細書一通並ヒニ前條記載ノ條件ヲ滿タス印版一個ヲ出願者カ住居ヲ有シ又ハ工場若ハ商館ヲ有スル植民地ノ工業所有權支局ニ差出スヘシ
- 八 商標見本ノ中一通及ヒ商品種類ノ明細書ハ署名スルヲ要ス特定ノ色ヲ以テ商標ノ特徴トスル場合ニ於テハ出願者ハ同シタ署名セル説明書ニ其ノ旨ヲ記載シテ之ヲ添附シ工業所有權支局ノ定ムル數ノ着色シタル商標見本ヲ提出スヘシ
- 二 前項ノ出願ニ付テハ第四條第二項ノ規定ヲ準用ス
- 三 出願者ハ一商標ニ對シ出願料金六十盾ヲ納付スヘシ二個以上ノ商標ヲ同時ニ同一出願者又ハ其ノ代理人カ出願スル場合ニハ第一ノ商標ニ對シテハ金六十盾、其他ノ商標ニ對シテハ各商標ニ付金三十盾ヲ納付スヘシ出願料金ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ返還セス
- 四 第四條ノ規定ニ從ヒ出願サレタル商標カ第五條規定ノ如ク登録サレタル場合ニ於テハ工業所有權支局ハ出願者ニ宛テ「ベルン」ニ於ケル國際事務局ニ對スル登録出願モ亦當分行ハレ得サル旨ヲ通知スルモノトス

- 五 該商標カ第五條ニ準據シ登録サレタル場合ニ於テハ工業所有權支局ハ一商標ニ付五十五盾同
一出願者又ハ其代理人カ同時ニ出願シタル第二以下ノ商標ニ付テハ各二十五盾ヲ添ヘ第一項所
載ノ署名ナキ商標見本三通及佛蘭西語ヲ以テセル署名アル商品種類ノ明細書並ヒニ印版ヲ本條
第一項最後ノ文言ニ該當スル場合ニハ海牙本局ノ定ムヘキ數ノ著色シタル商標見本ト共ニ遲滯
ナク本局ニ送附スヘシ海牙本局ハ「ベルン」ニ於ケル國際事務局ニ宛テ遲滯ナク登録出願ノ手
續ヲ爲ス
 - 六 支局ハ署名アル商標見本ヲ保管シ之ヲ確證ス
 - 七 海牙本局ハ「ベルン」ニ於ケル國際事務局カ當該商標ニ關シテ通達スル總テヲ遲滯ナク支局
ニ通告シ支局ハ出願者ノ利害ニ關係アリト認ムル部分ヲ出願者ニ通知スルモノトス
 - 八 海牙本局ハ又支局ニ宛テ「ベルン」ニ於ケル國際事務局ヨリ返送シ來レル登録出願書ヲ送附
ス
- 第 八 條
- 一 海牙本局ハ一九〇〇年十二月十四日「ブラッセル」ニ於テ署名サレ一九〇二年六月七日付法
律（和蘭法令第八五號、印度法令第三七七號「スリナム」官報第二二號及「キユラサヲ」公報

- 第三七號）ニ依テ承認サレタル追加條約ニ依リ變改ノ前記「マドリッド」規約第三條ニ據リ「ベ
ルン」ニ於ケル國際事務局ヨリ本令第七條ニ從ヒ支局ニ宛テ出願サレタル商標又ハ外國商標ノ
國際登録ニ關スル通達ヲ受領スル毎ニ出來得ル限リ速ニ該通達ノ確證アル謄本ヲ當該支局ニ送
附シ支局ハ第九條規定ノ場合ヲ除キ謄本受領後八日以内ニ通達ニ係ル商標ヲ當該商標原簿ニ登
録スルモノトス商標原簿ノ様式ハ商標法施行ヲ擔任スル當該大臣カ同法第八條ニ基キ定ムル様
式ニ同シ
 - 二 支局ハ受領シタル通達謄本ニ商標原簿登録日附及番號ヲ附シテ之ヲ確證スルモノトス
 - 三 國際登録商標カ第七條ニ從ヒ工業所有權支局ニ宛テ出願サレタルモノナル場合ニ於テハ支局
ハ出願者ニ對シ出來得ル限リ速ニ國際登録濟ノ旨ヲ通知シ本條第一項所定ノ登録ノ日附アル登
録證ヲ下附ス
 - 四 海牙本局ハ國際登録商標ノ布告カ掲載サルル「ベルン」ニ於ケル國際事務局發行ノ（Journal）
附録ノ必要部數ヲ支局ニ送附シ一般ノ需メニ應セシム
 - 五 一般應需ニ付テハ其都度第六條所載ノ官報又ハ新聞紙ニ公告ス
- 第 九 條

一 第四條ニ從ヒ出願サレタル商標又ハ第八條所定ノ外國商標カ同一商品ニ付他人ノ名義ニテ登録サレ者ハ他人ニ依リテ以前ニ出願サレタル商標ト雖然又ハ主要部分ニ於テ一致シ又ハ第四條第三項ノ規定ニ抵觸スル報告ニ於テハ工業所有權支局ハ登録ヲ拒絕スルコトヲ得支局ハ拒絕ニ理由ヲ附シ書面ヲ以テ出願者ニ宛テ商標受領後八日以内又ハ海牙本局ニ宛テ第八條所載ノ通達受領後出來得ル限り速ニ通知スルモノトス本局ハ「ベルン」ニ於ケル國際事務局ニ宛テ其ノ旨ヲ通告ス

二 第四條ニ依ル出願者又ハ第八條所載ノ商標ノ出願者ハ自身又ハ其ノ代理人ノ署名セル請求書ヲ以テ蘭領印度ニ於テハ「パタビヤ」ニ於ケル「ラード、ファン、ユステイシー」(Raid van Justitie te Batavia)「スリナメ」及「キュラサオ」ニ於テハ其地高等法院ニ向ケ工業所有權支局ニ對スル登録命令ノ宣言ヲ請求スルコトヲ得請求書ハ第四條ニ依ル出願者ニ於テハ登録拒絕通知後三ヶ月以内第八條ニ所載ノ商標ノ出願者ニ於テハ一年以内ニ差出スヘシ

第十條

一 第五條ニ準據シ登録サレタル商標又ハ第八條ニ準據シ登録サレタル外國商標カ全然又ハ主要部分ニ於テ同一商品ニ付第二條ニ基キ他人カ權利ヲ有スル商標ト一致シ又ハ他人カ權利ヲ有ス

ル名稱(若ハ商號)ヲ含ム場合ニ於テハ如上ノ權利ヲ有スト主張スル者ハ其ノ用ヒ得ヘキ其他ノ法律上ノ手續ヲ採ルコトヲ妨ケラルル事ナク第五條ニ準據シ登録サレタル商標ニ付テハ第六條ノ規定スル公告ノ後九ヶ月以内第八條ニ準據シ登録サレタル外國商標ニ付テハ同條末尾ニ規定スル公告ノ後九ヶ月以内ニ出願者自身又ハ其代理人ノ署名セル請求書ヲ以テ蘭領印度ニ於テハ「パタビヤ」ニ於ケル「ラード、ファン、ユステイシー」「スリナメ」及「キュラサオ」ニ於テハ其地高等法院ニ向ケ登録無効ノ宣言ヲ請求スルコトヲ得

二 第一項記載ノ期間後ト雖モ若シ其ノ權利カ裁判判決ニ依リ明トナル場合ニ於テハ當該權利者ハ同様ノ方法ヲ以テ登録無効ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得

三 當該商標カ第四條第三項ノ規定ニ抵觸スル場合ニ於テハ本條第一項記載ノ期間以内ニ當該「ラード、ファン、ユステイシー」又ハ高等法院ノ檢事局ハ登録無効ノ宣言ヲ要求スルコトヲ得

第十一條

當該裁判所書記ハ第九條又ハ第十條所定ノ請求及第十條所定ノ檢事局ノ要求ニ付キ其都度之ヲ三日以内ニ工業所有權支局ニ通知ス

- 一 第九條第二項及第十條第一項記載ノ各裁判所ハ合議ニ依リ審判ス
- 二 第九條ニ基ク請求ニ對スル判決ハ請求者ニ於テハ當該商標ノ登録ニ對スル權利ニ關シ又工業所有權支局長ニ於テハ登録拒絕ニ關シ口頭ヲ以テ辯護スルノ機會ヲ與ヘラレタル後ニ非サレハ之ヲ爲サス請求及ヒ請求ニ對シ當該裁判所カ與ヘタル事件取扱期日ノ指定書ハ指定書日附後十日以内ニ請求者ノ名ニ於テ之ヲ支局長ニ送達スルモノトス
- 三 第十條ニ基ク請求又ハ要求ニ對スル判決ハ當該裁判所カ請求又ハ要求ニ對シテ定メタル取扱期日ニ於ケル當該商標出願者ノ審問又ハ適當ナル召喚後ニ非サレハ之ヲ爲サス裁判所書記ハ該取扱期日ヲ書面ヲ以テ工業所有權支局長ニ通知シ當該商標カ第五條ニ準據シ登録サレタルモノナル時ニ於テハ請求者又ハ檢事局ノ名ニ於テスル送達ニ依リ請求又ハ要求及定メラレタル取扱期日ニ關シ取扱期日指定書日附後十四日以内ニ之ヲ出願者ニ宛テ通知ス
- 四 當該商標カ第八條ニ準據シ登録サレタルモノナル時ニ於テハ支局長ハ海牙本局ニ宛テ請求又ハ要求ニ關スル通知ヲ爲シ又當該裁判所カ定メタル審問ノ期日ハ少クモ三ヶ月以前ニ同局ニ宛テ通知スルモノトス

五 海牙本局ハ支局長ヨリ通知ノ都度出來得ル限り速ニ「ベルン」ニ於ケル國際事務局ニ宛テ其ノ旨ヲ通告ス

六 審問ニ際シテハ請求者及第十條第三項ノ場合ニ於ケル檢事局ハ其請求又ハ要求ノ根據タル理由ヲ口頭ヲ以テ説明スルコトヲ得

七 判事ハ本條規定ノ審問ヲ終ル以前ニ其ノ判決ヲ下スヘキ期日ヲ指定ス

第十三條

- 一 判決ニ對シテハ上訴 (Hooger beroep) ヲ許サス
- 二 蘭領印度ニ於テハ判決ノアリタル日ヨリ一ヶ月以内ニ判決破棄 (beroep in cassatie) ノ訴願ヲ爲スコトヲ得訴願書ハ當該商標カ第四條ニ從ヒ出願サレ又ハ第五條ニ準據シ登録サレタルモノナル時ニ於テ利害關係ヲ有スル相手方ニ送達ス「スリナム」「及キユラサヲ」ニ於テハ判決破棄ノ訴願ヲ許サス
- 三 訴願カ商標ノ登録命令宣言ニ關スル場合ニ於テハ蘭領印度ニ於ケル工業所有權支局長ヲ以テ利害關係ヲ有スル相手方ト看做ス
- 四 支局長自ラ提起スル以外ノ判決破棄ノ訴願ニ付テハ蘭領印度大審院 (Hoog gerechtshof van

〔Netherlands India〕書記ハ三日以内ニ書面ヲ以テ之ヲ支局ニ通知ス

五 判決破棄ノ訴願カ第八條所定ノ商標ニ關スル場合ニ於テハ支局ハ之ヲ海牙本局ニ通知シ本局ハ之ヲ「ベルン」ニ於ケル國際事務局ニ通告ス

第十四條

一 植民地ニ住所ヲ有セサルモノハ第四條又ハ第七條所定ノ出願ヲ爲ス場合及ヒ第九條第十條又ハ第十三條ニ據ル願書提出ノ際ハ植民地ニ住所ヲ選定スヘシ
二 全テノ令狀ハ此場合之ヲ選定サレタル住所ニ送達ス

第十五條

一 「バタビヤ」ニ於ケル「ラード、フアン、ユステイシー」及「スリナム」又ハ「キュラサヲ」高等法院ノ判決ニ付テハ裁判所書記ハ三日以内ニ之ヲ工業所有權支局ニ通知ス
二 蘭領印度ニ於テハ判決破棄訴願ノ結果ニ付大審院書記ハ前項同様ノ通知ヲ爲ス
三 工業所有權支局ハ最終判決トナレル管轄裁判所ノ判決 (Bevestiging die in Krocht van Gowyale) 又ハ蘭領印度大審院カ主要事件ヲ判決シタル場合ニ於テハ同院ノ判決ニ從ヒ夫レ夫レ商標原簿ノ當該欄ニ其商標ヲ登録シ又ハ登録ノ無効宣言ニ付記録スルモノトス

四 登録ハ出願又ハ第八條所定ノ通達受領ノ日ニ行ハレタルモノト看做ス

五 支局ハ本條ニ規定サレタル通知カ第八條所定ノ商標ニ關スル限リ海牙本局ニ宛テ判決カ最終判決トナリタル後遲滞ナク之ヲ通知スルモノトス

六 本局ハ出來得ル限リ速ニ之ヲ「ベルン」ニ於ケル國際事務局ニ通告ス

第十六條

一 工業所有權支局ハ下記ノ事項ヲ布告スルモノトス

一 第八條ニ準據スル商標登録ノ拒絕、但シ第九條第二項規定ノ期間カ同項所定ノ請求書ノ提出無クシテ經過シ又ハ如上ノ請求書ニ對スル拒絕勅判決カ最終判決トナリタル後ナルコトヲ要ス

二 商標登録ノ無効宣言、但シ其商標ノ説明カ既ニ第六條ニ依リテ公示サレ又ハ國際登録ノ布告カ既ニ「ベルン」ニ於ケル國際事務局發行ノ「Journal」ニ附録ニ掲載サレタルモノナルコトヲ要ス

三 第十八條第一項又ハ第三項記載ノ理由ニ依ル登録ノ效力消滅

四 第五條ニ準據シテ登録サレ第二十條ニ準據シ記録サレタル商標ノ移轉

二 本條ノ規定スル布告ハ第六條第二項所定ノ特別ナル附録ニ掲載ス

第十七條

- 一 第五條及第八條所定ノ商標原簿ハ工業所有權支局ニ於テ無料ニテ一般ノ閱覽ニ供ス
- 二 希望者ハ料金を支拂ヒテ商標原簿ノ中ヨリ抄本又ハ謄本ヲ求ムルコトヲ得、其費用ハ蘭領印
度ニ在テハ歐人裁判所民事裁判費用及報酬料金第七條「スリナム」ニ在テハ民事裁判費用及報
酬料金表第二十條ニヨリ「キユラサヲ」ニ在テハ三百級音ニ付四十錢ノ率ヲ以テ計算ス
- 三 希望者ハ第五條及第八條所載ノ商標原簿ノ内容ニ關シ支局ニ對シ書面ヲ以テスル説明ヲ求ム
ルコトヲ得、此場合一盾ノ手数料ヲ要シ海牙本局ニ對シテ定ムヘキ雛形ニ準據シ工業所有權支
局ニ於テ一般ノ需メニ應スヘキ印紙ヲ以テ之ヲ支拂フヘシ、如上ノ説明ヲ與フルニ際シ尙一層
ノ調査ヲ必要トスル場合ニ於テハ希望者ハ三盾ノ手数料ヲ支拂フヲ要ス

第十八條

- 一 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ登録ノ效力ハ消滅ス
 - 一 商標權者自身ノ請求ニ依リ登録ヲ抹殺シタル場合又ハ第二十條ニ依ル移轉ヲ記録シタル場
合

二 第五條又ハ第八條ニ準據シテ登録サレタル日ヨリ二十年ヲ經過シタル場合、但シ該期間經

過前ニ登録力更新サレ又ハ更新力同一期間内ニ繰返サレタル時ハ此限リニ非ス

十三 當初登録サレタル國ニ於テ登録ノ效力ヲ消滅シタル場合又ハ登録力拒絶サレタル場合

四 一九一三年十二月三十一日以後赤十字若ハ「デニネヴァ」十字ト同一又ハ類似ノ名稱若ハ

徽章ヲ含ム全テノ登録商標

二 第一號又ハ第三號記載理由ノ一ニ依ル登録ノ效力消滅ハ其理由ヲ附シテ其商標カ登録サレタ
ル商標原簿ノ當該欄ニ記載スルモノトス

第十九條

- 一 第五條ニ準據シテ行ハレタル商標ヲ更新セムトスル者ハ前條第二號ノ指定期間終了前ニ第四
條ニ定ムル最初ノ出願ニ對スルト同様ノ手續ヲ履行スルコトヲ要ス
- 二 第四條第一項所定ノ書類提出ノ場合ニハ登録更新ノ日附ヲ附シテ之ヲ確證ス
- 三 登録ノ更新ハ其商標カ登録サレタル商標原簿ノ當該欄ニ工業所有權支局カ其日附ヲ記入スル
コトニ依リテ效力ヲ發生ス
- 四 第五條ニ準據シテ登録サレタル商標カ登録ノ更新ヲ受ケタル時ハ本條第二項所定ノ書類ノ中

- 一通ハ之ヲ三日以内ニ權利者ニ返還ス
- 五 第五條第四項及第六條ノ規定ハ登録更新ニ關シ之ヲ準用ス
- 六 第七條ノ定ムル手續ヲ經テ登録更新ノ爲メ出願サレタル商標ニ付テハ同條第三項及第四項ノ規定ヲ適用ス
- 七 第八條ニ準據シテ登録サレタル商標ノ登録更新ハ前記「マドリッド」改定規約第三條ニ規定スル通達ノ體ヲ海牙本局ヨリ受領シタル後之ヲ行フ、通達ノ體本ニハ商標原簿ニ登録カ更新サルル日附ヲ記入シテ之ヲ確證ス
- 八 第七條ニ準據シ當該植民地ニ於ケル工業所有權支局ニ宛テ出願サレタル商標ニシテ更ニ國際登録ヲ受ケタルモノノ關聯印度「スマタム」ヲハ「キニラチア」ニ於ケル登録更新ニ付テハ權利者ニ對シ出來得ル限り連ニ日附アル登録更新證ヲ下付ス
- 九 本令第十條第二項第三項及以下各條ハ之ヲ登録更新ノ場合ニ準用ス
- 十 支局ハ當該商標カ第四條第三項ノ規定ニ抵觸スル場合ニ於テハ登録ノ更新ヲ拒絕スルコトヲ得、此場合支局ハ第九條第一項ノ規定ニ準シ之カ取扱ヲ爲ス第九條第二項第十一條以下各條ハ本項ノ場合之ヲ準用ス

第二十條

- 一 第五條ニ準據シテ登録サレタル商標ノ他人ヘノ移轉ハ其ノ商標ノ表明スル商品ノ工場又ハ商館カ同時ニ同一人ニ對シテ移轉サルル場合ニ限ル
- 二 上記事實ヲ證明スル爲メニハ當該證書ノ確證アル抄本ヲ工業所有權支局ニ差出スモノトス
- 三 移轉ハ第五條ニ準據シテ登録サレタル商標ニ付テハ當事者双方又ハ被移轉者ノミノ書面ヲ以テスル請求ニ依リ又第八條ニ準據シテ登録サレタル商標ニ付テハ海牙本局ヨリ該地ニ於テ移轉カ記録サレタル旨ノ通告ヲ受領シタル後之ヲ登録面ノ欄外ニ記録ス、但シ被移轉者ノミノ請求ノ場合ニハ前項所定ノ抄本カ商標ノ移轉ヲモ併セテ明示スルコトヲ要ス
- 四 移轉記録請求者ハ第五條ニ準據シテ登録サレタル商標ノ移轉記録ニ付テハ記録請求ノ際記録手数料金十五盾ヲ支拂フコトヲ要ス

第二十一條

- 一 工業所有權支局ハ登録ノ效力消滅並ニ第七條ニ從ヒ支局ニ宛テ出願サレタル商標ニシテ國際登録ヲ受ケタルモノノ移轉登録請求ニ付遲滞ナク之ヲ海牙本局ニ通知シ本局ハ之ヲ「ベルン」ニ於ケル國際事務局ニ通告ス

二 前記商標ヲ移轉ハ若シ該移轉カ和蘭臣民ニ非スシテ前記「マドリツド」規約參加諸國ノ一ニ居住セス又ハ其地ニ善意ヲ以テ設立サレ眞實工業又ハ商業ノ營業ニ用ヒラルル工場又ハ商館ヲ有セサルモノニ對シテ行ハレタル場合ニハ之ヲ登録セス

第二十二條

一 本令施行中舊規定ニ準據シ登録サレタル商標ハ本令ニ準據シ登録サレタル商標ト同一ノ保護ヲ享ク、第十八條第二號所定ノ二十年ノ期間ハ如上ノ商標ニ對シテハ舊規定ニ據リ登録サレタル日ヨリ起算ス

二 本令第七條適用ノ爲メニハ如上ノ商標ハ第四條ニ從ヒ出願サレタルモノト看做ス

第二十三條

(一九一七年六月四日ノ勅令—印度法令一九一七年第六三七號ニ依リ削除)

(註 現在ニテハ商標權侵害ニ對スル刑罰ノ規定ハ刑法第三九三條ニ在リ)

第二十四條

本令ハ官憲ノ定ムル標章類ニ對シテハ之ヲ適用セス

第二十五條

本令施行ト共ニ一九〇八年三月二日勅令第六十二號(和蘭法令第七九號、印度法令第三六五號)及一九一〇年八月十八日勅令第三一號及第三十二號(和蘭法令第二五八號及第二五九號、「スリナム」官報第七四號及「キユラサヲ」公報第五二號)ニ依リ最後ニ變改セラレタル一八九三年十一月九日勅令第二十四號、第二五號及第二六號(和蘭法令第一五九號、第一六〇號及第一六一號、印度法令第三〇五號、「スリナム」官報第三一號及「キユラサヲ」公報第二〇號)並ヒニ當該勅令ニ支持サレタル一八八五年四月六日勅令第一三號(印度法令第一〇九號)一八九〇年二月三日勅令第二六號(「スリナム」官報第七號)及一八九〇年二月三日勅令第二七號「キユラサヲ」公報第二號)ノ各第十條ハ之ヲ廢止ス

第二十六條

本令ハ「一九一二年植民地工業所有權條例」ナル名稱ノ下ニ引用スルコトヲ得

第二十七條

本令ハ蘭領印度ニ在テハ總督、「スリナム」及「キユラサヲ」ニ在テハ知事ノ定ムル日ヨリ之ヲ施行ス(註、一九一三年法令第二一四號ニ依ツテ一九一三年三月一日ヨリ實施サレタリ)

第二項 蘭領印度ニ於ケル商標法及取締規則

蘭領印度諸島ニハ舊ニ明治二十七年即チ一八九四年一月一日以來實施セル商標條例アリ現行ノ條例ハ一九一二年十一月ノ改正ニ係ルモノナリ

該條例ノ規定ニ依ル商標ノ登録ヲ受ケタルトキハ登録ノ日ヨリ起算シ二十ケ年間其ノ效力ヲ認メラル又商標權ヲ延長スルニハ再登録ヲ申請スヘシ、斯ル時ハ更ニ二十ケ年間延長スルコトヲ得現行商標條例ノ規定ニ據レハ總テノ商標ハ其ノ貼付スヘキ商品ノ製造者ナルヲ要セス當地ニ營業所又ハ取引關係ヲ有シ該商品ヲ最初ニ輸入シタル者或ハ萬國工業所有權保護同盟條約ニ加入セル邦國內ニ居住シ又ハ營業所ヲ有シ其ノ國ノ法律ニ遵ヒ適法ニ登録ヲナシタル商標權者ニシテ一定期間内ニ其ノ登録ヲ當殖民地農工商務部(和蘭特許局支局)ニ出願スルトキハ均シク其ノ保護ヲ享クルヲ得ヘシトアリ又當殖民地政廳農工商務部(和蘭特許局支局)ニ於テ商標ノ登録ヲナシ官報ニ之ヲ掲載セラレタル後(一)蘭領東印度諸島即チ當領地内ニ其ノ使用ヲ限ラルル登録ニ在リテハ公告後六ヶ月以内(二)萬國工業所有權保護同盟條約ノ規定ニ依リ登録シタルモノハ同九ヶ月以内ニ正當所有者若ハ其他ノ者ヨリ其ノ登録取消訴訟ヲ在「バタヴィア」地方裁判所ニ提起セザルニ於テハ其ノ登録ハ確定シタルモノト見做シ同日以後當領地域内ニ於テハ何人ト雖モ該登録ニ對シ其ノ權利ヲ主張シ又ハ自己ノ名義ヲ以テ其商品ヲ當地方ニ輸入スルコトヲ得ス之レニ違背ス

ルモノハ獨リ刑法上ノ犯罪ヲ構成スルノミナラス商標專用權者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラス

當領ニ於テ登録ヲ出願シ得ル商標ハ(一)公ノ秩序又ハ風俗ヲ紊シ若クハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アル字句又ハ圖形ヲ有セサルモノ(二)皇室若クハ官、公衙ノ使用スル徽章、印章ニ類似セルモノ(三)當領ニ於テ登録濟ノ商標若クハ萬國工業所有權保護同盟條約國ニ於テ同條約第六條ニ依リ登録ヲナシタル商標若クハ第十一條ニ依リ特別ノ保護ヲ受クヘキモノト同一又ハ類似セサルモノニシテ其ノ商標カ現ニ當領ニ輸入セラレ若クハ其ノ輸入ヲ一時中止セル後未タ三ケ年ヲ經過セザルモノハ之レヲ眞ノ最初ノ輸入者ト見做シ其ノ商標ヲ登録スルヲ得登録出願手續ハ出願人ニ於テ長サ及幅一「サンチメートル」五乃至一〇「サンチメートル」厚サ二「サンチメートル」四ヲ有スル商標ノ印版一箇及出願人ノ住所、氏名ヲ記入署名シ商標ノ説明、商標ヲ貼付スヘキ商品名ヲ記入セル願書二通ヲ一商標毎ニ各別作成シ商標ノ見本若干枚及登録手数料トシテ每件十盾ヲ添へ和蘭特許局支局ヘ差出スヘキモノトス若シ商標ニ施シタル色彩ニシテ其ノ特徴トナス時ハ其旨ヲ特記シ特許局支局ニ於テ必要ト認ムル枚數ノ見本ヲ添付スヘシ

登録申請ハ又代理人ヲ通シテ爲スコトヲ得、此ノ場合ニハ申請書ニ委任狀ヲ添付スヘシ

又二人以上共同シテ使用スル商標ノ登録ヲ受ケントスルトキハ其ノ申請者カ同種ノ商事會社又ハ製造業ニ從事シ其ノ事實ヲ確認スルニ足ル證明書ヲ添付スルヲ要ス

次ニ商標條例第二條ニ依レハ一八八三年三月二十日巴里ニ於テ締約セラレタル萬國工業所有權保護同盟條約及其後ノ加盟國ニ於テ同條約第六條ニ依リ商標ヲ登録シタル後四ヶ月以内ニ在「パタヴィア」和蘭特許局支局ニ其ノ届出ヲナシタル者ハ其ノ登録當時ニ遡リ其ノ商標ヲ使用シタルモノト見做シ登録ヲ許可セラル又締盟國ニ於ケル官設又ハ官許ノ萬國博覽會ニ陳列セル物品ニシテ其ノ商標ノ保全ヲ希望スル者カ該博覽會開會後六ヶ月以内ニ當該商標條例第四條ニ依ル前顯登録申請手續ニ從ヒ和蘭特許局支局ニ其ノ商標ヲ送付シ其ノ登録ヲ出願スルトキハ其ノ博覽會開會ノ時ニ遡リ其ノ商標ヲ使用シタルモノト見做シ其ノ登録ヲ有效ナラシム但シ此ノ場合ニハ其ノ事實ヲ確認セシムルニ足ル博覽會事務局又ハ相當官衙ノ證明書ヲ添ヘテ差出スヘキモノトス

又萬國工業所有權保護同盟條約ニ據リ在「パタヴィア」和蘭特許局支局ヲ通シ登録ヲナサムトスル場合換言スレハ蘭領東印度ノ住民又ハ當領内ニ商店又ハ工場ヲ有スルモノニシテ自己ノ營業又ハ工業ヲ保護スル爲メ當領内ノミナラス萬國工業所有權保護同盟條約國ニ其ノ登録ヲ申請セムトスル者ハ特設局支局ニ差出スヘキニ通ノ他更ニ商標ノ圖形四通（内一通ハ署名ヲ要ス）商標ノ構

造ト商標ヲ貼付スヘキ商品名トヲ記セル書面一通（佛語ヲ以テ認ム若シ商標ニ用ヒタル色彩ニシテ特徴ヲ帶フルモノハ其ノ事由ヲ附記スヘシ）商標ノ印版一箇及所要ノ商標見本數ヲ添附シ登録手数料トシテ每商標蘭貨六十盾及每件三十盾ヲ添ヘ差出ス可シ若シ特許支局ニ於テ其ノ申請ヲ許可シ登録ヲナシタル時ハ特許局支局ハ出願人ヨリ納付シタル登録手数料ノ内商標一件ニ付蘭貨五十五盾又一件ヲ増ス毎ニ蘭貨二十五盾及出願人ノ提出セル商標圖形ノ内署名ナキモノ三通商標ノ構造説明書（佛文）及商標ノ見本トヲ付シ之レヲ在海牙特許局ニ送り該局ヲ通シ在「ベルン」萬國工業所有權保護同盟事務局ニ送付シ其ノ登録ヲ爲シタル回報ニ接シタル時ハ在「パタヴィア」和蘭特許局支局ハ登録濟證ヲ其ノ出願人ニ交付ス

商標權者ニシテ商標ノ保護ヲ求メントスルトキハ商標條例ノ認ムル訴願ニ據ルヘキモノトス、訴願申請人ニシテ其ノ住所ヲ蘭領印度内ニ有セザルトキハ訴願提出前蘭領印度内ニ其ノ住所ヲ定メサルヘカラス、訴願シタル者「パタヴィア」地方裁判所判決ニ不服ナル時ハ更ニ控訴院ニ控訴スルコトヲ得、但右控訴ヲ提起スルニハ原裁判ニ對スル判決アリタル後一ヶ月ヲ經過スルヲ要ス

訴願ヲ提出シ得ル場合左ノ如シ

(一) 和蘭特許局ニ於テ商標ノ登録ヲ拒絕シ又ハ萬國工業所有權保護同盟條約ニヨリ其ノ申請書

ヲ取次クヘカラサル旨ノ指令アリタルトキ申請人ニ於テ其ノ理由ナシト認ムル時ハ内國ニ在リ
テハ通達ノ日ヨリ三ヶ月以内、同盟國ニアリテハ一ケ年以内ニ「バタヴィア」地方裁判所ニ登
録ニ關スル訴訟ヲ提出スルコトヲ得

(二) 和蘭特許局支局ニ於テ登録シタル商標條例第二條ニ依ル商標權者存在スル場合即チ(イ)其
ノ登録申請人カ該商標ヲ當領内ニ輸入セシ以前ニ於テ既ニ其ノ商標ヲ付シタル商品ヲ引續キ輸
入セル者又ハ一時其ノ輸入ヲ申込ミ未タ二ケ年ヲ經過セサルモノ(ロ)萬國工業所有權保護同
盟條約第六條ニ依リ商標ヲ登録シタル後四ヶ月以内ニ當支局ニ其申請書ヲ差出セルモノ(ハ)同
條約第十一條ニ依リ同盟國中ノ一國ニ開設セラレタル博覽會ニ出品セル物品ニシテ博覽會開設
後六ヶ月以内ニ其ノ登録ヲ申請セルモノ(ニ)既ニ登録セル他人ノ商標ニ符合シ他人ノ店名ヲ
包含スルモノナル時ハ正當所有者ハ該商標ノ官報ニ公布セラレタル後九ヶ月以内ニ又萬國工業
所有權保護同盟條約ニ據レルモノハ公布後九ヶ月以内ニ本人若ハ其ノ代理人ニ於テ該登録取消
ヲ「バタヴィア」地方裁判所ニ訴願スルコトヲ得

近年日本及各國ヨリ蘭領東印度方面ニ輸出セラルル雜貨ニシテ當領ニ於テ登録セラレタル商標ヲ
不正ニ使用セルモノアル爲メ商標權者ノ利益ヲ侵害スルコト尠カラズ司法當局ハ之カ防止手段ヲ

審議シタル結果當領刑法第三九三條ヲ適用シ右違反者ニハ百盾乃至千五百盾ノ罰金ヲ課シ該商品
ノ一部若クハ全部ヲ沒收スルコトニ決定シタリ、從テ本邦當業者ハ一見偽造視サルル商品ノ引合
及輸出ハ之ヲ中止シ全然獨創的意匠ヨリ成ル商標ヲ使用シ至急之レヲ當領特許局ニ登録スルノ手
續ヲ取ルヲ可トス

一九二三年四月七日當領檢事總長カ各地方長官ニ送付シタル訓達左ノ如シ

他人カ權利ヲ有スル商標ヲ無權利者カ濫用スルタメ近時利害關係者側ヨリ當局ヘ摘發シ來ル多數
ノ抗議ニ關シ左記事項ヲ貴官ニ通達ス此種事犯ニ關スル罰則ハ刑法第三九三條ニ據ル

(一) 商品又ハ其包裝ニ他人カ權利ヲ有スル名稱、商號若クハ商標ヲ濫用シ又ハ原產地ヲ表示ス
ル目的ヲ以テ偽造ノ名稱若ハ商號ト共ニ一定地名ヲ濫用シ又縱令儘カノ相違ニセヨ模倣名稱、
商號若クハ商標ヲ附シタル商品ヲ故意ニ且明ニ再輸出ノ意思ナクシテ蘭領東印度ニ輸入、販賣、
販賣申込、引渡、分配シ、若クハ販賣又ハ分配ニ供スル目的ヲ以テ貯藏スル者ハ四ヶ月以下ノ
禁錮若クハ六百盾以下ノ罰金ニ處ス

(二) 五箇年以内ニ行ハレタル再犯ハ九ヶ月以内ノ禁錮ニ處スルコトヲ得、右條文ヲ適用シ得ル
ニハ當該違反者カ其濫用若ハ模倣シタル商標ニ關シ他人カ權利ヲ有シタルヲ認知シ居タル事實

ノ舉證ヲ必要トス

一〇九二

右認知ノ有無ハ各種ノ方法ニヨリ立證シ得ヘシ
 先ツ第一ニ極メテ著明ナル商標ニ關スル場合一商人カ其ノ商品ヲ此種商標ヲ附シテ他人ニ引渡サ
 ント試ムル際該商人カ「當該商標ニ關シ他人カ權利ヲ有スルコト」ヲ認知セスト云フカ如キハ全
 ク認容シ難キニ屬スル場合アリ得可シ若シ告訴者ニ於テ右ニ云フカ如キ著明ナル事實ヲ満足ニ舉
 證シ得ハ告訴ノ理由ハ十分ナリト思考ス以上ノ場合及自由ノ場合ヲ除キ其他ニ於テハ別種ノ證據
 ヲ求メサルヘカラス若シ此ノ證據ナクハ告訴ハ無效トナリ當該商標ノ權利者ハ關係者ニ對シ其
 使用スル商標カ登錄濟ニシテ自己ノ權利ニ屬スル旨ヲ傳ヘ注意ヲ喚起スヘシ而シテ右警告ヲ與ヘ
 タルニモ拘ハラズ相手方カ濫用ヲ繼續スル場合始メテ告訴ヲ提起シ得ヘシ
 各檢事宛一九一七年四月十八日附檢事總長達第一七四三號ハ廢止ス
 瓜哇島ニ於ケル模擬商標ノ取締法規ハ不充分ニシテ且近事此種商品ノ販賣若クハ輸入多キヲ以テ
 右制裁ニ關スル刑法第三九三條「他人ノ名稱、商號ヲ詐稱シ若クハ模擬商標ヲ附セル商品ヲ故意
 ニ輸入シ若クハ貯藏スルモノハ四ヶ月以下ノ禁錮若クハ六百盾以下ノ罰金ニ處ス但シ明ニ再輸出
 セラルルモノハ此限りニアラス」中ノ「故意」ナル字句削除方ニ關シ總督ヘ建議セル次第アリタ

ルカ最近ニ於テ模擬商標展覽會ヲ催ス等專ラ不正商品ノ販賣輸入防止策考究中ノ處十一年十二月
 九日當地關係官憲ノ評議ノ結果遂ニ之カ應急策トシテ州理事官ノ命令ニ基キ是等模擬商品ハ今後
 關係官憲ニ於テ差押フルニ内定シタル趣ナリ本邦輸入品中最モ模擬品多キハ石鹼、香水、香油類
 ニシテ甚タシキハ一見本邦製ナルヲ識別シ難キモノアリ

第三項 蘭領東印度ニ於ケル特許手續並ニ費用

一 特許期限ハ最長十五年其ノ經過後ノ期限ノ延長ハ不可能ナリ
 但シ特許出願者カ自己ノ發明意匠ニ何等カノ改善ヲ加ヘテ期限ノ全然經過セサル以前即チ十年
 目カ十三四年目ニ特許ヲ出願スル時ハ全ク新シキ出願トシテ取扱ハレ許可セラレコレ期限ヲ延
 長スル唯一ノ道也然レ共原形ノ儘ニテハ延長不可能ナル事前述ノ如シ

イ	特許出願費	七十五盾
ロ	雜費	十盾
ハ	登錄稅第一年	六盾
	第二年	六盾
	第三年各	六盾

第四、第五、第六年各	八十盾
第七、第八、第九年各	百盾
第十、第十一、第十二年各	百二十盾
第十三、十四、十五年各	百四十盾
ニ 辯護士報酬最低	百盾
ホ 特許辯護士報酬最低	二百盾
合計 最低	一千八百八十五盾

以上ノ費用ニツキテ説明スレハイ、ロハ出願ト共ニ役所ニ納ムルモノニテ、ロノ雜費ハ殘金アラハ出願者ニ返金ス、ハノ登録税ハ一時ニ支拂フ必要無ク毎年指定ノ一定額ヲ納ムレハ足ル、ニノ辯護士報酬トハ「バタビヤ」ノ辯護士ノ出願書作成ニ對スル報酬ナリ蘭領ニハ特許辯護士無キヲ以テ是非共和蘭ノ特許辯護士ヲ代理人トシテ出願セサル可カラス

又實際ノ特許事務ノ取扱及判決ハ和蘭ニテナサレ「バタビヤ」ノ特許支局ハ書類ノ取次ヲナスノミ然レ共和蘭ニ直接出願スルヨリモ支局ニ類フ方得策ナリ何トナレハ出願書ノ受取ト番號ヲ貰フヲ以テ他ノ發明者カ同一ノ發明品ヲ他ヨリ和蘭ニ直接出願スルカ如キ場合ニハ優先權ヲ生スレハ

ナリ此點ヲ除キテハ和蘭ニ直接出願スル方便利ナル可シ從テ他ノ辯護士ハ唯書類ヲ作成スルノミソノ最低代價百盾也ホノ特許辯護士報酬ハ即チ和蘭ノソレニシテ手續更ニ繁雜スル場合ソレ以上ノ經費ヲ要スルコトアル可シ

三 概略ノ特許手續キ

- イ 辯護士又ハ他ノ代理人ニ對スル書類作成ノ委任狀一通（但シ右ハ辯護士自身又ハ代理人自身カ書類ニ署名スル場合ニシテ若シ發明者又ハ出願者カ署名セント欲スル場合ニハ其必要ナシ即チ辯護士ニ作成セシメタル書類ヲ自己ノ許ニ取寄セテ署名スレハ可也）
 - ロ 特許出願書（一定ノ書式）一通
 - ハ 特許辯護士ニ對スル委任狀（一定ノ書式）一通
 - ニ 發明ニ關スル説明書三通及ヒ附圖表又ハ繪圖二通
- 以上ハ凡テ和蘭文ヲ用フルモノトス此ノ外使用スル紙ノ種類、寸法其他面倒ナル規定アレト略ス發明品ソレ自身ヲ添附スル必要アリ

第七節 蘭領東印度貨幣法

（一九一二年十月三十一日蘭領東印度官報第六一〇號）

第一條 蘭領東印度貨幣單位ヲ盾トス
一盾ヲ百仙トス

第二條 蘭領東印度法定貨幣ヲ左ノ如ク定ム

A 法定通貨ノ資格ヲ有スルモノ

一 受授ス可キ金額ニ制限ナキモノ

a 金貨、拾盾金貨、五盾金貨

b 銀貨、二盾半銀貨、一盾銀貨、半盾銀貨

二 受授ス可キ金額ニ制限アル補助貨

a 銀貨四分ノ一盾(二十五仙)銀貨十分ノ一盾(十仙)銀貨

b 「ニツケル」貨 五仙「ニツケル」貨

c 銅貨、二仙半銅貨、一仙銅貨、五厘銅貨

B 法定通貨ノ資格ヲ有セサルモノ

「デユカート」(註、和蘭ノ古金貨)

第三條 二盾半、一盾及半盾ノ銀貨ハ和蘭或ハ蘭領東印度法定銀貨ノ流通スルモノヲ回收シ之ヲ

引換ニ政府之ヲ鑄造ス

本條第一項及第二項所定二盾半、一盾、半盾、銀貨及補助貨鑄造ハ和蘭又ハ蘭領東印度法定貨幣以外ノモノノ使用ヲ禁止ス但シ貨幣ノ流通状態ニ鑑ミ必要ナル時ハ殖民大臣及大藏大臣ノ上奏ニヨリ勅令ヲ以テ之ヲ取消ス事ヲ得銀ノ購入ニ必要ナル資金ハ蘭領東印度豫算中ニ編入ス

第四條 貨幣鑄造ニヨリ得タル利益ハ鑄造費用ヲ控除シタル後國債元帳中ニ「蘭領東印度鑄貨純

益金整理口」ナル口座ヲ設ケ之ヲ整理ス純益金ヨリ得ル利息ハ本整理口ニ算入ス

前項記載ノ純益金ハ適法ニ募集サルル蘭領東印度國債ノ應募ニ充ツルヲ得

前記口座ニテ整理セル基金及前項ノ規定ニ從ヒ購入セル國債證書ハ國家カ貨幣ヲ鑄造シ改鑄ノ爲ニ生スル損失ヲ填補スル爲ニ使用ス 同口座ヨリ拂出シタル資金及國債賣却代金ハ貨幣ノ鑄造、改鑄ヨリ損失生スル場合ノ支出或ハ填補ニ充當ス可キ基金トシテ整理ス

大藏大臣カ一九〇一年度貨幣法第四條ノ權利ヲ行使スル場合ハ蘭領東印度ハ鑄造ニヨリ生シタル損失ノ一部ヲ貨幣鑄造ノ爲蘭領東印度ノ勘定ヲ以テ購入シタル銀ノ量ノ和蘭及蘭領東印度共同ノ勘定ニテ買入レタル銀ノ量ニ對スル比ヲ以テ負擔ス

但蘭領東印度ノ損失負擔ノ限度ハ貨幣鑄造ノ爲蘭領東印度ノ勘定ニテ購入シタル銀ノ量ト同

量ノ銀ヲ得ル爲ニ必要ナル金額ノ改鑄ニヨリ生ス可キ損失額迄トス
皇帝ハ本條第一項及第二項所定ノ口座ニテ整理金及國債證書及第三項所定ノ口座ニテ整理セル
額ノ計算書ヲ毎年一回國會ニ提出スルヲ要ス

第五條 第二條記載ノ拾盾、五盾金貨「デユカート」二盾半、一盾、半盾銀貨ハ各一九〇一年度
貨幣法所定ノモノニ等シ

第六條 第二條所定補助貨ノ品位、重量、直徑及品位重量ニ對スル公差次ノ如シ

種類	品位		重量		直徑
	法	定	法	定	
二十五仙	千	分	千	分	率
十仙	千	分	千	分	率
五仙	千	分	千	分	率
二仙五厘	千	分	千	分	率
一仙	千	分	千	分	率
五厘	千	分	千	分	率

種類	品位	重量	直徑
二十五仙	銀	七二〇	二
十仙	「ニッケル」	二五〇	二
五仙	「ニッケル」	七五〇	二〇〇
二仙五厘	銅	七五〇	二〇〇
一仙	銅	七五〇	二〇〇
五厘	銅	七五〇	二〇〇

第七條 補助銀貨面ノ刻印左ノ如シ

表面ニハ金高ヲ表ス文字 ¼ : G 及 ⅓ : G ノ間ニ國紋ヲ置キ蘭領東印度ナル文字、鑄造年號、
造幣局印及造幣局長印ヲ刻シ裏面ニハ馬來語及瓜哇語ニテ金高ヲ表ス

本條所定補助貨ハ圓形ニ鑄造シ縁ニ細キ刻ミヲ施ス

第八條 「ニッケル」補助貨面ノ刻印左ノ如シ

表面ニ王冠金高 5ct 蘭領東印度ナル文字及鑄造年號ヲ刻シ、裏面ニ馬來語及瓜哇語ニテ金高ヲ表
ス

同「ニッケル」補助貨ハ圓形ニシテ滑ナル縁ヲ有シ中央ニ一個圓形ノ穴ヲ有ス

第九條 銅貨面ノ刻印左ノ如シ

表面、環線内ニ國紋ヲ挟ミテ鑄造年號、上方ニ蘭領東印度ナル文字、下方ニ 2½ cent 1 cent ½ cent ナル
金高、國紋ノ兩側ニ造幣局印及造幣局長印

裏面中央ニ馬來語周圍ニ瓜哇語ニテ金額ヲ記ス

本銅貨ハ圓形ニシテ滑カナル縁ヲ有ス

第十條 每年和蘭官報及蘭領東印度官報ヲ以テ各種貨幣ノ

(イ) 政府ノ鑄造額

(ロ) 蘭領東印度ニ於ケル政府ノ回收額ヲ公告ス

第十一條 補助貨ハ左記制限額以上ノ受領ヲ拒ムヲ得

補助銀貨 拾盾「ニツケル」補助貨 五盾 銅貨 二盾

第十二條 總督ハ指定セル國庫出納所ニテ補助貨ヲ二盾半一盾及半盾銀貨ト兩替スルヲ得セシム

總督ハ必要ト認ムル時ハ出納所毎ニ銀「ニツケル」及銅ノ補助貨兩替最少限度ヲ定ム

第十三條 磨擦ニヨラスシテ重量ノ減少セル貨幣ハ國庫之ヲ受領セス又何人タリトモ之カ受領ヲ拒ムヲ得

第十四條 一 貨幣ニ偽造、贋造、故意ニ破損又ハ故意ニ變形サレタル疑アル時ハ所持人ハ之ヲ鑑定ノ爲大藏大臣ノ許ニ還附スルヲ得

公共團體ノ出納官ニシテ右ノ如キ貨幣ヲ受取リタル時ハ希望ニヨリソノ所持人ニ受領證ヲ與ヘ直チニ之ヲ所持人歐洲人又ハ同格者タル時ハ管轄地ノ裁判官ニ所持人土人又ハ同格者タル時ハ管轄地ノ地方長官ニ送付スルヲ要ス

二 裁判官又ハ地方長官ハ押收セル貨幣カ犯罪調査ノ爲ニ必要ナルヤ否ヤヲ審査ノ上必要無キ時ハ之ヲ大藏大臣ニ送付ス

三 大藏大臣第一項ノ事實ヲ認メタル時ハ當該課長之ヲ切斷シ送付者ニ返還ス

四 押收貨幣ノ送付者タル裁判官又ハ地方長官ノ希望ニヨリ貨幣ヲ原形ノ儘返還スルヲ得

五 大藏大臣ハ標示價格ヲ支拂ヒテ押收貨幣一箇ヲ保留スルヲ得、但檢事又ハ地方長官ノ異議アル時ハ此ノ限リニ非ス

押收貨幣カ不正ノモノナラスト認メラレタル時ハ同一ノ貨幣又ハ他ノ破損セサル貨幣ヲ返還ス

第十五條 政府ハ左記貨幣ヲ回收シ之ヲ改鑄ス

(イ) 鑄造不完全ナル貨幣

(ロ) 第十四條第三項記載ノモノニ非スシテ流通中ニ著シク磨滅シ貨幣面カ全然又ハ一部不明トナリタルモノ又ハ他ノ原因ニ由リ流通ニ適セサルニ至レルモノ

(ハ) 拾盾五盾金貨、二盾半、一盾、半盾銀貨ニシテ流通中ニ磨滅ノ爲右ノ如ク法定重量ヨリ減シタルモノ

拾盾、五盾金貨ニ於テハ千分ノ五又ハ其以上

二盾半銀貨ニ於テハ千分ノ十五又ハ其以上

一盾銀貨ニ於テハ千分ノ三十又ハ其以上

半盾銀貨ニ於テハ千分ノ四十又ハ其以上

回收方法ハ別ニ法令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 本法第二條所定貨幣以外ノ銀貨「ニツケル」貨、青銅貨、銅貨ヲ支拂ノ爲ニ受授スルヲ得ス

本規定ハ法令ヲ以テ規定セル蘭領東印度ノ一部ニ於テハ同時ニ指定セル貨幣ニ對シテハ適用セズ但各人ハ法貨ヲ要求スルヲ得

本法第十四條所定ノ官吏ハ其ノ資格ニテ金錢ヲ受領スル場合ハ第二條所定以外ノ貨幣ヲ受領スルヲ得ス

第十七條 第十六條違犯ニ對スル罰則ハ別ニ法令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 法令中ニ本法貨幣ト稱スルハ金額ニ制限ナク法貨タル資格ヲ有スル貨幣ヲ意味ス

第十九條 本法ハ「一九一二年印度貨幣法」ト稱ス

本法ノ施行日ハ追テ法令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ト共ニ一九〇一年一月十一日附法律（官報第三一號）ニヨリ改正セル一八五四年五月一日附（官報第七五號）法律ハ效力ヲ失フ

一八五四年（官報第七五號）ノ法律竝ニ一八五五年四月二十日（官報第一二號）一八七七年三月二十八日（官報第四二號）一九〇一年一月十一日（官報第三一號）ノ各改正法令ニ依リ流通

中ノ貨幣ハ五仙貨ヲ除キ以後法令ニ依リ其ノ流通ヲ禁セサル限り現狀ノ儘流通ス

五仙貨ハ引換期間最少限度三ヶ月ヲ與ヘタル後法令ヲ以テ定ムル時期及方法ニヨリ流通ヲ禁ス流通禁止迄ハ法貨トシテ流通ス

但本法第一一條及第一二條ハ同貨幣ニ適用ス

第八節 蘭領東印度土地關係法規

第一項 土地法 (Agrarisch Besluit)

- 一八七〇年第一一八號
- 一八七四年第七八號
- 一八七八年第七八號
- 一八九五年第一九九號
- 一八七二年第一一六號
- 一八七七年第一九六號
- 一八九三年第一五一號
- 一八九六年第一四〇號

第一 土地ニ關スル諸權利

第一條

一八七〇年四月九日ノ法律第二及ヒ第三規定ニ從フ場合ヲ除キ他人ニヨリ其ノ所有權ノ證明セラレサル一切ノ土地ハ國有地 (state domain) トスル原則ヲ維持ス

第二條 (官報、一千八百七十四年、第七一八號ヲ以テ廢止)

第三條 (官報、一千八百七十二年、第一一六條ヲ以テ改正)

前記法律第三規定ニ準據シテ土地ヲ處分スルニ當リ協議調ハサル場合ニ於テハ賠償金額ハ其土地ノ所在地ノ判事之ヲ定ム

第四條 (同上)

前記ノ法律ノ第四規定ニ依リ土人ノ相續シ得ヘキ個人的占有權ヲ所有權ニ變更スルコトニ關スル一般命令ハ朕之ヲ定ム

土地ノ所有權ヲ附與セラレタル土人ハ前記ノ法律第四規定及ヒ第五規定中ニ記載セラレタル制限

及ヒ相當賠償ノ上公益ノ爲メニ行フ收用ノ場合ヲ除キ自由ニ之ヲ享有シ且ツ自由ニ之ヲ處分スルコトヲ得ヘシ

其他ノ事項ニ關シテハ蘭領東印度統治令第七十五條ノ規定ヲ除キ蘭領東印度ニ於ケル歐洲人及ヒ之ニ準スル者ニ關スル民法ノ規定ニ從ハシメサルモノトス

第五條

前記ノ法律第五規定ニ依リ土人ノ外人ニ對シ土地ヲ貸付ケ又ハ其ノ使用ヲ許スコトニ關シ同法中ニ認めラレタル土人ノ權能ノ行使ニ關スル規定ハ出來得ルタケ速カニ命令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ而シテ當分ノ間總督ハ各場合ニ付キ蘭領東印度評議會ト協同シテ定メタル條件ノ下ニ斯ル約定ニ對シ一時的許可ヲ與フヘシ

第六條 (官報、一千八百七十四年、第七十八號ヲ以テ廢止)

第七條 (同官報ヲ以テ左ノ如ク改正)

總督ハ一般命令ヲ以テ共同牧場トシテ又ハ其他ノ名義ヲ以テ村落ニ屬セサル土地ヲ開墾スヘキ土人ノ權利ニ付キ規定ヲ設クヘシ

第二 土地ノ讓渡

蘭領東印度統治令第六十二條第二項ニ記載セラレタル小面積ノ土地ノ賣渡ハ本法ノ冒頭ニ記載セラレタル法律ノ第二規定ヲ參酌シ現行ノ命令又ハ今後總督ニヨリテ定メラルヘキ命令ニ準據シテ之ヲ執行スヘシ

而シテ此等ノ土地ハ十「バウ」(bow)ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條(官報、一千八百七十二年、第一一六號、一千八百七十四年)

第七八號及ヒ一千八百七十七年、第二七〇號ヲ以テ改正)

永小作地トシテ貸付クルコトヲ得ヘク且ツ貸付クルニ適ス國有地ハ政府ニ於テ之ヲ測量シ其事ヲ登録シ且ツ地圖ヲ作成ス

地圖ヲ作成シタル土地ノ中ニ適當ナル部分ヲ毎年凡五百「バウ」宛ノ地所トナシ且ツ七十五年間ノ永小作地トシテ提供スヘシ

特別ナル場合ニ於テハ總督ハ地所ニ付キ他ノ面積ヲ指定スルコトアルヘシ
永小作地ニハ左ノ諸地ヲ包含セス

イ 他人カ之ニ對シ權利ヲ有スル土地、但シ同人ニ於テ之ヲ放棄スルノ意向アルトキハ此ノ限

リニアラス

ロ 土人ノ神聖ト思惟スル土地

ハ 公共ノ市場ニ備ヘ又ハ公共ノ使用ニ充テラレタル土地

ホ 「チーク」(麻栗樹)及ヒ他ノ樹木ノ森林、(但シ秩序整然タルモノ)

(イ)(ロ)及ヒ(ハ)ニ記載セラレタル土地ヲ除外スルニ當リテハ周圍ノ適當ナル土地ヲ永小作地トシテ貸付クルコトヲ妨ケス但シ永小作人(Confactors)ハ除外地ニ何等ノ妨害ヲナサ、

ル義務ヲ有ス

永小作ニハ地下ニ含有セララル、礦物ヲ包含セス永小作人ハ總督府ノ特許權ニ關スル一般命令中ニ定メラレタル規則ニ準據シテ礦物ヲ採取スルコトヲ許スノ義務ヲ有ス

第十條(官報一千八百七十二年第一一六號及ヒ一千九百十二年)

第二三五號)

(一) 第九條ニ於テ記載セラレタル提供ハ公募入札ニ附スルコトニヨリ之ヲナシ而シテ應募ハ其ノ都度定ムルトコロノ一「バウ」當リノ小作料ヲ記載シ又ハ其ノ都度明確ニ定ムヘキ年額ヲ記載シ且ツ之カ爲メニ備付ケラレタル登記原簿中ニ永小作權ノ登記済前ニ其ノ都度ニ納付スヘキ年

定額ヲ記載シテ之ヲ行フヘシ

一一〇八

- (一) 所謂私有地 (particuliere landerijen) ヲ構成スル土地ニ對シ永小作權 (erfpachtrecht) ヲ附與スルニ當リテハ總督ハ國家ノ利益ノ爲メ入札ノ結果ヲ否定スルヲ得
- (二) 總督ハ之ニ國家ノ利益保障條件ノ下ニ拂下人ニ對シ第一項ニ於テ規定セラレタル金額ヲ割賦金ニテ納付スルコトヲ許スヲ得但シ如何ナル場合ニ於テモ第一回ノ割賦金ハ永小作權ヲ取得スル前之ヲ國庫ニ納付スルヲ要ス
- (三) 小作料 (pachtsum) 納付ノ義務ハ永小作權ノ登記カ其爲メ備付ケラレタル公簿ニ登記セラレタル年ノ後チ六年目ヨリ發生ス
- (四) 土地ノ明瞭ナル表示ハ申込ト共ニ之ヲ附近ノ村落ニ公示シ以テ村長及ヒ住民ヲシテ一ヶ月内ニ同伴ニ關スル彼等ノ利害關係ヲ歐人ノ地方理事官宛申告スル機會ヲ與フヘシ
- (五) 應募ハ最長四ヶ月間之ヲ開キ置クヘシ而シテ募集締切後一ヶ月内ニ總督ハ之カ許可又ハ拒絶ヲ決定スヘシ而シテ此決定ニハ許可何レノ場合ニ於テモ理由ヲ附スヘシ
- (六) 應募ノ許可ハ總督ノ定ムルトコロノ期間内ニ
- (七) 國庫ニ (in 's lande) 左ノ金額ノ納付ヲ爲ササル時ハ之ヲ取消スコトヲ得ヘシ

- 一 公募入札ニ附セル際其ノ金額ヲ公示シタル其土地ノ測量記録及ヒ圖面作成ノ費用
- 二 本條第一項ノ末段ニ記載セラレタル金額ノ全部又ハ其ノ分割拂カ許可セラレタルトキハ其ノ一回分
- ロ 請求人ニ於テ境界ノ標識又ハ劃定ノ爲メ又ハ其他ノ理由ニヨリ支出シタル費用ニシテ公募爭競ニ附セル際公示シタルトコロノモノハ必要ニ應ジ之ヲ辨償スヘシ

第十一條 (一八七二年官報第一六號及一九一二年官報第二三五號ヲ以テ改正)

左ノ者ニ限リ永小作人タルコトヲ許可ス

和蘭臣民

和蘭ノ住民

蘭領東印度ノ住民

和蘭又ハ蘭領東印度ニ於テ設立セラレタル商事會社

此規定ハ和蘭人又ハ外國人ノ入國ニ關スル條件ヲ規定セル蘭領東印度統治令第百十五條ニ基テ命令ヲ變更セス必要ナル範圍内ニ於テ今後ノ規定ヲ留保シ政府官吏ノ永小作人タルコトヲ許可スルコトニ關シテハ農業及ヒ工業ノ企畫ニ於テ彼等ノ干與スルコトニ關スル現行ノ規定效力ヲ有

一一〇九

第十二條 (官報一千八百七十二年第一一六號及ヒ一千八百九十五年

第一九九號一九一六年第六四七號)

永小作地トシテ提供セラレタル土地ニ於テハ罌粟ノ栽培及ヒ鹽ノ製造ヲ禁止ス

小作地 (erfpachtsgroenden) ニ於ケル用水工場ノ建築及ヒ此處ニ存在スル水流及ヒ水道ノ使用ニ

關シテハ總督又ハ其ノ指定ニ係ル官吏ヨリ特別ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

此許可ニハ公益ノ爲メニ訓示ヲ附加スルコトヲ得ヘシ

第十三條 (官報一千八百七十二年第一一六號及ヒ一千八百八十八年

第七八號ヲ以テ改正)

永小作ノ土地其ノ上ニ建テラレタル建物及ヒ構内竝ニ土地ノ產物及ヒ其ノ上ニ設ケラレタル工業

ノ施設ニ對シテハ之ニ現行ノ租稅又ハ將來新設セララルヘキ一般の租稅ヲ賦課スヘシ

地租 (verponding) ハ永小作地カ許可セラレタル最初ノ年及ヒ其後十年間之ヲ賦課セス

第十四條 (官報一千八百七十七年第一九六號及ヒ一千八百八十八年

第七八號ヲ以テ改正)

永小作人ノ使役ニ應スル爲メ其ノ土地ニ定住スル土民及ヒ之ニ準スル人民ニハ蘭領印度統治令第
五十六條及ヒ第五十七條ニ於テ記載セラレタル賦役ヲ課セス但シ不可抗力 (force majeure) ノ災害
ヲ避ケ又ハ一般ノ危險ヲ防止センカ爲メニ臨時之ヲ必要ト認ムルトキハ此ノ限リニアラス然レト
モ公ノ神事ノ爲メニ賦役ヲ免ルルコトヲ得ス

第十五條

永小作人ノ其他ノ權利及ヒ義務ニ關シ蘭領東印度ノ民法典ニ於ケル永小作ノ權利ニ關スル命令ハ
差異アル範圍内ニ於テ本規定ニ準據セル命令ニヨリ制限セララルヘキモノトス

第十六條 (官報千八百九十三年第一五一號一千八百九十六年第一四〇號

及ヒ一千九百十二年第二三五號及ヒ第三四九號ヲ以テ

改正

第九條ニ據リ永小作地トシテ附與スルコトヲ得ル土地ニシテ未タ總督府ニ於テ測量セサルモノ又
ハ既ニ總督府ニ於テ測量スルモ最初ノ三年間ニ於テ未タ公衆ニ提供スルノ運ニ至ラサルモノ及ヒ
之ヲ公衆ニ提供シタルモ其ノ效無カリシモノハ第十一條ノ要件ヲ具備スル個人及會社ノ請求ニ對
シ永小作トシテ之ヲ讓渡スルコトヲ得ヘシ此讓渡ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスモノトス

イ 土地カ請求人ノ計算ニ於テ土地臺帳取扱吏 (Kantler) ニ測量セラレ且ツ之ニヨリテ地圖ヲ

作成セラレタル後又ハ政府ニ於テ此等ノ事ヲナシタル費用ヲ請求人ニ於テ辨償シタル後

ロ 第十條第五項ノ要件ヲ具備シタル後

ハ 請求ニ係ル面積ニ達スル迄但シ凡ソ五百「バウ」ヲ超過スルコトヲ得ス

ニ 請求書中ニ記載セラレタル時期ノ間但シ七十五年ヲ超過スルコトヲ得ス

ホ 一「バウ」毎ニ一定ノ年小作料、永小作地上ノ植付、建物、又ハ其他ノ物ノ在リシ場合ハ

政府ノ出納局ニ納付スヘキ其賠償ニ對シテ但シ此賠償ハ永小作ノ登記前其爲メ備付ラレタル

登録原簿中ニ記載セラレタル金額又ハ第十條第三項中ニ規定セラレタルカ如キ方法ニ於テ且

ツ斯ル條件ノ下ニ割賦金ヲ以テスルコトヲ要ス

ヘ 其餘ノコトニ關シテハ第十條第四項及ヒ第十二條乃至第十五條ノ規定ヲ遵守シテ之ヲナス

ヘキモノトス

請求ニ對スル決定ハ測量カ政府ニ於テナサレタルモノニ係ルトキハ地圖並ニ請求書ヲ受取リタル

後チ三ヶ月以内ニ左ノ區別ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

イ 請求カ適法ナル規定ニ據リ否定セラレヘキトキハ内務部長之ヲ爲スヘシ

ロ 其他ノ場合ニ於テハ凡テ總督之ヲ爲スヘシ

却下ノ場合ニ於テハ決定書中ニ理由ヲ記スヘシ

島ヲ永小作地トシテ請求スルモノアルトキハ本條(イ)及ヒ(ハ)ノ規定ヲ適用セス然ルトキハ

測量及ヒ地圖作成ハ永小作地トシテ附與スルコトヨリ除外セラレタル土地ニ之ヲ制限スルコトヲ

得ヘシ總督カ請求ニ係ル土地ノ測量ノ義務ヲ一部又ハ全部免除スルトキハ總督ハ見積リタル面積

ニ基キテ小作料ノ金額ヲ定ムヘシ而シテ後ニ至リ測量ヲナスモ前定メタル小作料ニ對シ何等ノ影

響ヲ及ホスコトナシ

第十六條ノ一(官報一千九百十二年第二三五號及ヒ一千九百十二年

第三四九號ヲ以テ追加)

總督ハ左ノ規定ヲ否定スルノ權能ヲ有ス

イ 小作料ノ納付開始附近ノ村落ニ於ケル公示及ヒ既ニ以前永小作地トシテ附與セラレ又ハ既

ニ全部又ハ一部耕作セラレタル土地ヲ永小作地トシテ附與スルニ當リ地租ノ免除ニ關スル第

十條及ヒ第十三條ノ規定

ロ 所謂私有地ニ屬スル土地ヲ永小作地トシテ附與スルコトニ關スル第十六條第二項(ハ)及

第十七條 (官報一千八百七十二年第一六號ヲ以テ改正)

蘭領印度統治令第六十二條第三項ニ依リテナシタル土地貸付ノ契約ハ此規定ニ準據シ借受人ノ請求ニ基キ總督之ヲ永小作權ノ讓渡ニ變更スヘシ但シ其變更カ總督府ノ利益ニシテ且ツ一般ノ利益ニ反セサル場合ニ限ル

本條ニ記載セラレタル土地ニ對シテハ小作料又ハ地租ヲ免除セス

第十八條 (同上第一一六號ヲ以テ改正)

第九條ニ據リテ除外セラレサル土地ハ小ナル別墅又ハ別莊ヲ設置センカ爲メニ第十一條ノ要件ヲ具備スルモノニ對シ請求ニ依リ永小作地トシテ之ヲ讓渡スルコトヲ得ヘシ但シ小作料ノ納付ハ地租又ハ是ニ替ハルヘキ税金ノ最高額ニ之ヲ均シカラシメ且ツ第十三條及ヒ第十四條ヲ適用シ總督ニヨリテ定メラルヘキ其他ノ條件ニ從フコトヲ要ス
此等ノ地所ハ各五十「バウ」ヲ超過スルコトヲ得ス

第十八條ノ一 (官報一千九百四年第三二五號ヲ以テ追加)

貧シキ歐洲人及之ニ準スル者ノ小農耕作又ハ園藝栽培ノ爲メニハ請求ニ依リ必要ナル範圍内ニ限

第十六條ニ抵觸セサル範圍内ニ於テ其都度定メラルヘキ規程ニ準據シ第九條ニヨリテ除外セラレサル土地ヲ永小作地トシテ讓渡スコトヲ得ヘシ

第十八條ノ二 (官報一千九百十六年第六八三號ヲ以テ追加)

總督ハ第九條、第十條、第十六條、第十六條ノ一、第十七條及ヒ第十八條ニヨリ附與セラレタル權能ヲ全部又ハ其一部ヲ州政府ノ長官ニ委任スルコトヲ得ヘシ

第二項 蘭領東印度ニ於ケル永小作權

○政廳直轄地

(甲) 永小作權許與ニ關スル法規

元來蘭領東印度ニ於テハ土人ノ耕作地ニモ非ス又一般牧場ニモ非ス村有地又ハ部落所有地ニモ非ル土地ニシテ農耕ニ適スルモノハ個人ノ農業用トシテ賃借ヲ許スコトトナリ居レリ然レトモ短期間 (最長二十箇年、椰子樹栽培四十箇年) ノ賃借ハ本來其ノ土地ヲ抵當トシテ貸出セル開拓用借入資金ノ回收ヲ確實ナラシムルニ至ラサリシ事實ヨリ起レル不便缺點アリシ爲遂ニ一八七〇年四月九日最初ノ土地法 (austriatische wet) 蘭國議會ヲ通過スルニ至リシカ該法律ニ基キ命令ニ依リテ定メラレタル細則 (一八七〇年七月二十日發布ノ土地勅令並ニ該勅令ニ基キ發布セラレタル

殖民地令 (kolonial ordonnance) に依ルハ土地ハ七十五年ヲ限り永小作權 (erfpachtrecht) ヲ許與セラルル事トナレリ而シテ永小作權許與ノ權限ハ總督ニ存在スルモ總督ハ必要ナル場合ニ於テハ其ノ權限ノ一部又ハ全部ヲ内務部長官ニ委任スルコトヲ得ルモノトス

前記土地勅令中主ナル條項ハ永小作權許與ニ適當スル官有地ノ測量記述及製圖ヲ政廳ニ於テ施行スヘキ事竝ニ年々此部分ノ土地中約五百「バウ」宛ニ區劃セラレタル若干ノ地區 (政廳ノ裁定ニ依レハ一測量書ニ依リ表示サルヘキ各地區ハ最高五百五十「バウ」限リトス) ヲ限り永小作權ヲ許與スヘキ旨及政廳ハ之ヲ一般公衆ニモ告示スヘキ事はナリ然レトモ本條項ハ獨リ爪哇「マヅラ」ニノミ有效ナリシモノニシテ最初嚴格ニ之ヲ勵行シタリシモ永小作權許與ノ結果甚タ不満足ナリシニヨリ該勅令上認めラレタル出願ニ依ル借地權ノ放棄相次テ起ルニ至レリ外領ニ於ケル官有地ニ付テハ諸州ニ於ケル永小作權ノ許與ハ元來土地法及土地勅令ノ原則ニ依リ殖民地令ヲ以テ規定スル所アリシカ一九一四年該殖民地令ハ廢止セラレ新ニ外領官有地令發布セラレ同時ニ永小作權者ノ權利義務ハ一九一三年十二月十五日發布ノ殖民地令ニヨリ爪哇及「マヅラ」ニ對シ定メラレタルト同様ノ標準ニ依リ認定セララルルニ至レリ尤モ當事者タル永小作權者ノ同意ニ依リ既ニ實行セラレ居ル永小作權ニ基ク諸條件ハ該權利ニ關シテハ依然有效ノモノト認めラレタリ

目下 (乙) 永小作權者ノ權利義務

前記命令及鑛山法ニ依リ定ムル條件以外官有地永小作權者ノ權利義務ハ蘭領東印度民法第二編第八章ノ規定ノ適用ヲ受クルモノナリ今是等諸規定ニ依リ其權利義務ノ範圍ヲ示セハ左ノ如シ

- (一) 永小作權者ハ其使用ニ供スル爲石、粘土、其他之ニ類スル土地從屬物ニシテ現實ニ鑛業ノ目的タラサル物ヲ發掘シ又ハ開鑿スル權利ヲ有ス但當局者ノ鑛物試掘或ハ採掘又ハ政廳ノ許可或ハ特許ノ下ニ之ニ從事スルモノアルトキハ之ヲ許容スル義務アルモノトス
- (二) 永小作權者ハ自己ノ栽植セルト否トヲ問ハス各種ノ樹木又ハ植物ヲ自由ニ處分スル權ヲ有ス但契約上反對ノ明文アル場合ハ此ノ限リニ非ス
- (三) 永小作權者ニシテ其年度ニ於ケル上納期經過後二週間内ニ國庫ニ向テ借地料ヲ納付セザルトキハ罰金ニ處セラレヘシ
- (四) 永小作權者ニシテ其權利ヲ他人ニ移轉セントスルトキハ内務部長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ其納付スヘキ借地料並ニ罰金ヲ權利移轉ノ年度ヲ通シテ上納セル者ハ此限リニ非ス
- (五) 永小作權ヲ拋棄セントスル者ハ總督又ハ内務部長官ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
- (六) 永小作權者ハ左ノ場合ニ於テハ其權利ヲ喪失スルモノトス

- (1) 三年間引續キ借地料ヲ支拂ハサル場合又ハ政廳ノ許與セル三ヶ月ノ猶豫期間内ニ之ヲ支拂ハサル場合
 - (2) 永小作權者カ一定期間内ニ其借地ノ一部ヲ耕作スヘキ義務アル時政廳ニ於テ之ヲ爲ササリシモノト認定シタル場合
 - (七) 永小作權者ニシテ其永小作權ヲ他ニ移轉シ又ハ其土地ノ經營ヲ代理人ニ委任シタル時ハ一ヶ月以内ニ其旨ヲ借地所在地ノ地方長官ニ届出ルコトヲ要ス若シ之ヲ怠ル場合ニハ百盾以下ノ罰金ニ處セラレヘシ
 - (八) 永小作權者ハ其借地上ニ水道工事ヲ建設スル場合竝ニ其附近湧泉、流又ハ水道ヨリ流水ヲ使用スル場合ハ特許ヲ受タルコトヲ要ス
- 要スルニ永小作權ノ許與ハ概シテ土地ノ荒廢ヲ防止シ之ヲ大農用ニ供スルヲ目的トスルモノニシテ此主義ハ前ニ認めラレ居リタルニ拘ハラズ近時ニ至ル迄法規上積極的ニ之ヲ規定スルニ至ラザリシナリ然ルニ今ヤ政廳ハ一般ニ土地ヲ農業用ニノミ供スヘキコトヲ命スルニ至レリ
- 蘭領東印度ニ於テハ左ノ資格ヲ有スル者ノミ政府所有地ノ永小作權ヲ享有スルコトヲ得

(一) 和蘭臣民

(二) 和蘭本國住民

(三) 蘭領東印度住民

(四) 和蘭本國又ハ蘭領東印度ニ於テ設立セラレタル會社又ハ組合

但外領ニ於テハ蘭領東印度内ニ設立セラレサル法人又ハ會社ニ付テハ相當ノ代表者ヲ外領内ニ置クコトヲ要ス又永小作權所有者ノ死亡セル場合ニ權利承繼人ヲ直ニ承繼手續ヲ完了シ能ハサル場合ハ其永小作權認定ニ關スル法律上ノ故障ヲ除去スルニ必要ナル措置ヲ取ル爲財産歸屬ノ時ヨリ起算シ一ケ年間ノ猶豫ヲ與ヘラルルモノトス此場合ニ於テハ政廳ハ會社又ハ組合ニ付テハ之ヲ法律上ノ權利ヲ有スル道德的團體ト看做ス

(丁) 永小作權取得手續

永小作權ヲ認ムル地ノ一般の提供ニ付テハ官報又ハ多數新聞紙ニ告示ヲ爲シ該提供最低入札價格所定條件等ニ關シ詳細ナル規則ヲ公表スヘク而シテ此種ノ提供ハ當局者ノ施行セル地方的調査ノ結果ニ基キ之ヲ爲スモノトス

官有地永借ノ申請手續ハ二箇ノ訓令ニ依リ規定セラル一ハ瓜哇及「マヅラ」ニ於ケル官有地ニ關

スルモノニシテ他ハ外領ニ於ケル官有地ニ關スルモノナリ該訓令ニ依レハ瓜哇及「マヅラ」ニ於ケル永借地貸下ノ申請書ハ蘭領東印度總督宛ニ地方長官ヲ經由シ差出スヘク同申請書ニハ貸下申請地ノ位置及境界ヲ記述シ申請者ノ費用ヲ以テ土地臺帳ヲ標準トシテ作製シタル測量書又ハナルヘク明白ナル略圖ヲ添附スルヲ要ス尙一申請中ニ包含セラルヘキ永借地面積ノ最高限ニ關シテハ何等一定ノ規定ナキモ測量書ニハ五百五十「バウ」以下ノ土地ヲ表明スヘキモノトス

地方長官申請書ヲ受理ノ日附ヲ記入シ及署名ヲナシタル後ハ之ヲ常設委員會ノ議ニ附スルモノニシテ該委員會ハ永小作權申請ニ關スル地方審査ノ任務ヲ有スルモノトス

同申請書ノ提出ニ對シ何等重大ナル故障(例ヘハ土地ノ既定使用又ハ既定ノ目的ニ關スルカ如キ)ナキ場合ハ永小作地申請ノ件ヲ其土地所屬村落又ハ附近村落ニ公告シ之ニ對シ異議アル場合ハ村民一ヶ月内ニ其趣旨ヲ申立ツヘキ旨告知スヘシ此期間中常設委員會ハ地方審査ヲ行フヘク其際申請人ハ自ら其申請地ノ境界ヲ指示シ又ハ代理人ヲシテ之ニ當ラシメ以テ其審査ヲ援助スル義務アルモノトス

委員會ノ意見ハ公報ヲ以テ之ヲ報告シ該公報中ニハ關係地方人民ヨリ申立アル異議、永借地貸下ニ關スル同委員會ノ意見、特別條件ノ提案、其正當ト認ムル借地料年額(永借地ノ地質及位置ニ

依リ之ヲ決定セルモノ)等ヲ掲載ス而シテ地方長官ハ內務部長官ヲ經由シ意見ヲ附シテ前記公報ヲ總督ニ送達スヘク又必要アル場合ニハ他ノ關係諸課長(灌溉區域ニ關シ)ヨリノ意見竝ニ林務官(木材補充ニ關シ)ノ意見ヲモ附スルモノトス斯クテ永借地申請ハ必要ニ限り他ノ關係部局ノ意見ヲモ參酌シタル後命令ヲ以テ之ヲ決定スルニ至ル

永小作權ノ申請ニシテ永借地ニ關スル訂正用略圖ヲ提出スルニ止マル場合ハ之ニ對スル許諾ハ單ニ一時的性質ヲ有スルニ過キス而シテ該許諾ハ實際訂正又ハ完成セラルル事アルヘキ現行諸法規及土地勅令ニ定メラルル諸條件ノ下ニ銓衡中ノ貸下地永借權ヲ許與スヘキ政廳ノ同意ヲ表示スルモノニシテ此許諾ニ件ヒ申請ハ一定期間(普通ハ六ヶ月トシ必要ノ場合ニハ之ヲ延長スルコトヲ得)内ニ土地永借ノ申請書ト共ニ測量書ヲ提出スルヲ要スルモノトス前記一時的許諾アリ申請人ノ交渉ニ基キ關係人民ニ要求額ノ補償ヲ支拂ヒ測量費ノ供託ヲ當該地籍登記所ニ上納シ必要ナル永久的境界標設定セラレ且測量上必要ナル境界線ノ開拓又ハ掃除施行セラレタル以後常設委員會ノ委員ハ測量師ヲ件ヒ永小作權申請地ニ至リ以テ其測量區域ノ正當ナルヤ否ヤヲ確メ又其果シテ政廳カ永小作權許與ヲ爲サントスル土地ナルヤ否ヤヲ明ニスルト同時ニ該許與ニ關シ必要ナルヘキ他ノ諸要件ニ付報告書中ニ陳述スル意見ノ決定ニ便ヲ得セシムルモノトス

然レトモ永小作權申請書ニ貸下地ヲ圖解セル測量書ヲ添附スルトキハ前記ノ略圖作製ハ省略セラレ政廳モ一時的借地權許諾ノ代リニ直ニ永久的性質ヲ有スル永小作權許與ヲ爲スモノトス而シテ申請人ハ該測量書ヲ確定的永小作權申請書ト共ニ地方長官ニ差出ストキハ同長官ハ必要書類(林務官ノ意見、第二回調査報告書竝ニ自己ノ意見等)ヲ添へ内務部長官ヲ經由シテ政廳ニ送達スヘシ尙永小作權ノ確定的許與書ニハ蘭領東印度民法典中ノ關係規定以外ニ許與權利ニ適用セラレヘキ諸法令全部ヲ記載シ永小作權許與條件殊ニ該權利ニ對スル受諾ヲ該許與アリタル以後六ヶ月以内(但必要アル場合ハ更ニ之ヲ延長スルコトヲ得)ニ爲スヘキ事ヲ明白ニ記述スル所アリ前記一時的又ハ確定的永小作權許與ハ何レモ權利者ニ土地使用權ヲ附與スルモノニ非ス此種ノ權利ハ永小作權設定上保存セララルル公ノ登記簿ニ之ヲ登録シタル後始メテ發生スルモノトス而シテ永小作權申請ニ關スル總督府令ノ重要ナル部分ハ永小作權取得者ノ名義ニ於テ之カ設定ヲ爲セル永小作權證書ニ充分記載セララルルヲ常トス尙永小作權申請者ニ於テ直ニ土地開墾ヲ開始スル必要アル時之カ申請ヲ爲ス場合ハ内務部長官ヲ經由シテ其許可ヲ與ヘラルルコトアルヘシ

○外領地

外領地ニ於ケル永小作權ニ關スル申請モ上述セル瓜哇及「マヅラ」ニ於ケルト略々同様ニ取扱ハ

ル然レトモ政治ノ組織兩者稍異ルカ爲主トシテ左ニ掲タルカ如キ差異アリ

- (一) 凡テ申請書ニハ五千「バウ」以上ヲ記載スヘカラサルコト
- (二) 永小作權ノ許與ハ原則トシテ一要件ヲ具備セル略圖ニ依ルコト即チ土地カ測量部ヨリ入手シ得ヘキ詳細圖ニ記載セララルル州内ニ存在スル場合ハ該地圖ニ依リ又ハ其正確ナル寫ニ依リ申請地區ヲ明白ニスルヲ要スヘク又當該地方ノ地圖ナキ場合或ハ信用スヘキ地圖ナキ時ハ特別ノ注意ヲ拂ヒテ同地區ニ境界石ヲ設置スヘク何レノ場合ニ於テモ申請地ノ境界ヲ完全ニ明白ナラシムルコトヲ要スルコト
- 尙測量書ハ内務部長官ノ指定スル諸州又ハ其一部分ニ於テノミ要求セララルヘク尙同部長官ノ意見ニ依リ申請地ノ小區域ニ付テモ必要アル場合ハ之ヲ要求セララルコトアルヘシ
- (三) 地方長官ハ申請人ニ對シ文書ヲ以テ一期限内ニ道路ヲ掃除スヘキ旨通告シ以テ常設委員カ該土地ノ地方的測量ヲ爲スニ便ナラシムルコト
- 前記ノ期限ハ充分餘裕アル様定メラルルト雖其間他ニ同一土地ノ一部又ハ全部ノ永借ヲ申請スル者アル場合ハ一回限リ該期限ヲ延長スルコトヲ得ルコト
- (四) 永借地權ハ豫メ一時的許與ノ方法ニ依ラス總督府令ニ依リ之ヲ許與スヘク而シテ該權利

受諾ノ期間ハ該府令發布ノ日附以後普通一ケ年ト定メラルコト

(五) 一般ニ「パウ」ニ付一盾以下ノ割合ニ依リ年々一定額ノ借地料ヲ課スルニ當リテハ略圖上ノ區域ニ從ヒ之ヲ定メ該定額ノ變更ハ爾後ノ測量ニ依リ政廳ノ同意アル場合ニ限り之ヲ爲シ得ルコト

但特別ノ場合殊ニ小區域ノ土地ニ對シテハ借地料ハ一層高額ニ之ヲ課シ得ルコト

尙瓜哇「マヅラ」及外領ニ於テハ夫々最初ノ五年又ハ十年間法律上借地料又ハ地租ヲ免除スル事ヲ得ヘシト雖申請地カ既ニ永借地タリシ場合又ハ其一部又ハ全部カ耕作セラレ居ル場合ニハ總督ハ本規則ノ適用ヲ中止スル權限ヲ有ス

○瓜哇「マヅラ」以外ノ外領ニ於ケル自治州内ノ土地 蘭領東印度政廳カ自治州内ノ一般事務ニ干涉スルハ其自治ニ關スル政治的規約ニ明定セル規則ニ基クカ又ハ斯ル規約ノ目的ニ根據スル者ニシテ殊ニ農業上ノ利益ノ爲ニ所謂農業借地權ノ許與ヲ爲スカ如キハ其干涉ノ主ナルモノトス即チ或自治州内ニ於テハ地方長官ノ認可ヲ條件トシテ自治州自ラ其許與ヲ與ヘ又他ノ自治州内ニ於テハ總督ノ名義ヲ以テ地方長官之ヲ附與ス而シテ後者ノ借地權ニ付テハ借地人ハ之カ爲ニ定メラレタル一定期間内ニ必ス其受諾ノ意思ヲ表示スヘキモノトス

政廳直轄ニ屬スル「スマトラ」東海岸州ヲ除キ農業借地ニ關スル申請ハ前述セル外領地ニ對スル永借權申請ト同様ナルモ此ノ場合ニ於テハ借地人ハ州廳(又ハ地方廳)所在地ノ事務所内ニ其住所ヲ選定スルヲ要スルモノトス農業借地ハ農業ニ適スル借地内ニ於テ之カ經營ヲ爲スノ約束ヲ包含ス尙借地區ノ一部ハ往々私有地ヨリ成立スル事アリ斯ル場合ニ於テ該所有者ノ希望ニ依リ該部分ハ其自由處分ニ委セラレヘク又或場合ハ借地人ニ於テ私有地ノ擴張ヲ爲スヲ認容スル事ヲ要ス又農業借地ヲ國家ノ使用ニ供スル必要アル場合ハ無償ニテ之ヲ國家ノ自由處分ニ供スヘキモノトス尙政府又ハ第三者ニ於テ爲サル礦物ノ試掘行爲及土地所有者カ自己ノ利益ノ爲ニスル地區使用ノ認容竝ニ農業的企業上必要ナル爲農業借地内ニ現存スル木材ノ處分權等ニ關シテハ前記永借地權ノ場合ニ於ケルト略々同一ノ規則適用セラレ居レリ

農業借地證書内ニ掲ケラルル諸規則ハ當事者ニ對シ有效ナル事勿論ニシテ此證書ノ結果紛議發生シタル場合ニハ人民ノ利益ニ關係スル以上地方長官之カ裁決ヲ與フヘク此以外ノ場合ニ於テハ仲裁裁判所ノ判決ヲ仰クヘキモノトス

年々ノ借地料ハ一「ヘクター」(約我一町步)ニ付普通一盾以上トシテ此以下ニ借地料ヲ引下タル場合ハ政廳ノ許可ヲ要ス尙農業借地ノ面積ハ政廳ノ認可アリタル場合ノ外五千「パウ」以